

### 第三款 身體選擇ノ方法

身體選擇ノ方法ハ之ヲ二種ニ別チ一ヲ醫的選擇一ヲ非醫的選擇ト爲スコトヲ得前者ハ人體ノ生理病理ニ通曉セル特別ナル技術家即チ醫師ヲシテ被保險者タラント欲スル者ノ身體ヲ検査セシムルモノニシテ後者ハ至ク醫師ノ助力ヲ俟タス接見ニ依リテ健否ヲ鑑別シ或ハ被保險者ヲシテ其健康ヲ誓約セシメ或ハ又加入後一定期間内ノ死亡ニ對シテ保險金ヲ支拂ハサル契約上ノ制裁ヲ以テ選擇ヲ行フモノナリトス而シテ普通ノ生命保險ニ於テハ嚴重ナル醫的選擇ノ外ニ健康ノ誓約ヲ要求シ又往往本人ノ接見ヲ必要トスルモ簡便生命保險ニ於テハ極メテ稀ニ簡易ナル醫的選擇ヲ行フ會社アレトモ一般ニ非醫的選擇ヲ用ヒ即前記三種ノ方法ヲ竝セ行フコトトセリ

健康ノ誓約竝ニ停止期間ノ設定ハ之ヲ自動的選擇ト言フヲ得ヘク醫的選擇竝ニ被保險者ノ接見ハ之ヲ他動的選擇ト稱スルコトヲ得ヘシ自動的選擇ハ保

險者ヲシテ被保險者ノ拒否ヲ決セシムルノ標準ヲ示スモノニ非ス被保險者タラント欲スル者カ不健全ナル場合ニ或ハ良心ノ上ヨリ健全ナリト誓約スルヲ得ス又良心ニ反シテ之ヲ誓約スルモ後ニ其虛偽ナルノ發見セラレルニ於テハ契約ノ無効ナルコトヲ恐レ若クハ又縱令加入スルモ一年二年ト言フカ如キ停止期間内ニ死亡スルトキハ何等ノ支拂ヲ受クル能ハサル事實アルカ爲メニ被保險者自身カ選擇ト淘汰ヲ行ヒ保險者ヲシテ過大ナル危險ヲ負ハシメサルノ結果ヲ現ハスノミ故ニ強弱ニ由リテ保險上ノ價值ヲ決定スルカ如キハ固ヨリ不可能ナリ

他動的選擇ハ之ニ反シ保險者カ他ノ身體ニ接近シテ之ヲ行フモノナレハ理論上有ラユル選擇ノ目的ヲ遂クルヲ得ルモノナレトモ非醫者ノ接見ノ如キハ到底完全ナル選擇ヲ行フ能ハサルモノニシテ醫的選擇ノ方法ヲ以テ最效力ノ優レタルモノト爲ササルヘカラス而シテ醫師ノ手ニ依リテ行ハルル選擇ノ方法ヲ別チテ又身體觀查ト身體診查ノ二種ト爲スコトヲ得

#### 第四款 身體觀查 (Medical inspection)

身體觀查ハ主トシテ米國ノ簡便生命保險會社ノ行フ所ノ方法ニシテ被保險者タラントスル者ノ容貌血色頭髮體格體質營養狀態呼吸眼光舉動言語應對等ノ有ラユル外部ノ表現ヲ特種ナル技術的知識ヲ以テ觀察シ其健否乃至其保險上ノ價值ヲ定メ時ニ依リテハ詐欺隱蔽換玉等ノ不正ヲ發見スルノ方法ナリ例ヘハ顔面蒼白ニシテ羸瘦ヲ極メタル者ノ如キハ一見ニシテ不健全ナルヲ知ルヲ得ヘシト雖トモ緒顏肥滿ニ過キタル者モ亦卒中ノ恐アルヲ以テ歡迎スルヲ得ス頭髮ノ脱落セルハ梅毒ニ非スヤ其亂離シテ眼光急噪ノ狀ヲ呈スルハ精神病者ニ非スヤ呼吸切迫ノ狀アルハ心臟ニ異狀アル者ニ非スヤ言語ノ曖昧ニシテ舉動ノ不審多キハ詐欺ヲ企ツル者ニ非スヤ是等ハ熟練ナル保險醫ノ直チニ看破スルコトヲ得ル所ニシテ此種ノ理論ト技術力發達スルニ至ラハ生命保險ノ選擇上ニ非常ナル便宜ヲ得テ經費ノ節約ヲ圖リ募集

ノ困難ヲ減少セシムル等其利益多大ナルヘシ

#### 第五款 身體診查 (Medical examination)

身體診查ハ今日普通ノ生命保險ニ於テ一般ニ行ハルル所ノ綿密ナル身體検査ニシテ之ヲ望診觸診及ヒ檢診ノ三段ニ別ツコトヲ得望診ハ前款ノ身體觀查ト一致シ醫師ノ技術的望見ニ依リテ先ツ鑑定ヲ行フノ法ナリ昔時ノ生命保險ニハ素ヨリ醫師ヲ用ヒス「アミケーブル」ハ勿論「イクイテール」モ創立ヨリ凡百年間ハ非醫者ノ熟練ナル望見ニ依リテ契約ノ決定ヲ爲シ而モ大過ナカリシナリ然ルニ人情澆季ニ赴キ詐欺ノ手段ヲ盡シテ尙保險ニ加入セント欲スル者ノ多キニ至レル今日ニ於テハ非醫者ノ望見ハ固ヨリ隱微ナル缺點ヲ發見スルニ足ラス是ヨリシテ斯業ニ醫師ノ參同ヲ請ヒ非醫者ノ望見ハ醫師ノ望診ト爲リ尙進ンテ觸診檢診ヲ行フニ至レルナリ

觸診ト稱スルハ打診聽診竝ニ身長體重胸圍腹圍等ノ發育狀態ノ測量ヲ包含

シ打診聽診ノ範圍ニ於テ醫師ノ本領タル診斷上ノ知識カ最善ク發揮セラルルナリ而シテ發育狀態ニ關シテハ數百千人ノ統計ニ基キ標準ノ重量尺度アリ之ト比較シテ合格不合格ヲ決定スルモノトス檢診トハ尿便咯痰等ノ排泄物ノ化學的及ヒ檢微鏡的檢査ヲ行フノ謂ニシテ特ニ多額ナル保險金ノ申込ニ對シ若クハ望診觸診ノ外ニ遺レル疑問ヲ解カンカ爲メニ行フ所タリ而シテ是等診査ノ三階段ニ關スル詳細ノ研究ハ固ヨリ保險醫學ノ範圍ニ屬スルヲ以テ茲ニハ之ヲ説カサルヘシ

身體診査ハ此ノ如ク被保險者タラントスル者ノ自身竝ニ其現在ノ健康狀態ニ就テノミ行ハルルモノナリト雖トモ人類ノ死亡ニ臨メル危險ノ程度ハ獨リ自身ノ本質竝ニ其現在狀態ノミヲ以テ決定セラルヘキモノニ非ス尙左ニ掲クル諸種ノ事情ニ支配セララルモノトス

### 一 遺傳

疾病ノ遺傳ハ吾人ノ命壽ニ恐ルヘキ危害ヲ加フルコト多シ肺結核腦溢血

精神病癩腫糖尿病梅毒癩病等ノ血族ニ遺傳スルモノタルハ世人ノ知ル所ニシテ父母祖父母兄弟姉妹子孫等ノ近親間ニ是等ノ疾病多キ者ハ縱令現今健全ナリトスルモ壽命ノ上ニ於テ少カラサル危險アリトス

### 二 傳染

疾病ノ傳染モ亦大ニ恐ルヘキモノニシテ何病ニ依ラズ總テ傳染病ニ感染シ易キ體質ハ特ニ注意スヘキモノナルカ配偶者ノ關係ハ最重要ナルモノニシテ肺結核梅毒癩病等ハ配偶者ヲ侵スコト頗ル多シ故ニ傳染病ヲ有セル家族ニ屬セル者ハ被保險者タラシムルニ危險ナリ

### 三 病歴

病歴トハ本人ノ既往ニ於ケル疾病ノ歴史ヲ謂フモノニシテ麻疹天然痘ノ如キハ人類ノ畢生中一回ハ必ラス之ニ罹ルヘキモノニシテ已ニ之ヲ經過セシ者ハ該病ニ對シテ免役性ヲ有スルヲ通常トス然レトモ未タ之ヲ經過セスシテ成年ノ後ニ侵サルルトキハ其結果甚危險ナリ故ニ是等ヲ經過セ

ス又種痘ヲ施ササルカ如キ者ハ警戒セサルヲ得ス腺病癩麻質斯呼吸器病肺炎肋膜炎子宮病ノ如キハ之ニ罹レル者一旦ハ全治スト雖トモ將來ノ抵抗力ヲ減殺シ或ハ再發ノ憂アルカ故ニ危險ノ度ヲ高ムルコト大ナリ

#### 四 職業

職業カ人類ノ命數ヲ支配スルモ亦頗ル明白ナル事實ニシテ軍人警官等カ他ノ安穩ナル職業ニ比シテ危險多キハ勿論劇烈ナル勞役ニ服シ若クハ甚シク精神ヲ勞スル職業ノ種類例ヘハ車夫辯護士ノ如キハ比較的短命ナリ又製造場ノ職工ニハ肺結核多ク鑛山ノ工夫ニハ非業ノ傷死多キカ如キ内外ノ危險ヲ考察セサルヘカラス普通生命保險會社ハ皆危險ナル職業ニ對シテ保險料増加若クハ保險金削減ノ方法ヲ行フコトヲ其保險案内約款等ニ明定セリ

#### 五 住地

人家稠密ニシテ製造工場等ノ多キ繁華ナル都府ハ不健康ナル分子多キカ

故ニ其住民カ空氣清透ナル山間廣野ノ住民ニ比スレハ死亡率ノ高キコト統計ノ善ク證明スル所ナリ勿論此ノ如キ差違ハ比較的些末ノ事ニ屬スルヲ以テ保險者ノ不問ニ付スルコト多シト雖トモ氣候ノ著シキ相違又ハ開明ノ程度ノ甚シク下級ナル邦國ニ旅行シ又ハ居住スルカ如キハ人命ノ危險ニ影響スルコト鮮少ナラス溫帶ニシテ開化セル社會ノ住民ハ概シテ長壽ニシテ寒熱兩帶ノ人民ハ夭死ナルカ如シ

#### 六 生計ノ狀態及ヒ嗜好習慣

富者ハ概シテ美味ヲ食ヒ寒暖ニ從ヒテ衣ヲ備ヘ一朝疾病ニ罹ルニ及ヒテモ直チニ名醫ヲ聘シテ療養ニ手段ヲ盡スカ故ニ死亡ノ災ヲ免ルルコト多シト雖トモ貧困者ハ之ニ反シ常ニ不自由ニ生活シテ營養充分ナラサルノミナラス病ニ遭ヒテモ適當ナル醫療ヲ加フルヲ得ス或ハ又無教育ノ結果迷信ニ陷リ神佛ニノミ依頼シテ藥用ヲ爲サス衛生ヲ怠リ消毒ノ法ヲ知ラス一人流行病ニ罹ルトキハ一家枕ヲ竝ヘテ之ニ斃ルルカ如キ慘狀ヲ見ル

コトアリ

嗜好モ亦生命ノ長短ト至大ナル關係ヲ有シ酒類ヲ多ク飲用スル者亞片ヲ好ム者等ノ頗ル危険ナルハ固ヨリ喫煙モ亦其甚シク多量ナル者ニ至リテハ警戒セサルヘカラサルナリ  
暴飲暴食就眠ノ不規則ナル習慣ノ如キハ健康ヲ害スルコト大ニシテ放蕩者流無配者ノ如キ時トシテ此危険ナル習慣ニ陥ルコト無シト言フヘカラスアルモ殊ニ甚シキハ節操ヲ鬻ク婦人ニ存シ是等ハ保險者ノ往往拒絕スル所トナレリ

保險醫ハ被保險者タラントスル本人ノ身體ニ就キテ綿密ナル身體診査ヲ行ヒタル上尙上記數項ノ事實ヲ調査シ生命ノ階級ヲ凡ソ左ノ如クニ定メテ之ヲ會社ヘ薦告スルモノトス

- 一 所定ノ保險料ヲ以テ契約スヘキ者
- 二 條件ヲ以テ契約スヘキ者

甲 保險料ヲ増加シテ契約スヘキ者

イ 保險料ノ割増ヲ爲ス場合

ロ 保險料ノ上ヘ保險金ノ幾百分ヲ増加スル場合

ハ 年齢ヲ増加シテ之ニ對スル所定ノ保險料ヲ以テ契約スル場合

乙 保險種類ヲ變更シテ契約スヘキ者

丙 年限ヲ短縮シテ契約スヘキ者

丁 保險金額ヲ減シテ契約スヘキ者

三 再診スヘキ者

四 謝絶スヘキ者

所定ノ保險料ヲ以テ契約スヘキ者トハ體質強健ニテ現在疾病ナク良好ナル血統ニ出テテ且既往ニ恐ルヘキ罹病ノ經歷ナキモノニシテ生命保續上毫モ支障ナキ所謂善良ノ生命ト體質特ニ強剛ト言フ能ハサルモ又缺點ト稱スヘキ處ナク或ハ曾患アリシト雖トモ全瘉シテ毫モ其痕跡ヲ遺サス身體諸部ノ

器質官能調整シ又遺傳ノ素因ヲモ認ムヘカラサル普通ノ生命ヲ有スル者ニシテ再診スヘキ者トハ主トシテ現在疾病ノ兆候アルカ爲メニ快癒ヲ待チテ再ヒ診査スヘキモノヲ指スト雖トモ時ニハ又一回ノ診査ヲ以テハ決定ヲ與フル能ハサルカ爲メニ時ヲ隔テテ之ヲ再ヒスルコトアリ而シテ謝絶スヘキ者トハ危険ノ甚シクシテ契約ニ適セサル者ナリ是等ノ決定ヲ爲スハ比較的ニ容易ナリト雖トモ條件ヲ以テ契約スヘキ者ノ條件ノ決定ヲ爲スハ稍困難ニシテ複雑ナル問題ニ屬ス何トナレハ條件ヲ以テ契約スルハ普通以下ノ生命ニシテ之カ平均ノ健康ヨリ如何ナル程度ニ於テ劣レルヤヲ測定スルコト至難ナレハナリ而シテ其程度ノ甚シク懸隔セル者ハ第一章生命保險ノ種類ヲ説クニ當リテ掲ケタル弱體保險ノ範圍ニ屬シ更ニ特種ノ研究ヲ要スト雖トモ普通ヨリ稍降リタル生命ニ就テハ其程度ト其性質ニ應シテ諸種ノ條件ヲ提供シ以テ加入ヲ許容スルコトトセリ先ツ保險料ヲ増加スルニ就テ其一割又ハ五分ヲ増加スルカ如キヲ割増ト云ヒ二十歳ノ者ヲ二十五歳ノ保險料

ヲ以テ契約スル如キヲ五年増ト稱シ共ニ血屬中ニ肺結核ニ因リ死亡シタル者アル場合ノ如キニ之ヲ用フルヲ常トシ女子ニ對シ娩産ノ危険ノ爲メニ保險金ノ二百分ノ一ヲ増加シ男子ニ對シ兵役義務中戰爭危険ニ備フル爲メ保險金ノ千分ノ一又ハ二ヲ増加スルカ如キ又他ノ一例ナリ保險種類ヲ變更スルハ例ヘハ終身保險ノ申込ヲ養老保險ニ變更セシムルカ如ク年限ヲ短縮スルハ三十年滿期養老ノ申込ヲ二十年滿期ノ契約ニ短縮セシムルカ如ク共ニ保險料ノ自然ナル増加ヲ行ヒ又特種ナル遺傳ノ危険例ヘハ卒中癌腫等ノ疾患ノ通常發作スヘキ年齢ニ達スル前ニ契約ヲ終了セシムル爲メナリ而シテ保險金額ヲ減少セシムルハ絶對的危険ノ問題ヨリハ寧ロ關係的ノ危険例ヘハ身分ニ比シテ多額ニ過クルカ如キ場合ヲ顧慮シテ之ヲ試ムルナリ是等ノ方法ト程度ヲ定ムルハ獨リ保險醫學ノ至難ナル領域タルニ止マラス統計竝ニ數理ノ精覈ナル考量ト計算ヲ以テ處理セサルヘカラサル者ニシテ「アクチュアリー」トノ共同職務ナリトス

### 第六款 身體診查ノ機關

生命保險事業ニ於ケル身體診查ノ機關ハ診查醫及ヒ主任醫ノ二者ヨリ成立ス前者カ躬ラ各箇ノ被保險者ニ接シテ其身體ヲ診查シ診查報狀ト稱スル報告書ヲ調製シ之ニ意見ヲ付シテ會社ヘ報告スルトキハ後者ハ之ヲ審査シテ斷定ヲ下シ拒否又ハ條件ノ如何ヲ會社ノ理事者ニ薦告スルモノトス而シテ斯業ハ通常廣キ地域ニ亘リテ多數ノ被保險者ヲ得サルヘカラサルカ故ニ診查醫モ亦多數ナラサルヘカラス其雇聘統率等ハ生命保險事業ニ附隨セル至テ重要ナル問題ナリ而シテ主任醫ハ番ニ普通保險診斷上ノ知識ニ於テ勝レルノミナラス醫的統計ノ方面ニ通曉シ又多數ナル診查醫ヲ統御シ之ヲ心服セシムルノ地位ト閱歷ヲ要ス此最後ノ要求ハ一見奇異ニ似タレトモ診查報狀ナルモノハ本來一片ノ書面ニテ診查醫カ主任醫ニ對スル尊敬ト信用ノ念ヲ懷カサルニ於テハ或ハ不慎重ナル記載ヲ爲シ或ハ主任醫ヨリノ質問ニ對

シ冷笑ヲ以テ真正ナル復讐ヲ與ヘサルカ如キ場合少カラス此ノ如キニ處シテハ主任醫ノ效力殆ント之ナキト同一ニ歸セサルヘカラサルナリ  
 次ニ又診查醫ヲ別チテ社醫ト囑託醫ノ二種ト爲スコトヲ得前者ハ會社ヨリ一定ノ俸給ヲ受ケ之ニ專屬シテ被保險者ノ診查ニ從事スル者ニシテ後者ハ自己ノ業務ニ從事スル傍會社ノ依託ヲ受ケテ之ヲ行ヒ箇箇ノ診查料ヲ受クル者ナリ會社ハ其利益ノ上ヨリ孰レヲ採リテ其醫務機關ヲ構成スルヲ適當ナリトスルヤニ就テハ左ノ事項ヲ考察スルヲ要ス

#### 一 費用ノ多寡

社醫ニハ診查ノ有無ニ拘ハラス常ニ其資格ト技倆ニ相當セル報酬ヲ給セサルヘカラサルコトト社醫ハ通常會社ヨリ各地ヘ派遣セララルカ爲メニ旅費日當ヲ要スルコトト診查醫ノ專業ハ醫師トシテ比較的ニ愉快ト報酬少キカ爲メニ俸給額比較的ニ高カラサルヲ得サル等ノ理由ニ因リ社醫ノ制ハ費用ヲ要スルコト囑託醫ニ比シテ頗ル大ナリ西洋諸國ニ於テハ殆ン

ト社醫ヲ用フルコトナク我邦ニ於テモ全部社醫ヲ用フル會社ハ一二ニ過キサルナリ

## 二 診查ノ確實

診查ノ確實ハ第一醫師ノ技倆ニ依ル此點ニ就テ社醫ト囑託醫ノ優劣ヲ判スルニ我邦ノ如キ醫師ノ資格ニ非常ナル懸隔アル所ニ於テハ先ツ會社ノ選擇シテ特ニ保險診查ノ知識ヲ授ケタル社醫ヲ優レリトセサルヘカラス然レトモ地方ノ事情ニ通シ被保險者ノ血統病歴等ニ關スル知識ヲ有スルコトハ囑託醫ノ屢社醫ニ勝ル所アルカ故ニ保險詐欺ヲ防クニハ却テ囑託醫ヲ用フルヲ可ナリトスル場合アリ診查ノ確實ハ第二ニ醫師ノ會社ニ對スル忠實ノ程度ニ繫ル此點ニ就テハ社醫ハ會社ノ一員ナルカ故ニ常ニ會社ノ味方タリ囑託醫ハ地方的感情又ハ顧客關係ノ爲メニ寧ロ被保險者ノ利益ヲ思フコト無シトセス故ニ社醫ヲ勝レリトスルヲ一般ノ理論トス然レトモ實際ニ於テハ一時腰掛的ノ社醫ハ必シモ會社ニ忠實ナラス長ク地

方ニ居住シ永ク會社ノ囑託ヲ受ケテ診查ニ從事シツツアル信用アル囑託醫ハ決シテ會社ノ不利ヲ謀ルモノニ非サルナリ

以上ノ事情ヲ考察秤量シ信用アル囑託醫ヲ選擇シテ之ニ依頼スルトキハ費用ヲ節スルト同時ニ診查ノ確實ヲ得又善ク詐欺ノ侵入ヲ防クヲ得ヘシ然レトモ診查醫ノ決定ハ其社醫タル場合ト囑託醫タル場合トヲ問ハス募集員ノ請託ニ影響セラルルコト甚大ナルヲ忘ルヘカラス募集員ニモ固ヨリ忠實ナルト然ラサル者アルヘシト雖トモ苦心慘憺ノ結果募集シ來レル被保險者カ診查ノ結果不合格ニ屬スル如キ場合ニ如何ニ失望ヲ極ムヘキヤ勢診查醫ニ嘆願シ或ハ之ニ強請シテ決定ノ結果ヲ動かサシメント欲シ診查醫モ亦交誼ト人情ノ上ヨリ往往其請託ニ動かサル場合ナキヲ保セス故ニ選擇ノ確實ヲ得ント欲セハ獨リ診查醫ノ選擇ニ注意スルノミナラス又之ト募集員ノ關係並ニ募集員ノ任用ニ著目セサルヘカラサルナリ

(身體選擇ノ方法效力社醫ト囑託醫ノ長短等ニ關シテハ拙著簡便生命保險論



第一四九頁乃至第一九〇頁及ヒ第二六四頁乃至第二六九頁ニ詳説アリ參照ヲ請フ)

## 第五章 生命保險ノ契約關係

生命保險ノ契約ニ關スル事項ノ研究ハ保險法ノ領域ニ屬シ本書ノ目的トスル所ニ非スト雖トモ生命保險ノ制度ニ集合セル各員カ如何ナル方法ニ依リテ如何ナル程度ノ利益ヲ享受スルヤ其出資以外ニ如何ナル義務ヲ有スルヤ等之ヲ換言スレハ現今ノ進歩シタル保險制度ヲ各人ノ利用スル狀態如何ヲ示スニ就テハ勢契約關係ノ一斑ニ論及セサルヲ得サルナリ

國家ノ權力ニ依テ強制セラルル所ノ保險ヲ除キ現今任意ニ保險制度ヲ利用シテ不測ノ災害ニ對スル自衛ノ用意ヲ試ミント欲スル所ノ者ハ皆保險契約ト稱スル法律行爲ノ形式ニ於テ之ヲ爲ササルヘカラス保險契約ハ又保險事業其者ニ於ケルカ如ク營利的保險契約ト非營利的保險契約ノ二種ト爲スコ

トヲ得前者ハ營利ヲ目的トスル保險者ト締結スル所ノ契約ニシテ即チ商法ニ於テ謂フ所ノ保險契約タリ後者ハ事實上營利ヲ目的トスル保險者ナル者無クシテ唯保險ニ依リテ自己ノ利益ヲ保護セント欲スル者カ集合シテ保險團體ヲ作り又ハ之ニ加入スルノ行爲ニシテ此行爲ヲ相互保險契約ト稱ス而シテ相互保險ニ在リテモ亦形式上ノ保險者ハ存在シ保險契約者ノ組織セル相互保險會社ハ即チ之ニ當ル者ナルヲ以テ相互保險契約ハ兩面ノ性質ヲ有シ之ニ依リテ社員關係ト保險關係ト二者ヲ生セシムルト云フコト曩ニ説明シタルカ如シ

然リ而シテ此保險關係ニ於テハ相互保險契約モ商行爲タル保險契約ト殆ント同一ニシテ我商法第四百十八條ニモ其保險契約ニ關スル總テノ規定ヲ其性質ノ許ササル場合ノ外相互保險契約ニ準用スル旨ヲ明言セリ而シテ是レ固ヨリ一般ノ保險契約ニ於テ然ルモノニシテ獨リ生命保險ニ就テ言フニ非スト雖トモ相互保險ノ最善ク利用セラルルハ社會ニ於ケル殆ント總テノ階

級ヲ網羅シ且被保險者カ最永ク其保險團體ト關係ヲ繼續スヘキ生命保險ニ在リテ存シ海上保險運送保險ノ如キ殆ント船主又ハ商賈ニ限ルカ如キ狹隘ナル區域ニ制限セラレ火災保險ノ如キ至テ短期ニシテ通常一年限リナル保險關係ヲ作ル所ノ種類其他之ニ類似ノ保險ニアリテハ相互保險ノ便益少クシテ多クハ敏活輕便ナル商業的保險組織ニ依リテ行ハルルヲ以テ特ニ此處ニ於テ一言シタルナリ

却說今吾人カ自己又ハ第三者ノ生命ニ就テ保險契約ヲ締結セント欲スルトキハ其希望スル所ノ會社ニ就キテ申込書用紙ナルモノヲ請求シ之ニ保險ヲ受クヘキ本人即チ被保險者ノ氏名住所年齡職業現在健康ノ狀態既往ノ著患血族關係他會社又ハ同一會社トノ既契約ノ有無保險ノ種類保險金額保險金受取人ノ氏名住所之ト被保險者ノ關係如何等總テ申込書用紙ノ上ニ於テ會社ノ問フ所ノ事項ヲ記載シ被保險者ト共ニ其眞實ナル旨ヲ誓約シ署名捺印ノ上之ヲ保險會社ヘ提出スルトキハ普通ノ場合ニ於テハ會社ハ診査醫ヲ派

シテ被保險者ヲ診査セシメ再診謝絶ノ場合ハ之ヲ措キ然ラサル場合ニハ保險契約者ヘ通常ノ保險料又ハ條件ヲ以テ契約ヲ承諾スヘキ旨ヲ通知シ保險契約者ヨリ第一回保險料ノ拂込ヲ受ケテ茲ニ保險契約ニ對スル責任ヲ負フニ至ルモノトス而シテ此契約ノ成立ニ因リテ向後兩對手カ如何ナル權利ト義務ヲ有スルヤハ逐一之ヲ說述スルノ繁ニ失スルヲ恐レ次ニ予カ最近ノ起稿ニ成レル普通保險約款ヲ掲載シテ之ニ依リテ普通生命保險契約ノ内容ヲ窺知セシメント欲ス普通保險約款トハ保險會社カ一般ノ契約者ニ對シテ提供スル共通ナル契約條項ノ謂ニシテ左ニ掲クルモノハ養老保險ニ關スルモノナリ而シテ簡便生命保險ニ在リテハ曩ニ再三述ヘタル如ク醫師ヲシテ極メテ簡易ナル外形的觀察ヲ行ハシムルコト無キニ非サルモ多クハ全ク醫師ノ診査ヲ省略シテ之ニ換フルニ契約後一年乃至二三年ノ停止期間ヲ設ケ其間ノ死亡ニ對シテハ全ク保險金ヲ支拂ハス或ハ一部ノ支拂ヲ爲シ或ハ傳染病急病傷死等ニ對シテノミ何時ニテモ保險金ノ全額ヲ支拂フカ如キ規定ヲ

設ケ不可爭條項ノ利益ヲ擴張シ保險料ノ月掛半月掛每週掛等ヲ許ス等總テ簡易輕便ノ方向ニ其條款ヲ設定スルトキハ全體ニ於テ大差ナキヲ以テ特ニ之カ契約關係ヲ記述セサルヘシ

養老保險普通保險約款

第一節 總則

第一條 當會社ノ保險契約上ノ責任ハ保險契約者ヨリ第一回保險料ノ拂込ヲ受ケタルトキヨリ始マルモノトス

第二條 當會社ハ被保險者カ保險期間ノ終期ニ至リテ生存セルトキ又ハ其以前ニ死亡シタルトキ保險金ノ支拂ヲナスモノトス

第二節 保險料

第三條 保險料ハ其第一回分ヲ支拂ヒタル日ヨリ起算シテ每一箇年分ヲ前金ニテ拂込ムヘキモノトス

當會社カ每半箇年又ハ每三箇月ニ分割シテ保險料ノ拂込ヲ承諾シタル場

合ト雖モ當會社ハ其一箇年分ニ對スル請求ノ權利ヲ失ハサルモノトス

第四條 保險料ハ保險期間ノ終期ニ至ルマテ繼續シテ支拂フヘキモ被保險者カ其以前ニ死亡シタル場合ニハ以後之ヲ支拂フコトヲ要セサルモノトス

第五條 保險料ハ保險契約者ヨリ當會社ノ本社出張所又ハ代理店ヘ拂込ムヘキモノトス

第六條 保險料ノ拂込ハ期日若クハ其以前ニ之ヲ爲スヘキモノトス  
但期日後三十日ノ猶豫期間ヲ附與シ其間ニ被保險者カ死亡スルモ當會社ハ保險金支拂ノ責ニ任スヘシ此場合ニ於テ當會社ハ其年度ニ屬スル保險料ヲ徵收ス

保險料ヲ期日ニ拂込マサルトキハ一日一萬分ノ四以下ノ利息ヲ徵收ス

第三節 保險金ノ支拂

第八條 被保險者カ死亡シ保險金受取人カ保險金ノ支拂ヲ受ケント欲スル

トキハ死亡證明書又ハ死體檢案書及ヒ被保險者竝ニ保險受取人ノ戶籍謄本ヲ保險金請求書ニ添エテ差出スヘシ當會社ハ必要ト認メタル場合ニ其  
他ノ證明書類ヲ要求スルコトヲ得

第九條 保險期間ノ終期ニ達シ被保險者カ生存セル場合ニハ被保險者ハ保險金請求書ニ其戶籍謄本ヲ添エテ當會社ヘ差出スヘシ

第十條 當會社ハ前二條ノ書類ヲ調査シタル上異議ナキトキハ該書類カ當會社ヘ到達シタル日ヨリ二十日以内ニ保險金ノ支拂ヲ爲スヘシ

第十一條 保險契約者又ハ保險金受取人カ被保險者ノ死亡ヲ知リタルトキハ速ニ之ヲ當會社ヘ通知シ且六十日以内ニ第八條ノ書類ヲ當會社ヘ差出スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當會社ハ醫員ヲ派シテ被保險者ノ檢屍ヲ行ハシムルコトヲ得

#### 第四節 保險契約無効ノ場合

第十二條 左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ無効トス

- 一 保險契約者又ハ被保險者カ保險申込ノ際重要ナル事實ヲ告ケヌ又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキ
- 二 保險申込ノ後第一回保險料拂込以前又ハ第二十二條ニ依ル保險契約ノ復活以前ニ於テ被保險者ノ身體ニ異狀ヲ生シタルコトヲ當會社ヘ通知セザリシトキ
- 三 被保險者ノ年齢カ保險申込ノ際當會社ノ保險料表ニ掲ケタル年齢ノ範圍外ナリシトキ

#### 第五節 保險契約失効ノ場合

第十三條 左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

- 一 保險料ノ拂込遅延シテ猶豫期間ヲ經過シタルトキ
- 二 被保險者カ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキ但當會社ニ於テ被保險者カ死亡シタリト認メタル場合ヲ除ク

第六節 保險金支拂ノ責ニ任セサル場合

第十四條 左ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險金支拂ノ責ニ任セス

一 被保險者カ自殺決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ

二 保險契約者又ハ保險金受取人カ故意ニ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ

三 保險契約者又ハ保險金受取人カ故ナクシテ第十一條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同第二項ノ檢屍ヲ拒ミタルトキ

第七節 保險金ノ削減

第十五條 左ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險金額ノ十分ノ一ヲ削減シテ支拂フモノトス

一 被保險者カ熱帶地方ニテ死亡シタルトキ

二 被保險者カ陸海軍又ハ警察ノ職務司獄官航海鐵道漁獵又ハ鑛山ノ事務機械汽罐電氣又ハ火藥ヲ取扱フ事業ニ從事シ之カ原因ト爲リテ死亡

シタルトキ

第十六條 被保險者ノ年齢錯誤ニ因リ拂込保險料ニ不足アルコトヲ發見シタル場合ニハ其不足額ノ比例ヲ以テ保險金額ノ削減ヲ爲スヘシ

第八節 戰爭危險

第十七條 當會社ハ戰爭ニ因スル死亡ニ對シテハ保險金支拂ノ責ニ任セス

ト雖トモ保險契約者カ平時ニ於テ保險契約ノ當時ヨリ毎年保險金ノ千分ノ二ニ當ル特別保險料ヲ拂込ムカ又ハ戰時ニ方リテ當會社ノ指定スル特別保險料ヲ拂込ム時ハ當會社ハ保險金支拂ノ責ニ任スヘシ  
但平常陸海軍ノ職務ニ從事セル者ノ戰爭ニ因スル死亡ニ對シテハ第十五條ノ規定ヲ併セ適用スルモノトス

第九節 保險契約ノ解除

第十八條 保險契約者ハ何時ニテモ保險契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 被保險者カ任意ニ例ヘハ未開地探檢風船試乗ノ如キ著シク危險

ナル所業ヲ行ハント欲スルトキニハ其旨ヲ當會社へ通知スヘシ此場合ニ當會社ハ保險契約ノ解除ヲナシ又ハ此所業ニ因スル死亡ニ對シテ保險金支拂ノ責ニ任セサルノ旨ノ特約ヲ爲スコトヲ得

第十節 保險料ノ返還

第二十條 保險契約無効ノ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ當會社ハ既收保險料ヨリ其十分ノ二及ヒ保險金額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ控除シ其殘額ヲ保險契約者ニ返還ス

第二十一條 保險契約ノ解除失効又ハ當會社カ保險金支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テハ該保險期間ノ終期ニ至ル年數ノ十分ノ一以上保險料ヲ拂込ミタル者ニ限リ當會社ハ該契約ニ對スル責任準備金ヨリ其十分ノ一及ヒ保險金額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ控除シ其殘額ヲ保險契約者ニ返還ス但第十四條第二號ノ場合ハ之ヲ除ク

第十一節 保險契約ノ復活

第二十二條 保險料ノ拂込遲延シテ猶豫期間ヲ經過シ之カ爲メニ保險契約ノ效力ヲ失ヒタル後ト雖トモ尙三箇月以内ニシテ被保險者ノ健全ナリト認メラルル場合ニ限リ當會社ハ契約ノ復活ヲ承諾スヘシ但第六條ニ定メタル遲延利息ノ外ニ保險金額ノ千分ノ三ニ當ル手数料ヲ徵收ス

第十二節 保險料ノ自動的拂込

第二十三條 保險料ノ拂込遲延シテ猶豫期間ヲ經過シタルトキト雖トモ該契約ニ對シ第二十一條ノ返還金アル場合ニハ當會社ハ之ヲ延滞保險料ニ充テ其殘額カ一回分ノ保險料ニ不足ヲ告グルマテ保險契約ノ效力ヲ失ハサラシム

但保險契約者ニ於テ此取扱ヲ受クルヲ欲セサルトキハ猶豫期間ノ經過セサル前ニ其旨ヲ當會社へ通知スヘキモノトス

第十三節 不可爭條項

第二十四條 滿五箇年繼續シタル契約ニ對シテハ當會社ハ第十二條第一號

及ヒ第二號ノ場合ニ於ケル契約ノ無効ヲ主張スルコトナシ  
契約復活ノ事實アリタルトキハ此期間ハ最後ノ復活ノトキヨリ起算スル  
モノトス

第十四節 拂濟證券

第二十五條 保險期間中保險料ノ拂込ヲ停止シ尙契約ヲ繼續セント欲スル  
者ニ對シテハ該契約ニ就テ存スル責任準備金ノ全部ヲ一時拂保險料トシ  
テ之ニ相當スル保險金額ト變更スヘシ

第十五節 利益金分配

第二十六條 當會社ノ保險契約ニシテ滿三箇年繼續シタルトキハ其保險契  
約者ハ當會社ノ利益金分配ニ與ル權利ヲ有ス  
利益分配金ハ每事業年度ノ終ニ於テ當會社定款ノ規定ニ從ヒ總利益金ノ  
十分ノ一以上ニ當ル金額ヲ該年度末ニ於テ利益分配ヲ受クヘキ權利アル  
保險契約ニ對シ其年拂保險料ノ比例ヲ以テ保險契約者ヘ拂渡スモノトス

利益金又ハ剩餘金分配ノ方法ニ就テハ前章ニ詳述セルヲ以テ茲ニハ唯一  
例トシテ株式保險會社ニ於ケル毎年利益分配ノ規定ヲ掲ケタルナリ

第十六節 保險證券擔保貸金

第二十七條 當會社ハ保險契約者ノ請求ニ因リ該保險契約ニ對スル第二十  
一條ノ解約返還金カ五十圓以上ニ達セル場合ニ限リ保險證券ヲ擔保トシ  
テ年六朱ヲ超エサル利子ヲ以テ其以内ノ金額ヲ貸付クヘシ但其返濟セラ  
レサル以前ニ於テ保險金其他ノ支拂ノ事由カ發生シタルトキハ當會社ハ  
支拂フヘキ金額ノ内ヨリ貸金ノ元利ヲ控除スヘシ

第十七節 附則

第二十八條 保險申込書ニ記載セラレタル事項ノ變更其他ノ事由ニ因リ保  
險證券ノ書換又ハ再交付ヲ求ムルトキハ手数料トシテ金二十錢ヲ徵收ス  
第二十九條 保險契約者被保險者又ハ保險金受取人カ當會社ノ定時總會ニ  
於ケル決算ニ關スル決議書ノ謄本又ハ抄本ヲ求ムルトキハ實費ヲ以テ之

ヲ交付ス

## 第六章 生命保險事業ノ代理機關

凡テ保險事業ハ廣キ範圍ニ亘リテ多數ノ被保險者ヲ得サルヘカラサル中ニ就テ最善ク此目的ニ適合シ得ルハ生命保險ナリトス即チ火災保險海上保險等カ繁華ナル都府資產家又ハ商賈等ニ限リテ利用セラルルニ反シ生命保險ハ都市ト邊陲ヲ問ハス山間ト海濱ヲ論セス士農工商ヲ通シ貧富ノ差違ニ拘ハラズ普ク需要ヲ發見スヘキモノナルカ故ニ各所ニ數多ノ機關ヲ設置スルノ必要最多シ此機關ハ即チ會社ノ支店出張店及ヒ代理店ニシテ其權限ノ大小及ヒ本社トノ法律上ノ關係ニ於テ差違アリトスルモ皆本社ニ代リテ被保險者ノ募集ヲ爲シ保險契約ノ締結ヲ媒介シ保險料ヲ集メ其他保險契約者又ハ保險金受取人ト保險會社トノ間ノ交渉ヲ取次クモノトス此機關ヲ代理人エージェントト稱シ西洋諸國ニ於テハ常ニ專門ノ職業ニシテ總代理人ゼネラルエージェントト稱シ

通常代理人オルディナリーエージェント竝ニ下級代理人サブエージェントノ區別ニ依リテ地位待遇責任等ノ差違アリトスルモ皆一ノ會社ニ隸屬シ紹介料プロモーショント稱スル新契約ニ對スル報酬竝ニ集金手数料コミッショント稱スル繼續契約ニ對スル報酬ヲ受ケ總代理人ノ如キニハ往往又會社ヨリ少カラサル手當ヲ給シテ一方ニ於ケル會社ノ代表者タルノ體面ヲ保持セシムルコトアリ通常代理人ト雖トモ永ク會社ノ爲メニ盡瘁シタルトキハ恩給付與ノ如キ優遇ヲ受クルコトアリ又ハ支配代理人マネージングエージェントト稱シテ地方ノ支店長出張店長ノ如ク社務ノ一部ヲ委任シテ相當ノ報酬ヲ與フルコト無キニ非ス是等人士ノ選定待遇配置監督及ヒ操縦ハ生命保險事業ノ經營中至重至大ノ事項ニシテ其當ヲ得ルト否トハ明ニ會社ノ盛衰ニ關係ヲ及ホスモノナルヲ以テ孰レノ邦國ニ於テモ生命保險會社ノ當局者ハ皆此問題ノ講究ニ苦心焦慮セリト雖トモ我國ノ現況ニ於テハ更ニ數層ノ難問アリ請フ少シク之ヲ説カン

第一 代理店ト募集員ノ竝立



西洋諸國ニ於テモ現今ノ代理人ハ前述ノ如ク一會社ニ專屬スル純然タル活動家ナリト雖トモ數十年前ニ於テハ各地方ニ於テ稍名望ヲ有スル商人又ハ銀行者ニ之ヲ委託シ彼等ハ其本業ノ傍ラ會社ノ爲メニ盡力スル所アリシナリ而シテ我國ノ現狀ハ恰モ此時代ニ屬シ斯業ノ創始日未タ淺クシテ地方人士ノ保險思想更ニ發達セス會社ノ設立亦至テ新ニシテ世人ノ信用ヲ博スルニ至ラサル間ニ在リテハ自然各地方ニ於ケル資産家又ハ名望家ヲ利用シ其信用ヲ藉リテ加入者ヲ得サルヘカラサルヨリ到ル處代理店ナル者ヲ設置シ資産家名望家ニ請ヒテ之ヲ引受ケシムルト雖トモ彼等ハ殆ント皆其名義ヲ借スノミニシテ躬ラ活動斡旋スルコト無キヲ以テ會社ハ勢其使用人ヲ派遣シ之ヲシテ加入者ヲ募集セシメサルヲ得ス之ヲ募集員外交員外勤社員等ト稱シ東奔西馳實際斯業開拓ノ業ニ從フ者ハ即チ彼等ナリ是ニ於テカス業ノ募集機關代理機關トシテハ代理店ト募集員ノ二者竝立シ其選定操縦ノ困難ヲ倍蓰セサルヘカラサルノミカ二者往往互ニ

衝突シテ業ヲ會社ニ及ホスコト少カラス況ンヤ之カ爲メニ多大ノ費用ヲ要スルニ於テヲヤ是レ第一ニ斯業者ノ解決セサルヘカラサル難問題ニシテ漸漸此ノ如キ分業ヲ廢シ多少尊信スヘキ人格ヲ有シ且實際活動シテ常ニ一地方ニ於ケル會社ノ重鎮タル代理人ヲ得ルノ方針ニ向ハサルヘカラス而シテ斯業ノ發達スルニ從ヒテ此方針ヲ實行スルコト決シテ不可能ノ事ニ非サルナリ

## 第二 代理店ニ適スル資産信用竝ニ教育ノ兼備セル者ヲ得ルノ困難

代理店ハ親ラ募集ニ從事セサルマテモ保險契約者ノ信用ヲ有スル者ナラサルヘカラス而シテ又本社ニ代リテ保險料ヲ徵收シ保險金解約返還金等ノ拂渡ヲ取扱フ者ナルカ故ニ資産ナキ者ニ委託スヘキニアラス且常ニ保險契約者竝ニ一般世人ノ質疑ニ對シテ生命保險ノ組織方法等ヲ説明シ會社ノ確實ナル所以ヲ立證シ且其取扱フ所ノ契約ニ關シ完全ニ其事務ヲ執行スルニハ相當ナル教育ノ素養ヲ要スルコト勿論ナルモ是等ノ資格ヲ兼

備セル者甚稀ナリ

### 第三 代理店監督ノ困難

一タヒ適當ナル代理店ヲ得タリトスルモ之カ常ニ誠實ニ從事セルヤ其資產信用ノ程度カ低下セサルヤ等ヲ知ルノ困難亦頗ル大ナリ代理店ノ費消倒産詐欺手段等ヨリシテ會社カ絶エス損害ヲ被リツツアルハ此困難カ容易ニ救済セラルヘカラサルヲ證スルノ事實ニシテ西洋ニ於ケル代理人ノ組織ニ在リテモ亦此困難ヲ除ク能ハス之ニ對シテハ總代理人又ハ監査員(Inspector)ヲシテ常ニ代理店所在地ヲ巡回セシメ陰ニ陽ニ之ヲ監視スルノ方法アリト雖トモ費用ヲ要スルコト多ク且資産状態ノ變動ハ頗ル陰密ニシテ之ヲ發見スルコト困難ナリ之ニ就テハ代理人ヨリ保證金ヲ納付セシムルノ方法アリト雖トモ我國現時ノ状態ニ於テ資産信用アル地方ノ人士ニ對シ會社カ保證金ヲ請求スルカ如キハ殆ント能クスル所ニ非ス是亦時勢ノ變遷ニ伴ヒ會社ハ常ニ其機會ヲ捕フルニ勉メサルヘカラサルナリ

### 第四 代理店カ地方的ノ感情及ヒ利害ニ制セラレテ不當ニ被保險者ヲ庇護スルコト

代理店ハ會社ノ代人トシテ忠實ニ事務ニ執掌シ被保險者ト會社トノ間ニ利害ノ相反セル場合ニハ特ニ會社ニ加擔セサルマテモ公平ニ事ヲ處理セサルヘカラサルヲ其地方ニ對スル同情交誼竝ニ利益上ノ關係ヨリシテ却テ被保險者ヲ曲庇シテ損害ヲ會社ニ被ラシムルコト少カラス延滞シタル保險料ノ領收保險金ノ支拂等ニ際シテ最多ク起ル所ノ問題ナリトス而シテ此困難ハ會社ニ專屬スル代理人ノ發達ニ伴ヒテ漸次減少スヘシト雖トモ今日ニ在リテモ既ニ多額ノ保險契約ヲ有シ代理店ノ業務カ其有力ナル收入ノ源泉タル場合ニ在リテハ寧ロ代理店ヨリシテ會社ノ鼻息ヲ窺フノ結果大ニ本社ノ利害ヲ尊重スルコト無キニ非ラス代理店ニ關スル困難モ畢竟會社ノ勢力問題ニ歸著スルコト少カラサルナリ

### 第五 募集員ノ品性ニ關スル問題

生命保險ヲ公衆ニ勸誘スルノ業ハ猶宗教ヲ傳道スルカ如ク毫モ卑シムヘキニ非スト雖トモ殊ニ此思想ノ進歩セサル社會ニ於テ所謂執拗ニ所謂厚顔ニ對手ヲ訪問シ說得シ懇請セサレハ容易ニ其加入ヲ得ル能ハサルヨリ募集員ナル者ハ一般ニ世人ノ厭忌スル所トナリ此厭忌セラルル職務ヲモ尙敢テスル者ハ概シテ品性ノ下等ナル者ニ多キ結果詭辯ニ巧ニシテ眞ノ素養ナク風采堂堂タルモ智識極メテ淺薄ナルカ如キ者此重要ナル職務ヲ執リテ誤謬ノ説明ヲ與ヘ強壓ナル勸誘ヲ試ミ或ハ不道義不品行ノ舉動ヲ演スルカ爲メニ其本尊タル生命保險竝ニ會社ノ名譽ト信用ヲ傷クルコト少カラス之ヲ救済スルニハ募集金額ヲ以テ彼等ニ報酬行賞スルノ方法ヲ廢シ一定セル教育程度ヲ以テ採用ノ標準トシ之ニ保險智識ノ一斑ヲ授ケ又個人的勸誘ノ外ニ講話演說新聞雜誌著書等ノ機關ト方法ヲ以テ斯道ノ福音ヲ一般社會ニ鼓吹スルカ如キ弊害少キ方法ヲ獎勵セサルヘカラス而シテ此問題ハ目下斯業者間ニ於テ大ニ著目研究セララルル所ナリト雖トモ

人物ノ改善ト報酬給與ノ方法ノ如キハ經費ノ多少ト離ルヘカラサル關係ヲ有スルヲ以テ遽ニ實行スルコト難ク而モ一般的傳道ノ如キハ何時ニテモ容易ニ之ヲ行フヲ得ヘキニモ拘ハラス斯業者ノ毫モ之ヲ試ミサルハ我國民ノ未タ共同利益ノ道理ヲ解スルコト深カラサルノ缺點ニ職由スト謂ハサルヘカラス

### 第六 費用ノ問題

生命保險ハ各個人ニ取リテ缺クヘカラサル制度タルニモ拘ハラス多數ノ人ハ勸誘員ノ訪問ニ會ハサレハ之ニ加入セス保險會社モ亦進ンテ申込ミ來レル被保險者ハ惡意アル者ニ非サルヤヲ疑フカ如キ状態ニシテ又縱令自然ノ需要者アリトスルモ多數ノ同業者カ之ニ競争スルノ間ニ在リテハ單ニ門戸ヲ開キテ來者ヲ迎フルカ如キ緩漫ナル態度ヲ固守スル能ハス多數ノ募集員代理人ヲ派出シテ普ク保險契約者ヲ索メサルヘカラス故ニ契約獲得ノ費用 (Agentsprovision) ハ生命保險事業ニ於テ殆ント缺クヘカラサ

ル必須ノ經費ナリ而シテ此經費ハ募集ノ成績ニ準シテ支出セラルル請負主義ト直接ニ其成績ニ關係セサル俸給主義トアリ諸外國ニ在リテハ多ク前者ニ據リ多キハ第一回保險料ノ全部ヲ代理人ニ與フル處スラアリ善キ報酬ヲ與ヘサレハ善キ代理人ハ得ヘカラストハ彼等ノ往往口ニスル所ノ格言ナリ我國ニ於テモ結果報酬又ハ成功報酬ト唱ヘテ契約金額百圓ニ對シテ壹圓五拾錢ト云フカ如キ割合ヲ以テ給與スルコトアリト雖トモ多クハ其技術ニ相應セル給料及ヒ旅費日當ノ外ニ紹介料ト名ケテ紹介者ニ支拂フヘキ手數料保險金百圓ニ對シテ五拾錢乃至壹圓ヲ支出スルコトトセルカ故ニ折衷主義トモ稱スルコトヲ得ヘシ勿論獎勵又ハ行賞ノ爲メニ特別手當賞與金等ノ名ヲ以テ尙他ノ給與ヲ行フコト無キニアラス要スルニ俸給主義又ハ折衷主義ハ請負主義ニ比シテ概シテ費用ノ増嵩ヲ見ルモノトス

第七 結果ノ審査

代理人カ多數ノ契約ヲ獲得スルコトハ素ヨリ希望スヘキコトナリト雖トモ尙重要ナル事項ハ其獲取セラレタル契約ノ結果如何ニ在リ如何ニ僅少ナル經費ヲ以テ多額ナル契約ヲ締結シ得タリトスルモ其契約力直チニ怪シムヘキ死亡ヲ出シ或ハ幾モナクシテ解約ノ續出ヲ招クカ如キコトアラハ寧ロ之ヲ獲得セサルニ如カス結果報酬ノ成績ニハ時トシテ此種ノ害惡ヲ包藏シテ經費節約ノ利益ヲ其根柢ヨリ覆ヘスコト無キニ非ス故ニ當業者ハ當ニ是等ノ結果ヲ參酌シテ成績ヲ審判スルノミナラス斯ノ如キ怪シムヘキ結果ヲ齎ラシタル代理人ハ速ニ之ヲ解任シテ斯業ノ弊風ヲ除去スルニ勉メサルヘカラス

以上七項ノ外代理店及ヒ募集員ニ關スル問題ハ裕ニ一卷ノ書冊ニ溢ルヘシト雖トモ今ハ茲ニ筆ヲ擲クヘシ而シテ是等ノ問題ト困難ヲ避ケンカ爲メニ代理店ヲ設ケスシテ支店出張店ヲ各地ニ置キ社員ヲ派遣シテ業務ヲ行ハシメントスル會社アリト雖トモ營業所ノ費用社員ノ俸給旅費等ノ負擔重大ニ

シテ到底之ニ堪ユヘキニ非ス又代理店ハ固ヨリ出張店ヲモ置カサル例ヘハ第一生命ノ如キアリト雖トモ募集員ヲ採用スルコトハ他會社ト異ナラサルヲ以テ英國ノ「イクイティブル」ノ如キ全ク代理人無キモノトハ同一視スヘカラス全ク代理人ヲ置カサル會社ノ如キハ猶人體ニ手足ナキカ如ク生命保險事業ニ必須ナル機關ヲ缺ケル者ニシテ今日ノ生存競争状態ニ適シタル主義ト謂フヘカラス斯業ハ結局代理人ノ制度ニ依リ可及的ニ其短所ト弊害ヲ芻除シツツ實行セラレサルヘカラサルナリ生命保險ノ代理人ニ關シテハ拙著生命保險代理者竝ニ拙譯生死論第九編及ヒ第十編ニ詳説アリ

## 第七章 生命保險事業ノ財政

生命保險事業ノ收入ハ至テ單純ニシテ保險契約者ヨリ得ル所ノ保險料及ヒ其利子竝ニ其資産ヨリ生スル利子ニ前年度末ニ於テ存在セシ責任準備金及ヒ支拂備金ヲ加ヘタルモノカ一事業年度ニ於ケル收入ノ合計ナリ責任準備

金及ヒ支拂備金ヲ斯ク收入ニ組入ルルコトハ是等ノ勘定ハ毎年度末ニ於テ新ニ會社ノ責任ヲ計算シテ其金額ヲ定ムルモノナルヲ以テナリ然レトモ支出ハ比較的ニ複雑ニシテ第一ニ其契約ニ對スル責任準備金及ヒ支拂備金第二ニ保險金解約返還金及ヒ或場合ニ起ル保險料ノ返還第三ニ諸經費ナリトシ諸經費ヲ別チテ新契約ニ對スル分ト一般ノ經費ニ屬スル分ト爲ス責任準備金ハ曩ニ其計算ノ方法ヲ概述シタルカ如ク精密ナル箇箇ノ計算ヨリ出テ間間群團ニ基キテ算出セラレサルニ非サルモ要スルニ保險數理ノ指示スル所ニ依リテ其金額ヲ決定スヘキモ素人ノ爲メニ最了解シ易キ概算ヲ言フトキハ各種ノ養老保險ヲ營ミ又非常ニ多額ノ解約ヲ出ササル會社ニ在リテハ前年度末ノ責任準備金額ヘ當年度收入保險料ノ四割五分乃至五割五分ヲ加フルヲ以テ凡ソ正當ナリト推測セサルヘカラス保險金ノ總額モ亦會社ノ新古ニ由リ契約ノ状態ニ由リ一言ヲ以テ其標準ヲ示スコト能ハサルモ漸次契約額ヲ増加スル所ノ進歩的會社ニシテ年度收入保險料額ノ三分ノ一

以下ヲ支出スルトキハ損失ナシト見テ大過ナカルヘシ而シテ經費ニ至リテハ附加保險料ノ部分即チ收入保險料ノ凡二割五分乃至三割ヲ以テ之ヲ支辨スル者ヲ上乘トセサルヘカラサルモ舊契約少ク且ツ新契約ニ熱中スル時代ハ後者ニ多額ノ費用ヲ要スルカ故ニ時トシテ收入保險料ノ半額以上ヲ消費スルコトアルモ死亡率ノ差違ヲ以テ之ヲ補ヒ得ル場合ハ必シモ非難ヲ加フヘキニ非ス然レトモ斯ノ如キ状態ハ獨リ我國現時ノ幼稚ナル時代ニ就テ言フヘキ所ニシテ斯業ノ進歩シタル諸外國ニ於テハ大ニ如上ノ數字ヲ異ニシ經費ノ如キモ普通生命ニ在リテハ收入保險料ノ一割二三分ナル者少カラス簡便生命ニ於テ二三割ニ達スル者ヲ見ルノミ

斯ク經費ノ領域カ斯業ノ財政中ニ最重要ナル地位ヲ占ムルト同時ニ發達シタル生命保險會社カ主トシテ其責任準備金ヨリ成ル所ノ巨額ナル財産ヲ利用スルニ就テ非常ナル注意ト手腕ヲ要スルコトハ曾テ述ヘタル所ノ如シ生命保險會社ハ其責任準備金ヲ豫定利率以上ニ運用セサルヘカラサルニモ拘

ハラス社會金利ノ低下ト資産ノ膨脹ハ常ニ之ニ逆行スルノミナラス會社ノ資産中ニハ代理店勘定未收保險料假拂金ト云フカ如キ全ク利子ヲ生セサルモノ増加スルノ傾向アリ代理店勘定トハ保險契約者カ保險料ヲ代理店ヘ拂込ミ代理店ハ其旨ヲ本社ヘ報告スルモ未タ送金セスシテ其保管ノ下ニ置ケル場合ノ勘定ニシテ數萬又ハ十數萬圓ニ上ルコトアリ未收保險料トハ保險契約者カ正當期日ニ於ケル保險料ノ拂込ヲ怠リ延滞ニ屬セルモノニシテ其金額屢代理店勘定ノ上ニ出ツルコトアリ又假拂金ト稱スルハ多クハ經費ノ未精算分ニシテ真正ノ資産ニ非ス假ニ是等ノ資産科目ヲ合計シテ十萬圓アリトシ而シテ會社ノ全財産ヲ五十萬圓アリトセハ實際利用セラルヘキ資産四十萬圓ニ年六朱ノ平均利殖ヲ得タリトスルモ全資産額五十萬圓ニ對シテハ四朱八厘ヲ得ルニ過キサナルナリ近來鞏固ヲ旨トシ確實ヲ誇ル會社ニ於テハ未收保險料假拂金ト云フカ如キ資産ヲ設ケスト雖トモ正當ナル未收保險料竝ニ假拂金ハ毫モ會社ノ鞏固ヲ傷クルモノニ非ス唯事務不整理ノ結果此

種ノ勘定科目ノ膨大スルヲ非難スヘキノミ  
 事業ノ目的ニ使用セララル建物什器等ノ膨脹ト増加モ亦會社ノ財政ニ多大  
 ノ影響ヲ與フルモノニシテ例ヘハ會社カ虚飾ノ爲メニ若クハ廣告ノ爲メト  
 稱シ非常ナル繁盛股販ノ場所ヲ擇ミテ壯大美麗ナル建物ヲ築造シ室内ノ裝  
 飾ヲ善美ニシ器具ヲ精選シ又全國到ル處ノ都市ニ支店出張所ヲ設置シ其建  
 築ノ勝レタルヲ誇示スルカ如キ場合ニ於テハ之カ爲メニ金利ヲ失フコト莫  
 大ニシテ會社ノ利益金又ハ剩餘金ヲ保險契約者ニ分配スル組織ノ會社ニ在  
 リテハ特ニ慎重ニ之ヲ考慮セサルヘカラス米國ノ生命保險會社カ其事業ノ  
 發達顯著ナルニモ拘ハラス常ニ不慎重ニシテ被保險者ノ利益ヲ顧慮セスト  
 ノ非難ヲ受ケツツアルハ華麗ナル建築商策ニ依リテ愚民ヲ眩惑スルカ如キ  
 輕薄ナル行動ニ奔レルカ故ナリ  
 要スルニ經費ノ節減ト財産運用ノ有利ニシテ確實ナルコトハ生命保險ノ如  
 キ多數人民ノ共同財産ヲ管理シテ長ヘニ相互救濟ノ實果ヲ收ムル所ノ事業

ニ取リテ最其本領ニ合一スルモノニシテ將來ニ於ケル生命保險事業ハ必ラ  
 ス此二箇ノ格言ニ依リテ經營セラレサルヘカラス而モ經費ヲ節減セント欲  
 スレハ募集意ノ如クナラスシテ事業廓大セス財産ノ運用ヲ確實ニセント欲  
 スレハ有利ナル能ハストノ嘆聲ヲ耳ニスルコト屢ナリ是ニ至リテカ事業ノ  
 經營ハ實ニ難中ノ又難ナリト雖トモ予ハ寧ロ經費ノ節減ヲ以テ事業ノ擴張  
 ヲ犠牲ニシ財産ノ確實ヲ以テ其有利ナラサルヲ忍ハント欲ス此ノ如キ方針  
 ヲ以テ臨マハ自ラ世間ノ信用ヲ博シテ事業ハ徐ニ發達シ財産亦適當ナル收  
 利ヲ見ルヲ得ン公債土地及ヒ永久的構造ノ家屋ヲ取得シ又ハ是等ヲ擔保ト  
 シテ貸付金ヲ爲シ比較的小部分ヲ確實ナル銀行ノ預金ト爲スカ如キハ蓋シ  
 現時ノ我國ニ於ケル生命保險事業ノ財産運用方法トシテ推奨スヘキモノナ  
 ルヘシ

## 第二部 火災保險

### 第一章 火災保險ノ歴史

海上保險カ主トシテ商業ノ發達ニ誘起セラレ生命保險カ殆ント鄉黨相扶クルノ情誼ニ基キテ發生シタル事實ニ因リ常ニ人民ノ自由ナル經營ヲ以テ今日ノ發達ヲ致セルニ反シ火災保險ハ其發芽ノ昔ヨリ屢君主國家ノ權力ニ觸接シ國家的社會的ノ施設トシテ顯著ナル地位ヲ占メタリ是レ火災ノ慘害カ往往多數ノ貧民ト盜賊ヲ出シ都府ノ富源ト美觀ヲ滅盡シテ其荒廢ヲ招クカ如キ社會的ノ惡果ヲ齎ラスコト個人ノ死亡若クハ一商船ノ遭難ニ於テ其比ヲ見ルコト能ハサレハナリ故ニ先ツ此方面ヨリ記述シテ次ニ民業ノ施設ニ及ハントス

#### 第一節 公立火災保險ノ沿革

史家ノ傳フル所ニ據レハ紀元前六百餘年ノ古昔、アッシリア其他ノ東洋諸國ニ於テ各地ニ一團ヲ爲セル住民ニ強制シ火災水難等ノ天災ニ備フル爲メ賦課金ヲ納付セシメ僧侶法官又ハ市町村長ヲ以テ之カ事務ヲ處理セシメタリト此ノ如キ事蹟ハ姑ク討ヌルヲ罷メ遙ニ降リテ近代ノ事實ヲ求ムルトキハ十六世紀ノ初頃ヨリ獨逸ノ諸都市ニ火災「キルド」ノ發生ヲ見タリシカ之ニ對スル干涉強制ノ思想自ラ勢力ヲ得ルニ至レリ是レ火災ノ爲メニ人民ノ家屋財產ヲ燒クトキハ君主ハ自ラ租稅ノ收入ヲ減殺セラルルカ爲メナリ千六百九年北獨逸ノ一領主「オルデンブルヒ」伯爵ニ無名ノ書ヲ奉リテ強制火災保險ノ實行ヲ献策シタル者アリ其趣旨ハ臣民ヲシテ各自住宅ノ價格ヲ定メシメ毎年其價格ノ百分ノ一ニ當ル金額ヲ上納セシメ火災ニ遭遇シタル場合ニ國庫ヨリ之ヲ賠償スルコトトセハ一ハ以テ臣民ノ災禍ニ苦シム者ヲ救濟シ一ハ以テ國庫ノ財政ヲ餘裕アラシムルヲ得ヘシト云フニ在リ然ルニ當時ノ君主ハ財ヲ貴フコト未タ神ヲ尊フカ如クナラス之ヲ斥ケテ曰ク天帝ハ數代連綿



タル「オルデンブルヒ」家ヲ保護シ給ヘリ吾ハ今尙忠愛ナル臣民ト共ニ其恩惠ニ浴セント欲ス天帝ノ擁護ヲ蔑視シテ此ノ如キ企畫ヲ行ハハ蓋シ之カ赫怒ニ觸レント而モ伯爵ハ人民カ任意ニ組合ヲ組織シテ此種ノ方法ヲ行ハハ可ナラント言ヘリ。

斯クシテ國君ノ火災保險事業ハ一タヒ實現スルノ機會ヲ失ヒシカ後「ハムブルヒ」ノ如キ商業繁盛ノ都市ニ於テハ他ノ原因ヨリシテ又火災保險ヲ獎勵スルノ必要起レリ即チ家屋其他ノ建物ヲ以テ金融ヲ求ムル場合ニ火災保險ノ保護ハ債權者ニ取リテ洪大ナル利益ヲ與フルヲ知ルト同時ニ頻頻タル火災ノ發生ハ之ニ對スル鞏固ナル施設ノ創立ヲ促シテ千六百七十七年火災保險大金庫(General Feuerkasse)ノ設置ヲ見ルニ至レルナリ此保險金庫ハ公共的ノ性質ヲ有シ先ツ「ハムブルヒ」市内ニ存在スル官公衙ハ必ラス保險ニ付セサルヘカラストシ其他ハ自己ノ家屋ヲ保險ニ付シタル者ニ限リテ法律上抵當物ヲ取ルノ權利ヲ有スルコトトシ以テ間接ニ保險加入ヲ強制セリ即チ家屋ヲ擔保

トシテ負債ヲ爲サント欲スル者ハ債權者ノ請求ニ依リテ無論保險ニ加入スヘク債權者ハ又其金錢ヲ利用セント欲セハ法律ニ依リテ同シク加入セサルヘカラサルナリ

普國ニ於テハ三十年戰爭後其破壊セラレタル社會ノ秩序ヲ回復シ疲弊シタル人民ヲ救濟シ財産上ノ損害ヲ補償シ乞食ノ發生ト強盜放火ノ流行ヲ防ク等ノ方案ニ焦慮シタリシ際「ハムブルヒ」ノ先例ニ接シ其良好ナル結果ヲ認識シテ國內ニモ亦此種ノ設備ヲ設ケント欲シ伯林ヲ始メトシテ其他ノ都市ニ令シ火災保險所ノ創始ヲ促カシ千八百十八年「ブランデンブルヒ」ヲ嚆矢トシ千八百三十六年ニ至ルマテ國中凡五十ノ火災保險所(Feuersozietät)ヲ見ルニ至レリ「フリードリヒ」大帝ノ如キハ大ニ之ヲ獎勵シタリシナリ而シテ此制度ハ獨リ普國ニ於ケルノミナラス其他ノ聯邦ニ於テモ夙ニ歡迎セラレ「ザクセン」ハ千七百二十九年「バーデン」ハ千八百三年「ヴュルテンベルヒ」ハ千八百八年「バーン」ハ千八百十一年各之ヲ創設シ其他ノ聯邦ニ於テモ亦漸次之ヲ模倣ス

ルニ至レリ今獨逸全國ニ於テ行ハルル公立火災保險ノ現状ヲ概記スレハ凡ソ左ノ如シ

第一 普魯西亞ニハ國立ノ火災保險所無シト雖トモ國中ニ無數ノ縣立市町立保險所アリ私設會社ト相竝ヒ共ニ國家ノ監督ノ下ニ不動産ノ火災保險ヲ經營セリ然レトモ伯林「プレストラウ」ステット「トルン」ノ諸市竝ニ「オストフリースラント」「カッセル」「ヴィースバーデン」及ヒ「シグマリンゲン」ノ諸領ニ對シテハ火災保險ヲ強制シ其「ゾチエテート」ヲシテ之ヲ實行セシメタリ而シテ是等ノ「ゾチエテート」ハ皆多少ノ受諾義務ヲ定メラレ甚シク危險ナル目的物ニ限リテ之カ引受ヲ免除セラルルコトアリ多數ノ「ゾチエテート」ハ又動産ノ保險ヲモ行ヘリ

第二 「バーエルン」ハ國立保險所ヲ有シ千八百三十四年以來來因河ノ右岸ニ於ケル一帶ノ地域ニ殆ント事實上ノ火災保險獨占ヲ行ヘリ勿論國立火災保險ニ加入スルトセサルトハ原則トシテ人民ノ自由ナリト雖トモ只官公

衙ノ建造物寺院學校等カ之ニ強制セラルルト一般ノ建物ニ就テハ國立火災保險所ニ於テ受諾セサルモノノ外他ノ保險所又ハ會社ニ於テ之ヲ引受クルコトヲ禁セルカ爲メ自然其範圍ニ於ケル國家ノ獨占ヲ見ルナリ

第三 「ザクセン」モ亦國家ノ經營ニ係ル一大保險所ヲ有シ國中ノ建物ト其附屬物ハ之ヲ左ノ四箇ノ階級ニ別チテ取扱フコトトセリ

- 一 絶對的ニ加入ヲ強制セラルルモノ
- 二 條件附ニテ加入ヲ強制セラルルモノ
- 三 隨意ニ加入スルヲ得ルモノ
- 四 加入スルヲ得サルモノ

絶對的ニ加入ヲ強制セラルルモノハ總テ一箇ノ屋蓋ノ下ニ蔽ハレタル高建築ニシテ且寺院及ヒ官公衙ノ附屬物又之ニ屬ス條件付加入強制ハ多ク一時的ノ築造物ニ對シテ命セラレ總テ強制ノ範圍ニ屬スル物ハ他ノ保險者ト契約スルヲ得サルナリ隨意ニ加入ヲ許サルルモノハ劇場橋梁製造工

場其他ノ獨立セル建物及ヒ附屬物ニシテ全ク加入ヲ許サレサルモノハ火藥製造所ノ如キ危險ノ甚シキモノナリ

第四 「ヴュルテンベルヒ」モ亦國立火災保險ノ制ヲ採リ僅少ナル除外例ヲ以テ殆ント全國ノ建物ニ對スル保險ヲ強制セリ此國ニ於テハ既ニ千七百五十四年ヨリ國立保險所ヲ設置シテ人民ノ隨意加入ヲ迎ヘタルナリ

第五 「バーデン」「ヘッセン」「ザクセン、ヴァイマー」「オルデンブルヒ」「ブラウンシュヴァイヒ」「ザクセン、アルテンブルヒ」「ザクセン、コーブルヒ、ゴータ」「アヌハルト」「ヴアルデック」「リッペ」「リュベック」及ヒ「ハムブルヒ」ノ諸聯邦皆國立火災保險所ヲ有シ内強制加入ヲ命セサルモノハ「ゴータ」及ヒ「リュベック」ナリトス

「メクレンブルヒ」ハ普國ト同シク多數ノ地方的保險所ヲ有シ「シュシアルツブルヒ、ルドルスタット」「シュヴァルツブルヒ、ゾンデルハウゼン」及ヒ新「ロイツ」ハ千八百二年以來「マグデブルヒ」ノ國立「ソチエテート」ト合併セリ故ニ獨逸聯邦中公共火災保險ノ制ナキモノハ「シャウムブルヒ、リッペ」「舊「ロイツ」「ブレメン」自由

港竝ニ「エルザス、ロートリンゲン」ノミ

獨逸ニ於ケル公共火災保險ノ現狀此ノ如シ而シテ世界ノ諸國中露國竝ニ「ニュージーランド」ヲ除キテハ之ト類似ノ制度ヲ執ルモノ皆獨逸系統ニ屬スルノ國家ニシテ埃太利瑞西那威瑞典及ヒ丁抹等其班ニ列スルヲ見レハ「ギルド」カ中世「ゲルマン」人種ノ特徴トシテ之ヨリ發達シタル火災保險カ至テ深キ社會的國家的ノ根柢ヲ有スルコトヲ知り得ヘキナリ而シテ是等ノ邦國中瑞西ノ諸州(Kanton)ハ最動產ノ火災保險ニ重キヲ置キ之ニ就テ三種ノ主義ヲ實行スルヲ見ル

- 一 國家ノ保險事業獨占主義(カントン、ヴァート)
- 二 民業保險ト竝行スル國營主義(カントン、グラルス)
- 三 民業保險ニ受諾義務ヲ強制スルノ主義(カントン、フライブルヒ及ヒ「カントン、アールガウ」)

公共的火災保險ノ組織及ヒ方法ノ一斑ハ之ヲ政策編ノ講究ニ讓ルト雖トモ

要スルニ其根基ハ火災保險カ直接ナル社會的の制度ニシテ國家ノ富強ト至大ノ關係ヲ有スルカ故ニ總テノ有形ナル財產ニ強制シテ保險ヲ付セシメサルヘカラス而モ常ニ之カ被保險者ノ利益ノ爲メニセラレサルヘカラスト言フニ存スルナリ請フ次ニ民業火災保險ノ沿革ニ移ラシメヨ

## 第二節 民業火災保險ノ沿革

民業火災保險モ亦「ギルド」ヨリ變遷發達シタルモノタルハ言フ埃タス之カ獨逸民族ノ權力主義ト抱合シテ公立火災保險ノ發展ヲ見タルト同時ニ之カ英國人種ノ權利思想ト融和シテ自由交通ノ火災保險事業ヲ繁盛セシメタルハ趣味アル對照ト言ハサルヘカラス

「アングロ、サクソン」時代ヨリ中世ニ繼續シタル「ギルド」ノ保護的の方面ニ火災ニ對スル組合員ノ救濟ヲ包含シタル事業ハ曩ニ之ヲ述ヘタリ此種ノ「ギルド」ハ十七世紀以前ノ英國ニ於テ既ニ其顯著ナル迹ヲ尋ヌルヲ得ヘク又千六百三

十五年及ヒ八年ニ國王「チャールズ」二世ニ保險料ヲ收メテ其臣民ノ家屋ヲ火災ニ對シテ保險セラレンコトヲ請願シタル者アリ斯業發展ノ氣運ハ常ニ蕪鬱タリシカ千六百六十六年ニ於ケル倫敦ノ大火ハ之ニ一發ノ爆聲ヲ與ヘテ新乾坤ヲ開キタリ此火災ノ爲メニ十三萬戸ノ家ヲ燒キテ全都ノ三分ノ二ヲ烏有ニ歸セシメ居ヲ失ヘル者二十萬ヲ超エ財產ノ損害ヲ計算スレハ鉅萬モ固ヨリ雷ナラス市民是ヨリシテ益完全ナル火災保險ノ創ヲ要望シ爾來數多ノ組合處處ニ發生シテ稍救濟ノ實果ヲ擧ケタリシカ千六百九十六年ニ至リ「バンド、イン、バンド」不動産火災保險會社ノ設立ヲ見ルニ及ヒテ始メテ現時ノ火災保險事業ニ接スルヲ得タリ此會社ハ今日英國ニ現存セル會社中ノ最先輩ニシテ且最有力ナル者ナリ千七百十年ノ「サン、ファイア、オフィス」ハ動産火災保險ノ目的ヲ以テ起リ斯業ニ一新生面ヲ與ヘタルノ功アリ同二十二年海上保險會社「ローヤル、エキスチエンシ」火災保險ノ業務ヲ開始シ同三十四年ニ倫敦「アシユランス、コーポレーション」亦之ニ倣ヘリ有名ナル「フィニックス」會社ハ千七百

八十二年ノ創立ニ係リ爾來有力ナル會社續續發生シ現今火災保險ヲ營ムモノ凡九十餘會社ニ及ヘリ

英國ニ於ケル火災保險ノ歴史ヲ敍スルニ方リテ決シテ遺忘スヘカラサル數多ノ事件アリ皆其從業者カ直接ノ目的トシテ社會ニ與ヘタル保險上ノ利益ノ外ニ於テ行ヒタル善美ナル行動ニシテ左ニ之ヲ列舉セント欲ス

第一 市立消防隊 (Metropolitan Fire Brigade) ノ完成

繁華ノ中心ハ又火神ノ淵叢タルコト東西其軌ヲ一ニセリ倫敦ニ於ケル火災保險會社ハ往昔ニ在リテモ亦火災ハ人力ニ依リテ減少セシムルコトヲ得之ヲ減少セシムレハ即チ自家ノ損害ヲ輕減スルヲ得ル所以ヲ曉リ皆獨立シテ消防機械ヲ備ヘ消防隊ヲ設ケタリシカ千八百三十三年ニ至リ「サン」火災保險會社ノ支配人ニシテ令聞多カリシ「チャールズ、ベル、フォード」氏主唱シテ各社共同ノ消防隊ヲ設置セント欲シ先ツ「アライアンス」「アトラス」「グロップ」「イムベリアル」「ロンドン、アシュランス」「プロテクトル」「ロイヤル、エキ

スチンジ」「サン」「ユニオン」及ヒ「ウエストミンスター」ノ十會社ヲ糾合セシカ他會社モ亦續續之ニ加盟シ忽チニシテ倫敦ヲ五區ニ別チ十四箇所ノ屯所ト八十人ノ熟練セル消防夫ヨリ成レル消防隊ヲ組織セリ之ヲ倫敦消防隊ト稱ス其建設ニ要シタル費用凡八千磅ニシテ加盟會社カ各契約金額ノ比例ヲ以テ之ヲ負擔シタルハ奮發シタリト謂ハサルヘカラス而モ此組織ハ漸漸擴張セラレ千八百六十二年ニ至リテハ二十ノ屯所ト百二十人ノ消防夫ヲ有シ一箇年ノ經費二萬五千磅ニ上レリ此外倫敦ニハ船渠業者ノ設立セル消防隊少カラサリシモ數十年間市民カ火災保險會社ノ恩惠ニ浴シタルコト決シテ鮮少ニ非サルナリ而シテ此頃ヨリシテ政府當局者モ防火組織ノ完成ニ著目シ委員ヲ選ンテ調査ニ從事セシメ千八百六十五年「メトロポリタン、ファイア、ブリゲード」ヲ制定シ翌年ヨリ實施セラレ以來倫敦市ニ於ケル火災ノ豫防鎮壓ニ關スル事業ハ凡テ此法律ニ據リテ組織セラレタル市立消防隊ノ幹部ニ屬スルコトト爲リシヨリ保險業者ノ經理ニ係

レル倫敦消防隊ハ之ヲ倫敦市ニ引繼キテ其終ヲ全ウセリ而シテ此完全ナル市立消防隊ノ設置ニ就テハ當業者ノ獎勵運動竝ニ助勢固ヨリ與テ大功アリ是レ予カ斯業ノ歴史ニ於テ之ヲ大書スル所以ニシテ現今英國火災保險會社カ法律ニ據リテ其市立消防隊へ捐出スル金額ハ千九百七年ニ於テ三萬六千磅ヲ超エタリ

### 第二 火災救護隊(London Salvage Corps)ノ組成

消防夫ハ主トシテ火災ト奮闘シ又他ヲ顧ルニ遑アラサルヲ以テ別ニ之ヲ助ケテ火災ノ蔓延ヲ防キ又貴重ナル人命ヲ救護シ財産ヲ搬出シテ以テ火災ノ慘害ヲ減少セシムルノ設備アルヲ最必要ナリトス是ニ於テカ前項ノ火災保險會社ハ倫敦消防隊ノ事業ヲ市ニ引渡スト同時ニ救護隊ノ組織ヲ計畫シ政府亦大ニ贊賞シテ之ヲ允許シタリシカハ直チニ之カ組成ヲ得テ爾來四十餘年倫敦救護隊ノ名聲ト實益ハ世界ノ常ニ賞揚スル所ナリ現今之ヲ組織セル會社ハ「アライアンス」「アトラス」「サン」「ユニオン」等ヲ始メトシ

テ三十四會社アリ「グラスゴウ」ニ於テモ之ト次項ノ同盟ニ倣ヒテ火災保險業者ノ料率及ヒ救護協會アリ

### 第三 保險料同盟(Tarif Association)ノ成立

確實ナル英國ノ火災保險事業ニモ亦浮薄ナル企業者ノ混入ヲ免ルヘカラス千八百二十年頃ヨリ同五十年ノ前後ニ亘リ所謂南海投機熱ノ毒風ニ煽ラレタル會社ノ興倒少カラサリシヨリ千八百五十八年有力ナル會社協議シテ保險料同盟ヲ作り加盟會社ハ互ニ再保險ヲ授受シ或ハ共同ノ危險測定損害調査等ヲ行ヒ以テ保險料率ノ暴落ヲ防クト同時ニ諸種ノ有用ナル學問實地ノ研究ヲ行ヒテ斯業ノ基礎ヲ確實ナラシメントセリ現今之ニ屬スル會社ハ救護隊ヲ組織スルモノト同一ニシテ即チ三十四會社アリ之ニ對シテ非同盟會社(Non-Tarif Companies)アリ其數凡ソ六十比較的有力ナラサルモノ多シ

抑火災保險ノ料率ナルモノハ火災統計ノ基礎ト危險測定ノ技術ニ據リテ

保險者ノ負擔ニ屬スル危險ノ近眞ヲ發見シ之ニ相應スル金額ヲ定ムルモノニシテ常ニ一定ノ準則アルコト勿論ナルニモ拘ハラズ輕浮ナル同業者カ競争ノ結果無謀ナル低率ヲ社會ニ提供シテ却テ自ラ殫レ又他ノ會社ヲ倒シ延テ被保險者ニ對スル義務ヲ完クスルコト能ハサルニ至ルコト多キカ故ニ健全ナル斯業者カ常ニ道理アル料率ヲ保持センカ爲メニ保險料同盟ヲ組織スルモノニシテ斯業繁榮ノ爲メニ缺クヘカラサル措置トシテ吾人ハ英國會社ノ功ヲ勒セサルヘカラス佛蘭西ニ於テモ千八百八十二年ニ十六會社ノ同盟ヲ見其他ノ諸國ニ於テモ之ナキニ非スト雖トモ之ヲシテ其目的以上ニ效力ヲ發揮セシメ保險契約者ニ對スル對抗ト爲リテ料率ノ騰貴ヲ隨意ニ支配スルニ至ラハ社會上極メテ有害ナル結果ヲ惹起シ米國ノ如ク法律ヲ以テ保險料同盟ヲ嚴禁セサルヘカラサルニ至ルヘシ故ニ保險料同盟ハ其者自體ヲ以テ可否ヲ論スヘキニ非ス其利用ノ意思ト程度ノ如何ニ由リテ之ヲ褒貶セサルヘカラス而シテ其是非ヲ岐ツノ分水嶺ハ道

理アル料率ノ界線ニシテ之ヲ右スレハ獨占ノ谷ニ陥リ之ヲ左スレハ紛亂ノ海ニ赴カントス危險ナルコト猶明晃晃トシテ鐵ヲモ斷ツヘキ銘刀ノ人ニ由リテ其禍福ヲ分ツカ如ク德義ノ心薄クシテ徒ニ收利ノ念ニ驅ラルルカ如キ保險業者ニ之ヲ許スハ爲政者ノ大ニ考慮スヘキ事態ニシテ眞摯著實社會的商業的ノ道義ヲ重ンスル英國國民ノ如キヲ埃テ始メテ之カ真正ナル利用ヲ試ムルヲ得ヘキナリ

斯ノ如クニシテ予ハ光輝アル英國ノ火災保險歴史ヲ了リ話頭ヲ一轉シテ獨逸ニ及ハントス公立火災保險ノ本據タル獨逸ニ在リテモ民間ノ事業ハ決シテ振ハサルニ非ス即チ英國ヲ模範トシテ千八百十二年伯林火災保險株式會社始メテ起リ尋テ千八百十九年ライプチヒ火災保險會社設立セラレタリ然レトモ千八百二十一年アルノルヂ氏ニ依リテ創立セラレタル「ゴータ」火災保險相互會社ハ斯業ノ歴史ニ一新時代ヲ畫シタルモノニシテ此時代ヨリ火災保險ノ組織漸ク善良ニ且ツ確實ニ赴クト同時ニ火災ニ對スル國家ノ政策地

方ノ消防規則竝ニ消防具稍完成スルニ至リ新會社亦續續發生シ例ヘハ祖國  
 火災保險株式會社ハ千八百二十三年「アーヘン、ミュンヘン」火災保險株式會社ハ  
 千八百二十五年ニ起レリ而シテ當時公立火災保險ハ殆ント不動產ノミヲ保  
 險シ私立會社ハ唯動產ノミヲ以テ目的ト爲セシカ故ニ兩者ノ競争ハ更ニ發  
 生ノ間隙無カリシナリ是ヨリ先キ英國ノ「フィニックス」會社ハ千七百八十六年  
 「ハムブルヒ」ニ代理店ヲ置キテ動產ノ火災保險ヲ開始シ三十餘年間良好ナル  
 模範ヲ示シタルヲ以テ内國ノ會社ハ皆著實ニ其業務ヲ營ミ互ニ連絡ヲ通シ  
 テ再保險ヲ行ヒシカ千八百四十二年「ハムブルヒ」ニ稀有ノ大火アリ之ニ刺激  
 セラレテ數多ノ新會社發生シタル中ニ再保險專業ノ會社ヲ見ルニ至レリ  
 獨逸人民ノ質素ニシテ華美ヲ好マス事物ノ研究ニ熱心ニシテ法律規則ヲ好  
 ミ且ツ之ニ服從スルヲ甘ンシ秩序ト區劃常ニ整然タルノ習俗バ自ラ警火消  
 防ノ組織ヲ完全ナラシメ建築條例家屋取締等ノ規則ヲ嚴重ニシ點火暖房等  
 ノ方法ヲ安全ニスルカ如キ凡テ火災ノ發生ト損害ヲ僅少ナラシムルニ有力

ナルヲ以テ保險者ハ非常ナル高率ノ保險料ヲ收納スルノ利ナキト同時ニ又  
 異常ナル大損害ニ逢遇スルノ虞ナク加フルニ公私兩保險ノ並行ハ料率ノ衡  
 平ヲ保タシムルニ無二ノ大勢力ナルヲ以テ業務ハ常ニ安全ニシテ靜穩ニ進  
 行セリ故ニ史上赫赫タル事實ノ録スヘキナシト雖トモ是レ國家社會トシテ  
 寧ロ望マシキ現象ナリト言ハサルヘカラス  
 而シテ之ニ反シテ常ニ波瀾曲折多キハ米國保險界ノ側面ナリ其幾多ノ繁盛  
 ナル都市ニ於テ雲霄ニ聳ユル數十層ノ高屋ハ風伯ノ喜ンテ宿ル所タリ肩摩  
 輻輳ノ大市場ハ常ニ祝融子ノ徘徊スル處ニシテ大火ノ頻頻タルハ寧ロ其國  
 民ノ誇トスル所ニ非サルヤヲ疑ハシム近年ニ在リテモ「シカゴ」ノ大火「ボスト  
 ン」ノ大火「バルチモア」ノ大火桑港ノ大震災ト之ニ伴フ大火災一トシテ歴史ノ  
 紙面ニ大書スヘキモノニ非サルナシ而シテ此ノ如キ大災害ノ發生スル毎ニ  
 其火災保險會社カ狼狽セサルナク支拂ノ能力ヲ疑ハレサルコト無キハ斯業  
 ノ歴史ニ於ケル千秋ノ恨事ニ非スヤ



米國ニ於ケル最古ノ火災保險會社ハ千七百八十七年新育克ニ設立セラレタル「ニッカーボッカー」會社ニシテ其世紀ノ終ニ於テハ既ニ三十九ノ火災保險業者アリ十年ニシテ將ニ百箇ヲ算セントシ三十年ニシテ更ニ百箇ヲ増スノ盛運ニ向ヒシモ千八百三十五年ノ歲末ニ近キテ發生シタル新育克ノ大火災ハ彼等ノ多クヲ一掃シ去リ千八百四十五年ニ於ケル第二ノ大火ハ更ニ敗殘者ヲ全滅シテ一タヒ斯業ノ廢絶ヲ招カントセシカ火災保險業者ハ却テ之ニ刺激セラレ勇奮一番爾來著シク眞摯ナル態度ヲ以テ事ニ從ヒ大敵ニ對シテハ又大ニ其勢力ヲ合一セサルヘカラサルノ必要アルヲ覺リテ斯業者ノ聯合ヲ盛ニシ全國火災保險業者會議 (National Board of Fire Underwriters) ヲ始メトシ全國火災豫防調查會 (National Fire Protection Association) 全國火災保險業者電氣協會其他各州ニ於ケル同業者ノ聯合屈指ニ違アラス以テ建築上裝置上及ヒ化學上ヨリスル火災ノ豫防人意的火災ノ防止方法消防救護及ヒ報火組織ノ完備防火材料塗料ノ研究自動消火器輕便消火器瓦斯消火器等ノ發明等火災危險

ノ減少ニ關スル有ラユル講究ニ熱中シテ以テ其事業ノ安固ヲ圖ルニ努メツツアリト雖トモ尙其急進的社會ノ飛躍的發達ハ往往ニシテ大火ノ發生ヲ免レス且又諸州ノ法律ニ依リテ保險料ノ同盟ヲ禁止セラレ加フルニ薄弱ナル地方會社ノ無謀ナル競争ニ惱マサレテ事業ノ困難頗ル大ナリ我國ニ於ケル火災保險事業ノ創始ハ遙ニ海上ト生命ノ保險ニ遲レ明治二十年七月ニ設立セラレタル東京火災保險株式會社ヲ以テ其嚆矢ト爲スト雖トモ之カ施設ノ計畫ニ就テハ長キ歴史アルヲ忘ルヘカラス既ニ明治十一年ノ昔ニ於テ東京大學講師大藏省顧問獨逸人「ペー」マエツト氏ハ獨亞協會ニ於テ日本ニ於ケル火災保險ノ必要ニ關シ熱實ニシテ痛切ナル講演ヲ試ミテ言ヘルアリ

開明ナル國民ノ發達ハ保險ノ力ニ職由スト云フモ決シテ過言ニ非ス而シテ是レ又決シテ予カ私言ニ非サルヲ證センカ爲メニ斯道ノ先輩トシテ聞エタル普國議會ノ一員「ヤコビ」氏ノ宣明ヲ引用セント欲ス氏ハ千八

百六十九年普國政府ノ保險ニ關スル法案ノ調査委員ニ選ハレタル人ニシテ其言フ所下ノ如シ曰ク火災保險ハ現時國家商工業ノ基礎ニ於ケル最重要ナル地位ヲ占ムルモノニシテ都市ト僻陬トヲ問ハス草屋ニ棲息スル者ト大理石造ノ高閣ニ安臥スル者トヲ論セス隘陋ナル掛茶屋モ宏大ナル商店モ大倉庫ノ所有者モ行商人モ労働者モ工業主モ一人トシテ其恩澤ニ浴セサルコト無シ今若シ吾人カ假ニ國家ノ富源ヲ双肩ニ荷ヘル此偉大ナル建設ノ基礎ニ一髮ノ動搖アリト想像センカ百般ノ商工業ハ忽チ萎微シテ國家ノ被ル損害言フヘカラサルモノアラント日本ハ現在此國富ノ基礎ヲ缺キ其商工業ハ現在萎微セリ火災保險ノ欠缺ハ眞ニ國家ノ災害ナリ

何ソ其言ノ適切ナルヤ氏ハ之ヲ冒頭トシテ諄諄火災保險ノ必要ト效用竝ニ本邦ニ於ケル之カ強制的施設ノ方策ヲ說示シ又時ノ大藏卿今ノ大隈伯爵ニ之ヲ建議セシカハ伯ハ之ヲ容レテ明治十二年大藏省ニ火災保險取調掛ヲ置

キ委員ヲ設ケテ之ヲ調査セシメ十四年之ニ關スル法案ノ起草ヲ了ヘテ太政官ニ稟議スルニ及ヘリ其要旨ニ曰ク

- 一 全國ノ家屋建物ニ對シ強制火災保險ノ法ヲ布クヘシ
- 二 建築條例ヲ設ケテ家屋建築ノ制限ヲ立テ以テ危險ノ減少ヲ圖ルヘシ
- 三 溝渠防火壁等ヲ設ケテ延燒ノ害ヲ防クヘシ
- 四 完全ナル消防機關ヲ組織スヘシ

ト國家富源ノ涵養方法トシテ寔ニ至當ナル政策ナラスヤ而モ時ノ參事院ハ主トシテ強制ヲ不可トスルノ理由ヨリシテ之ヲ採用セス又何等之カ修正變更ニ就テ計畫スル所ナク「マニエ」氏其他ノ心血ヲ濫キタル雄大ナル經濟振興策ハ空シク地ニ委セララルニ至レリ若シ三十年前ニシテ此企畫ノ實行セラレンカ我國大小幾百ノ都市ニ於ケル家屋構造ノ堅牢防火設備ノ完全決シテ今日ノ比ニ非サルヘク年年烏有ニ歸シ灰燼ニ化スル幾千萬金ノ財產ハ積テ國家ノ富強ニ資スルコト甚大ナルヘキヲ想ヘハ吾人ハ轉流涕ノ滂沱タルヲ

禁スル能ハサルナリ三十年前既ニ此明智卓見アリ而モ近年國家ノ政治ニ干  
與スル者ハ政權ノ爭奪ニ狂奔シ黨與ノ操縦ニ齷齪シ財政ノ遺穢ニ踟躕シテ  
此種ノ遠大ナル致富ノ政策ニ著眼スル者無シ悲イ哉  
國家政策トシテノ火災保險事業ハ斯克シテ其實現ノ機會ヲ喪ヘリト雖トモ  
又之ヲ遺憾トスルノ士無キニ非ス即チ有志者相謀リ明治二十年七月東京火  
災保險會社ヲ設立シ民間事業トシテ其抱負ノ一端ヲ實演セント欲シ以來幾  
星霜經營ノ苦楚艱難ヲ嘗メ其事業ヲ繼續セシカ二十四年二月ニ明治火災二  
十五年六月ニ日本火災起リ保險思想ノ發達ニ伴ヒテ漸漸良好ナル成績ヲ收  
ムルヲ得ルニ至リ此三會社ハ三十八年八月ニ設立セラレタル橫濱火災三十  
九年六月ニ開業シタル共同火災ト共ニ現今我國ノ五大火災保險會社ト稱シ  
火災保險協會ナル共同ノ機關ヲ設ケ料率ノ同盟再保險ノ授受危險ノ調査測  
定等ヲ行ヘリ而シテ是等ノ會社ハ概シテ社會有力ナル人士ノ經營ニ係リ資  
本亦巨大ナルヲ以テ多年火神ノ猛勢ト健闘シ克ク其支拂ノ責任ヲ盡シ來レ

リト雖トモ斯業ノ歴史ハ五會社ノ歴史ニ非ス恰モ曩ニ述ヘタル生命保險ノ  
濫興時代ニ於テ設立セラレタル銅業東洋商工內國家屋物品大阪明教健養帝  
國ノ九會社中今尙其名ヲ殘シテ營業セル者ハ獨リ大阪火災アルノミ又三十  
年ヨリ三十三年保險業法ノ施行前後ニ亘リテ設立セラレタル十會社中今日  
マテ業務ヲ繼續シ得タル者小樽大和ノ二會社ニ過キス十七箇ノ火災保險會  
社ハ或ハ倒レ或ハ合併シ或ハ其業務ヲ廢シ或ハ整理中ニ屬セリ明治二十年  
ヨリ四十年ニ至ルマテ二十年間ニ設立セラレタル二十五六ノ火災保險會社  
中失敗シタルモノ十七ヲ算スルニ至リテハ誰カ我國ニ於ケル火災保險事業  
ノ成功ヲ謳歌スヘケンヤ現今我邦ニ於テ健全ニ存續セル會社ハ同盟五會社  
ノ外小樽貨物火災大和火災大阪火災ノ外近來主トシテ再保險ヲ受クルノ目  
的ヲ以テ此事業ヲ開始シタル東明火災帝國海上日本海上神戸海上等アリ其  
契約金額明治四十年末ニ於テ凡十三億圓ヲ超過セリ生命保險ノ盛況ニ比シ  
テハ非常ナル沈衰ノ状態ニ在リト言ハサルヘカラス

如上十數ノ會社カ失敗シタル原因奈邊ニ存スルヤヲ考フルニ數多ノ事情交互錯綜シテ固ヨリ一言ヲ以テ之ヲ覆フヲ得スト雖トモ今其顯著ナルモノヲ數フレハ小資本ニシテ擔保力少キコト小會社ニシテ役員ノ人格社員ノ技倆劣レルコト契約ノ分布ニ巧ナラスシテ被保險物ヲ集中セシメタルコト再保險ノ授受ヲ盛ニセサリシコト竝ニ無謀ニ競争シテ料率ヲ低下セシメタルコト等ニシテ危險測定ノ技術進步セズ防火消火ノ事業ニ貢獻セス唯眼前ノ私利ヲ逐ヒテ進退スルニ至リテハ大會社モ小會社モ五十歩百歩ナリ此ノ如クシテ斯業ノ墮落紛亂極點ニ達シ識者皆眉ヲ蹙ムルノ秋ニ方リ(保險雜誌第三百三十一號所載拙論)我國ニ於ケル火災保險事業ノ弊風ヲ論ス(參照)果然明治四十年八月ニ於ケル函館ノ大火災ハ一舉二百五十萬圓ノ損害ヲ斯業者ノ頭上ニ落下セシメ既ニ羸瘦ヲ極メタル數會社ハ之カ爲メニ復起ツ能ハサルニ至リシナリ

函館火災ノ直前ニ成立シタル五會社ノ同盟即チ火災保險協會ハ斯業ノ墮落

ト紛亂ヲ救フニ好適ナル措置ニシテ予モ亦會テ之ヲ唱道シタリト雖トモ曩ニ英國ノ保險料同盟ヲ評シタル如ク之ヲ惡用スルトキハ火災保險ノ如キ社會ノ必需品ニ對スル「トラスト」ト同一ニ歸シテ人民ノ福利ヲ害スルコト尠カラズ社會ノ同情ヲ失ヒ爲政者ノ心證ヲ傷ケテ復濟フヘカラサルカ如キ不利ヲ招クコト無シト言フヘカラス斯業者常ニ自重三思シテ其效果ヲ揚ケシムルニ勉メサルヘカラサルナリ

内國火災保險會社ノ勢力微弱ニシテ其保險能力ノ充分ナラサル事實ハ外國會社ノ多數ナル侵入ト其有力ナル活動ヲ以テ證スルニ餘アリ即チ生命保險ニ於テ僅ニ四箇ノ外國會社ヲ見ルノミナルニ火災保險ニ在リテハ二十四ノ外國會社カ皆我政府ノ營業免許ヲ受ケ供託金ヲ納付シテ盛ニ契約ヲ締結シツツアリ是亦吾人ノ輕輕ニ看過スヘカラサル問題ナリトス

## 第二章 火災保險ノ技術

### 第一節 火災ノ原因

火災トハ物質ノ燃燒ニシテ之カ吾人ノ財産ニ破壞的消費的ノ勢力ヲ加ヘ吾人ニ經濟上ノ損害ヲ與フル場合ヲ指シ其原因ニ至リテハ頗ル複雑ニシテ往往不可思議ナルモノ無キニ非スト雖トモ之ヲ研究スルニ非スンハ家屋其他ノ物件カ火災ノ危險ニ臨メル程度ヲ知ルヘカラス次ニ其重要ナルモノヲ列舉セントス

#### 第一 暖房

火ハ凜冽ナル寒威ニ對シテ吾人ヲ保護スルト同時ニ又之カ爲メニ慘害ヲ惹起スルコト最多ク例ヘハ我國ニ於テ圍爐炬燵行火ノ類カ數數住宅ヲ燒キ人命ヲモ損スルニ至ルカ如キ火鉢手焙等カ劇場寄席ノ火災ヲ招クカ如キ又近年西洋諸國ト同シクストーヴヨリ跳火火粉又ハ構造不良ノ結果ト

シテ大損害ヲ起スカ如キ皆火災保險者ノ著眼スヘキ點ニシテ殊ニストーヴノ裝置ニ就テハ充分研究スル所ナカルヘカラス

#### 第二 點火

種油蠟燭石油瓦斯電氣皆其危險ノ程度ヲ異ニシテ石油ノ中ニモ輕油火止油ノ如キ危險少キモノト揮發性多キ危險ナルモノトアリ瓦斯ニモ數種アリト雖トモ普通ノ點火瓦斯ニ就テモ其裝置ノ善惡取扱ノ如何ヲ別タサルヘカラス電氣ト雖トモ電線ノ完全ヲ期セサルヘカラス家鼠カ瓦斯管ヲ破リ電線ノ「ゴム」ヲ嚙ミテ爲メニ發火ヲ起スコト稀有ニ非ス殊ニ我國ニ於テ不完全ナル洋燈ヲ多ク使用スルカ如キ場合ハ最危險ナリトセサルヘカラス

#### 第三 電流

電流ノ使用カ火災ヲ減少セシメタルト同時ニ電車電燈其他ノ動力ニ使用セラルル電流ヨリ發火スルコト稀ナリトセス此般ノ裝置ニ注目スルコト

至テ必要ナリ

#### 第四 火力ノ使用

直接ニ火力ヲ使用シテ沸煮ノ用ニ供シ又ハ動力ヲ起スカ如キ廣キ場合ヲ包含スルモノニシテ粗惡ナル石炭ヲ用フル場合ニ於テ最危險多キカ如シ殊ニ煙突ノ掃除ヲ怠リ庖厨湯殿汽車及ヒ工場ノ煙突ヨリ火災ヲ起スカ如キハ常ニ見ル所ナリ

#### 第五 不注意及ヒ塵芥

此原因ヨリスル火災ハ他ノ原因ニ比シテ最多ク原因不明ノ火災ハ多ク之ニ因スルカ如シ紙片布片其他ノ塵芥ヲ倉庫ノ一隅二三階其他ノ隱所ニ堆積セシメ中ニ「マツチ」ノ交ハレルカ如キ場合ハ最危險ニシテ自然又ハ鼠族ニ依ル摩擦ノ爲メニ發火シタル實例極メテ多シ  
不注意トハ隨處ニ煙草ノ吹殻又ハ卷煙草ノ廢殘ヲ投棄シ或ハ點火ニ使用シタル「マツチ」ヲ直チニ窓外ニ投シテ願ミサルカ如キ輕卒ナル舉動ヨリ大

火ノ發生スルコト多キヲ思ヘハ吾人ハ深ク自省スル所ナカルヘカラス

#### 第六 自然燃燒

發酵性又ハ引火ノ強力ナル物質カ自然ト燃燒狀態ニ移ルコトアルハ又常ニ考慮スヘキ事項ナリ植物性油ノ浸染シタル襪襪カ比較的低度ノ熱ニ會シ鐵粉カ水ヲ含ミ麻綿羊毛等カ交互ニ濕氣ト溫熱ヲ受ケタル如キ場合ニ自然ト發火スルハ機械工場倉庫内等ニ於テ特ニ留意スヘキ事實ナリ又夏期屋瓦ノ下ニ構ヘラレタル鳩ノ巢カ日光ニ因スル積熱ヲ受ケテ火災ヲ誘起シタルコトアリ

#### 第七 摩擦

機械ヲ使用スル工場ニ多ク發生スル所ニシテ車軸ノ摩擦カ熱ヲ起シテ終ニ發火スルハ汽車ニ於テモ亦屢見ル所ナリ鐵石ノ相擊ニ因リテ火花ヲ發シ可燃性又ハ爆發性ノ物質ニ觸レテ大事ヲ起スモ亦此種類ニ屬スルモノトス

第八 化學的物質

化學的物質ハ其製造又ハ貯藏ノ場合ニ於ケルノミナラス之カ他ノ工業ニ使用セラレ又ハ普通ノ家居ニ存在スル場合ニ於テモ亦至テ危險ナル勢力タリ格魯兒性ノ物質及ヒ硝酸ハ極メテ廣ク用ヒラレ又多數ノ物質ニ包含セラレテ殊ニ危險ノ程度高シ此種ノ原因ニ就テハ特ニ専門ノ研究ヲ要シ又後ニ職業危險ヲ説クニ當リテ具體的ニ其數例ヲ示スコトアルヘシ

第九 植物性物質

馬糧ニ供スル乾草又ハ麻苧ノ類ハ著火點極メテ低キモノニシテ往往日光ノ爲メニ燃燒ヲ開始スルコトアリ又木材モ乾燥ニ過クレハ輕微ナル熱ヲ受ケテ發火スルコトアリ例ヘハ熱水又ハ蒸氣ノ暖房管カ長ク之ニ接觸セル木材ヲ熱シテ木炭ト同一ニ變質セシメ少許ノ濕氣ヲ受ケテ燃燒スルカ如シ蒸氣及ヒ熱氣ニ依ル暖房裝置ハ此點ニ於テ殊ニ危險ナリ是等モ亦別ニ専門ナル研究ヲ要ス

第二節 火災危險ノ測定

火災保險ニ於テ保險者カ引受ヲ爲スニ當リテハ先ツ當該保險ノ目的即チ保險セラレヘキ家屋建物什器商品貨物等ヲ精査シテ之カ如何ナル程度ニ於テ火災ノ危險ニ臨メルヤヲ判定シ豫テ統計ノ基礎ニ據リテ作成セラレタル危險階級ト之ニ對スル保險料表ヲ照合シテ以テ請求スヘキ保險料額ヲ決定シ或ハ又甚シク危險ナルモノニ對シテハ全然其引受ヲ謝絶スルカ如キ適當ナル處置ヲ行フノ事務ハ即チ(Fire insurance surveying)火災危險測定ト稱スル一種ノ技術ニシテ生命保險ニ於テ醫師カ被保險者タラントスル者ノ身體ヲ診査シ以テ其保險上ノ價值ヲ鑑定スルト同一ナリ故ニ此事務ニ熟達シタル者ヲ測定員(Surveyor)ト稱シ斯業ノ經營ニ缺クヘカラサル者ナレトモ代理人又ハ契約ノ事務ニ從フ社員ハ固ヨリ要部ノ支配人役員等モ亦此方面ノ一般智識ヲ具有セサルヘカラス依テ茲ニ其概略ヲ説述セント欲ス公共火災保險ニ於テ

モ亦鑑定員 (Inspector) ト稱シ被保險物ノ價格ヲ鑑定シ其危險程度ヲ識別スルノ機關ヲ備ヘタリ

火災危險ノ程度ヲ測定スルニ方リテ考案スヘキ標準事項ハ當該建造物又ハ當該動産ヲ容レタル建造物ノ構造材料位置用途防火消火ノ設備竝ニ附近ノ狀況ニシテ加フルニ物件自體ノ本質竝ニ前節ニ述ヘタル火災原因ノ伏在ヲ探究セサルヘカラサルハ無論ナリ而シテ今是等ノ事項ヲ類別スルトキハ消防設備ノ如キ消極的ニ危險ニ影響ヲ與フルモノト積極的ニ危險ノ狀況ヲ支配スルモノト二者ト爲スコトヲ得更ニ後者ヲ別チテ發火危險ト燒失危險トシ尙之ヲ數多ノ細別ト爲スコトヲ得ヘシ而シテ人意的危險竝ニ沿革的危險ハ一般ニ亘リテ考察セサルヘカラス次下順ヲ追ヒテ之ヲ説明セン

### 第一款 發火危險

發火危險トハ火災ヲ發生セシムル原因ノ存在スル確ラシサヲ指示スルモノ

ニシテ前節ニ述ヘタル火災原因ト職業ノ關係ヲ知リ更ニ進ンテ物質ノ化學的性狀ヲ研究スルコトニ依リテ定メラルルモノトス今我國ニ於テ稍適當ナル從業者ノ實行スル所ヲ參照シテ茲ニ說述スレハ發火危險ヲ分チテ先ツ普通危險ト職業危險ト爲スコトヲ得普通危險トハ吾人カ生活ノ必要上火氣又ハ可燃體ヲ取扱フ危險ニシテ主トシテ個人ニ屬スル住宅倉庫若クハ店舗ノ危險ニシテ之ニ就テ發火ノ原因ヲ研究スレハ比較的容易ニ其甚シク危險ナラサルヤ否ヤヲ知ルヲ得ヘシ

職業危險ハ職業ノ種類ト内容ノ複雜ナルカ爲メニ之カ研究モ亦普通危險ノ場合ニ於ケルカ如ク單純ナラス先ツ之ヲ分チテ共通危險ト特有危險ト爲シ共通危險ヲ再別シテ動力發生及ヒ分配ノ危險ト多人數使用ノ危險ト爲ス共通危險トハ孰レノ職業ニモ存在スルノ謂ニシテ其動力ニ關シテハ尙左ノ各種ニ就テ精密ナル調査ヲ遂ケサルヘカラス

#### 一 蒸氣發動機及ヒ傳動裝置



- 二 石油及ヒ瓦斯發動機及ヒ傳動裝置
- 三 水力發動機及ヒ傳動裝置
- 四 風力發動機及ヒ傳動裝置
- 五 電氣發動機及ヒ傳動裝置

多人數使用ニ就テノ危險ハ其分掌法監督法待遇法等ノ適否竝ニ之ニ與フル所ノ機械器具ノ良否ニ依リテ判別セラルルモノトス

特有危險即チ職業自體ノ危險ヲ有スル職業ハ之ヲ左ノ十種ニ別ツコトヲ得  
 (一) 發火助長物ヲ材料トシ又ハ之ヲ副産シ若クハ之カ生産ヲ目的トシ或ハ單ニ取扱フ職業ニシテ之ニ屬スルモノハ至テ多ク今其數例ヲ舉クレハ左ノ如シ

麥藁經木眞田製造 綿打(手打) 傘骨製造 團扇扇子骨製造 疊職 繩蒔  
 俵ノ製造 杖傘柄(竹木)製造 植物纖維漂白及ヒ製造(醱酵法藥品法ヲ除ク)  
 紡績糸瓦斯燒 毛糸モスリン瓦斯燒 鼻緒製造 製紐 製本 單寧ヲ用

フル鞣皮業 麻繩製造 納豆製造 水飴製造 製茶業 菓子製造 砂糖  
 精製 俵商 ゴム商 人工皮鍍付 燒芋商 指物職 木具職 工事小屋  
 木挽小屋 木管木型木函製造 車製造(塗ヲ除ク) 吳服太物商 履物商  
 紙商 文房具商 荒物商 繪草紙商 煙草商 綿糸商 傘商 煙草工場  
 其他類似ノ職業

(二) 引火性物ヲ材料トシ又ハ之ヲ副産シ若クハ之カ生産ヲ目的トシ或ハ單ニ取扱フ職業ニシテ發火助長物ハ燃燒熱カ接觸セサレハ燃燒ヲ開始セサルモ引火性物ハ一定ノ空間ヲ有スルモ輕微ナル熱量ヲ感シテ好ク燃燒ヲ開始スルコトアリ而シテ其傳播速ニシテ熱量亦大ナルヲ通常トスルカ故ニ之ヲ取扱フ職業ハ發火助長物ヲ取扱フモノニ比シテ火災ノ危險高度ナリトス之ニ屬スルモノ左ノ如シ

普通「ペイント」製造(發光「ペイント」ヲ除ク) 塗物業一切 「イーサー」及ヒ揮發油ヲ原料トスル製氷 石油精製 樟腦油製造 「テレピン」油製造 植物性

揮發油製造 「アルコール」製造 以上ノ物品販賣業 瓦斯「コークス」製造 「アスファルト」製造

(三) 自然發火性物ヲ材料トシ又ハ之ヲ副産シ若クハ之カ生産ヲ目的トシ或ハ單ニ取扱フ職業ニシテ他物ノ燃燒熱ヲ感受スルコトヲ要セスシテ能ク自ラ火ヲ發シ又克ク燃燒ヲ傳播セシムル物質ヲ取扱フカ故ニ前二者ニ比シテ更ニ危險ナリ而シテ單獨ニ之ニ屬スル職業ハ殆ント無ク多クハ次ニ列舉スル諸種ノ職業ト結合スト雖トモ強テ例示スレハ左ノ如シ

「カリウム」「ナトリウム」製造 燐製造 發電所 變壓所 配電所 硫硝鹽酸製造 彈丸裝藥 生石灰製造

(四) (一)ト(二)發火助長物ト引火性物ヲ兼ヌル職業ニシテ之ニ屬スルモノ凡左ノ如シ

人造燃料製造 鉛筆製造 「ブラシ」製造 石鹼製造 印刷業 軟ゴム製造 「バナ」屑竝ニ「アルコール」ヲ用フル酢製造 「フェルト」「ラバロイド」「マルソイド」

瓦製造 衝器唧筒製造 洗濯業 帽子製造

(五) (一)ト(三)發火助長物ト自然發火性物ヲ兼ヌル職業

單寧製造 混綿 打綿 「レンズ」製造 麴製造 藁紙製造 起毛

(六) (二)ト(三)引火性物ト自然發火性物ヲ兼ヌル職業

發光ペイント製造

(七) (一)ト(三)ヲ兼ヌル職業

火藥製造 火綿製造 電球製造 火帽即チ「マントル」製造 人造絹製造

「セルロイド」製造 「レザー」人工皮製造 煙花製造 燐寸製造 防水布製造

寫真製版 玩具製造 電氣鍍金 鷄卵紙製造

(八) 直接ニ火氣ヲ使用スル職業

燒芋屋 湯屋 鍛冶屋等ノ火力ヲ使用スルモノ  
煉瓦工場 陶器工場 硝子製造 「セメント」製造 鐵工所 鎔銅所等ノ強度ナル火氣ヲ使用スルモノ

是等ノ職業ハ固ヨリ危険ナレトモ通常防火ノ注意設備アルカ故ニ比較的ニ出火多カラス前七種ノ職業中火氣ヲ併用スルモノニ至リテハ危険ナルコト言フヘカラス多クハ保險會社ノ拒絶スル所ナリ

(九) 貨物ノ貯藏所

發火助長物引火性物若クハ自然發火性物ヲ貯藏スル場所ハ固ヨリ往往是等ノ物質ヲ包有セル貨物竝ニ普通ノ貨物ヲ貯藏保管スルノ職業即チ藥種問屋倉庫業等モ亦發火危険ヲ有スル職業ニシテ其管理方法ハ特ニ注目スヘキ事態ナリ

今我國ニ於テ營業セル英米火災保險會社及ヒ之ニ倣ヘル内國會社ニ於テ普通危険ト見做サルモノヲ舉クルトキハ凡ソ左ノ如シ  
 硫黃 樟腦 蠟燭 彈性ゴム 木炭 椰子油 「コブラ」 枯草 麻製袋  
 黃麻 油煙 石灰 「コンゴ」 油紙 傘 「ペイント」 「ピッチ」 樹脂 襪襪  
 燒酎 藁 蠟 「タール」 「テレピン」用樹脂 「ヴァニッシ」 酢 屑糸(絹糸ヲ除ク)

高危険物トシテ取扱ハルモノ左ノ如シ

加里 「アセチリン」液 酸類 「アラック」酒 「ベンジン」 「ベンゾリン」 二硫化炭素 一酸化炭素 「セルロイド」 「カーバイド」 樟腦油 鹽酸加里 鹽酸「ナトリウム」粉炭 「コロチオン」 煙花 爆發藥類 燈油 燐寸 「ナフタ」 「ニトログリスリン」 「バラフィン」 燐 硝石 酒精 「ヒクリック」酸 而シテ多數ノ會社ニ於テハ是等高危険ニ屬スルモノハ之ヲ取扱フ職業竝ニ之ヲ貯藏スル倉庫ニ對シテ保險契約ヲ拒絶スルコトトセリ

(十) 多人數集散ノ場所

博覽會 勸工場 會議堂 演說會場 貸席 木賃宿 下宿 旅人宿 「ホテル」 待合 飲食店 青樓 劇場 寄席 學校 病院 癡狂院 寄宿舍 寺院 是レ等多人數集散ノ場所ハ集ツテ危険ヲ多カラシムルト散シテ自然ノ監視者ニ乏シキノ二箇ノ方面ニ著眼セサルヘカラサルト同時ニ旅人宿料理店等ニ於テ警火ノ習慣嚴正ナル場合ニハ危険比較的ニ少キコトヲ

## 第二款 燒失危險

燒失危險トハ火災ノ發生シタル場合ニ於テ各種ノ物質カ如何ニ燃燒スルカ又其燃燒ハ如何ナル速度ヲ以テ如何ナル範圍ニ傳播スヘキヤ等ニ關シテ危險ノ程度ヲ論スルモノナルカ故ニ第一材料及ヒ構造ノ危險第二位置竝ニ附近狀態ノ關係第三天候ノ如何ニ就テ研究スルノ必要アリ

### 第一 材料及ヒ構造ノ危險

先ツ材料ニ就テハ建築物カ木材ノ如キ可燃體ヨリ成ル場合ニ最注意セサルヘカラス木材ハ一般ニ火災ニ對シテ殆ント見ルヘキ對抗力ナク殊ニ乾燥シタル木片ハ發火助長物タリ又木材ハ一定度ノ熱ニ逢ヒテ強度ノ引火性液體ヲ分泌シ又可燃瓦斯ヲ發散セシムルコト多シ  
可燃材料ニ對シテ耐火材料アリ然レトモ是レ必シモ火災ニ對シテ絶對的

不燃ナルヲ意味スルニ非スシテ只對抗力強クシテ火熱ノ爲メニ容易ニ分解セサル物質ヲ謂フナリ而シテ現今耐火材料ト見做サルルハ石材鐵材土類及ヒ其加工物石綿等ナリ石材ハ其種類數百ヲ以テ數フヘシト雖トモ之ヲ大別シテ花崗石石盤石砂石灰石ト爲ス花崗石ハ石材中ノ第一位ニ在ルモノニシテ火災ニ對シテ對抗力ヲ有スルコト管ニ其物質ノ堅牢ナル爲メノミニアラス其重量ノ偉大ナルニ由リテ最多シ石盤石ハ專ラ屋根ヲ葺クニ用ヒラレ我邦火災保險協會ノ料率表ニハ瓦葺ニ比シテ二割増ト定メタレトモ物質ノ上ニ於テハ瓦ト危險ノ差違ナキカ如シ砂石ハ砂ヲセメント質ヲ以テ固著セシメタリトモ見ルヘキ軟石ニシテ房州石伊豆石等之ニ屬ス物質ノ耐火力ハ素ヨリ充分ナリト雖トモ一タヒ火災ニ遇フトキハ甚シク其質ヲ損スルヲ以テ損害ノ程度多キト往往破壞ヲ招クコトヲ免レス石灰石ノ主要ナルモノハ炭酸石灰ヨリ成ル大理石ニシテ其應用ハ我國ニ於テ高貴ナル建築ノ外配電板暖爐ノ前飾等ニ見ルノミ殊ニ配電板ハ之カ

大理石ナルト否トニ就テハ火災危険ニ大ナル差違ヲ有スト雖トモ一般ニ火災ニ對スル對抗力ハ強度ナラス  
 鐵材其他ノ金屬類カ近年建築材料機械材料トシテ非常ニ多ク用ヒラルルニ至リタルハ其質堅硬ニシテ強力ナルカ故ナリ鐵ニ鑄鐵鍛鐵及ヒ鋼鐵ノ三種アリ鑄鐵ハ銑鐵又ハ生鐵ト稱シ性質鑄解シ易シ鍛鐵ハ又鍊鐵ト稱シ性鑄解シ難ク抗張力強シト雖トモ堅硬度及ヒ壓力ニ堪ユルコト鑄鐵ニ及ハス鋼鐵ニハ硬性軟性ノ二者アリ前者ハ鑄鐵ニ似後者ハ鍊鐵ニ類シ而モ其硬度ハ使用ノ目的ニ從ヒテ任意ニ之ヲ加減スルコトヲ得ルヲ以テ鐵類中ノ最貴重ナル種類ナリ  
 土類加工物中最普通ニシテ且有用ナルハ煉瓦ニシテ粘土ヲ燒キテ製造スルモノタルハ何人モ知ル所ナリ然レトモ耐火材料トシテハ其燒方ニ由リテ良否ヲ決セサルヘカラス即チ俗ニ燒過煉瓦ト稱シ相打テ憂々タル音響ヲ發スル如キヲ良質トス煉瓦ノ色ハ白色赤色淡色紫色褐色黄色玉子色青

綠色等アリ石灰分多キモノハ白色トナリ華美ナル赤色煉瓦ハ純粘土ニ多クノ鐵分ヲ含マシメ非常ナル火力ヲ以テ燒キ立テタルモノナリ淡紫色ノ煉瓦ハ所謂燒過煉瓦ニシテ倉庫等ニ用ヒテ甚良好ナリ土藏塗家等モ亦耐火ノ目的ノ爲メニ土類ヲ以テ材料トシタルモノナレトモ殆ント其效無シト言ハサルヘカラス  
 其他ノ耐火材料中重要ナルハ石綿及ヒセメントナリ石綿ハ「アスベスト」ト稱スル物質ニシテ天然ニ産スル耐火物質ナリ其不純ナルモノハ青白色ノ堅硬ナル石狀物質ニシテ稍上等ナルモノハ褐色又ハ青色ノ纖維狀ヲ呈シ純粹ナルモノハ白色ニシテ綿ノ如ク又毛ノ如キ美麗ナル纖維ヲ爲セリ此纖維ヲ以テ保溫板ヲ製シ又ハ貴重ナル耐火布ヲ織リ劇場ノ緞帳ト爲スコトアリ其用途頗ル多シト雖トモ其價格不廉ニシテ一般ノ建築材料ト認ムルヲ得ス「セメント」モ亦貴重スヘキ耐火材料ニシテ白砂石灰及ヒ水ト混合セシメタルモノヲ「コンクリート」ト稱シ重要ナル建築材料ナリ近年之ニ

鐵骨ヲ加ヘ倉庫其他特種ノ高建築ニ採用セラレツツアリ  
耐火材料ハ常ニ世間發明ノ目的ト爲リ人造木材防火「ベンキ」等ノ喋喋セラ  
ルルヲ見ルト雖トモ未タ完全ナル物ニ接セサルカ如シ殊ニ防火「ベンキ」ノ  
如キハ之ヲ木材ニ塗布スルトキハ縱令微細ナル火氣ニ對シテ耐ユル所ア  
リトスルモ到底火災ニ對シテ類焼ヲ免ルルカ如キ顯著ナル效用ヲ爲スコ  
ト能ハサルナリ

次ニ構造ノ危險ニ就テハ之カ材料ノ危險ト雖ルヘカラサル關係ヲ有スル  
ハ勿論ナリト雖トモ單ニ構造ノミニ就テ言ヘハ先ツ土臺ノ堅牢ナルヲ要  
ス是レ土臺ハ直接火災ノ危險ニ關係ナシト雖トモ之カ不充分ナルトキハ  
罹災中又ハ其後ニ建物ノ龜裂傾倒等ヲ惹起スルコトアリ故ニ高大ナル建  
造物ニ就テハ地形ト土臺面積重量等ヲ考察セサルヘカラス層ノ多少ハ又  
固ヨリ危險ノ程度ヲ異ニスルモ階下ト階上カ全ク鐵材「コンクリート」等ヲ  
以テ隔離セラレタル場合ハ猶一棟ノ建物カ完全ナル防火壁ニ依リテ隔離

セララル場合ノ如ク考察セサルヘカラス然レトモ上下ヲ通スル物揚口ア  
リテ之カ充分ナル裝置ヲ有セサル場合又ハ防火壁中ニ左右往來ノ通路ア  
ルカ如キ場合ハ大ナル注意ヲ要ス是等ヲ閉塞スル鐵扉ハ往往一方ヨリ生  
シタル強大ナル火熱ノ勢力ノ爲メニ彎曲開裂シテ其用ヲ爲ササルニ至ル  
コトアレハナリ屋根ノ葺方ハ燒失危險中殊ニ類燒危險ノ程度ニ至大ナル  
關係ヲ有スルモノニシテ其種類ヲ安全ノ順序ヲ以テ列擧スルトキハ瓦葺  
石盤葺<sup>スレート</sup>鉛葺<sup>トレン</sup>板葺<sup>トレン</sup>「フェルト」「ラバロイド」「マルソイド」葺柿葺屋根板葺茅葺藁  
葺等ニシテ雷ニ著火ノ難易ニ就テ觀察スルノミナラス出火ノ際攀登ニ便  
ナルヤ否ヤヲ究メサルヘカラス石盤葺ハ通常傾斜ノ急ナル爲メ此點ニ於  
テ危險稍多キナリ

近來我國ニ於テモ洋館漸ク盛ナラントシ殊ニ木造洋風家屋ノ多カラント  
スルニ當リテ注目スヘキハ暖爐ノ構造ニシテ其不完全ナルヨリ失火ヲ招  
クコト極メテ多シ壁ノ厚薄ト硬脆窓ノ多少モ亦注意スヘキ點ニシテ窓ノ

大且多ニシテ空氣ノ流通宜シキハ延焼ヲ速ナラシメ殊ニ隣屋ニ接スル面ニ於テ然ルハ類焼危険ヲ大ナラシムルコト何人モ皆覺ル所ナルヘシ  
大構造ノ建物カ小構造ノモノニ比シテ危険多キハ無論ニシテ劇場寺院學校官衙等ハ其燒盡スルマテ殆ント消防ノ力ニ依リテ鎮火セシムル能ハス其延焼ノ猛勢亦抑止スルニ至難ナリ

### 第二 位置及ヒ附近ノ状態

被保險物ノ位置ハ主トシテ類焼危険ノ程度ヲ左右スルモノナレトモ吾人ハ又之ト消防設備ノ關係ヲ調査スルヲ要ス類焼危険ニ就テハ通常之ヲ都市ト町村ニ別テ前者ヲ市街地ト屋敷町後者ヲ市街地ト市街ヲ成ササル場所ト爲スト雖トモ要スルニ田舎ノ一軒家ノ如キハ類焼ノ患ナキモノニシテ市街地ノ建物ト雖トモ周圍ニ空地多ク又ハ防火壁ヲ以テ離隔セラレタルモノノ如キハ類焼危険少シト謂ハサルヘカラス而シテ市街地ノ特ニ繁華ニシテ高樓軒ヲ竝ヘ人口稠密ナル部分ハ最危険ノ高度ナルコト言ヲ竣

タサルナリ

消防署又ハ其屯所若クハ消火栓トノ遠近竝ニ消防隊ノ人夫車輛唧筒等ノ容易ニ達シ得ルヤ否ヤハ又之ヲ知ルノ必要アリ  
附近ノ状態トハ獨リ當該建物ノ危険ヲ測定スルノミナラス其附近ノ關係的火災危険ヲ斟酌スヘキノ謂ニシテ劇場湯屋鐵道沿路ノ如キハ警戒スヘキモノナリ

### 第三 天候

一般ニ言ヘハ火災ハ夏期秋期ニ少ク冬期竝ニ初春ニ多シト雖トモ工場危険ノ如キハ此種ノ關係少シ寒國ニ火災多ク暖國ニ少キモ亦同シ又土地ニ由リテ特有ノ風位アリ被保險物カ風上ニ在ルト風下ニ在ルトヲ考慮スヘキハ固ヨリ市町等ニ就テモ其市街ノ方向カ風位ニ竝行セルヤ將又直角ニ在ルヤニ由リテ危険ノ等級ヲ異ニセサルヘカラス

### 第三款 消防設備

消防設備ノ完全ナルト否トカ火災ノ危険ニ非常ナル關係ヲ有スルコトハ理論上ヨリスルモ直チニ首肯セラルヘシト雖トモ實際ハ其最有力ナル證據ニシテ昔時ノ江戸大阪ニ大火多ク今日は等ノ大都會ニ於ケル火災カ多クハ速ニ鎮火スルヲ以テ見ルモ明ナリ而シテ是レ主トシテ水道ノ布設ニ謝スヘキ事態ニシテ完全ナル水道ノ設備カ國富ノ保存ニ寄與スルコト多大ナルト同時ニ不完全ナル水道例ヘハ横濱ノ如キハ却テ無キニ勝ルノ害アリ而シテ近年地方ノ都府ニ大火多キハ繁榮ト進歩ニ伴フ交通ト活動ノ増加カ火災發生ノ機會ヲ多カラシムルニモ拘ハラヌ消防設備ノ之ニ隨伴セサルノ致ス所ナリ

消防設備ハ之ヲ別チテ警火報火防火消火及ヒ救護ノ五種ト爲スコトヲ得此五種ノ盡ク整頓シタルヲ最安全ナル都市トシ然ラサルモノヲ不安全ナリト

セサルヘカラス

第一 警火設備トハ放火ヲ警戒シ又ハ火ノ用心ヲ巡視スル夜警時辰番等ヲ指スモノニシテ都府ニハ大體官公私設ノ共同警火設備アリ又一私人ニシテ之ヲ實行スル者ナキニアラス而シテ街燈軒燈等ノ多キ場所ハ比較的ニ放火少キヲ見レハ是亦警火ノ效アリト言フヘク田舎ノ神社又ハ物置ノ類カ往往自火ノ災ニ罹ルハ乞丐又ハ惡戯者ノ所業ニ對スル監視ニ乏シキカ故ニシテ消極的ニ警火ノ欠缺ニ因スルモノト謂フヲ得ヘキナリ

第二 報火設備ノ最簡單ナルハ望樓火見櫓ノ類ニシテ電信電話亦頗ル有用ナリト雖トモ最完全ナルハ歐米諸國ニ於テ市内各所ニ設置セラレ時トシテハ建物内ニモ据付ラルル報火柱ノ方法ニシテ出火ノ際吾人カ最近ノ報火柱ニ至リ通常之ニ裝置セラルル「ガラス」ノ薄板ヲ破壊シ電鈴ヲ壓スルトキハ消防署ノ一室ニ於テ錚然タル音響ト共ニ當該場所ヲ記載シタル小札憂然トシテ落下シ當直ノ吏員ハ直チニ命ヲ最近ノ屯所ニ傳ヘテ瞬時ニ消



防隊ヲ派出セシム室内ニ据付ラルル自働報火器ノ如キハ最精巧ニシテ室内ニ於ケル或急激ナル溫度ノ上騰ト共ニ直チニ報火ノ用ヲ便スル裝置ナリトス

第三 防火設備ハ耐火材料ノ使用防火扉防火壁防火戸ノ設備等有ラユル火災ノ發生延焼ヲ防止スルノ目的ヲ包含スト雖トモ獨リ之ヲ人民ノ任意ナル企畫ニ放任セス國家ノ權力ヲ以テ強制スルハ國家ノ生存繁榮上必要ナル處置ニシテ歐米諸國ノ都市ニ施行セララルル建築條例ハ即チ其形式ナリ即チ一棟ノ建造物ノ廣袤及ヒ層數ヲ制限シ中庭ヲ保留シ暖房點火ノ組織ヲ一定スル等其他綿密ナル規定ヲ設ケ火災ノ豫防ト其發生ニ際スル消火竝ニ人命財產救護ノ策ヲ講スルカ如シ我國ニ於テハ道路制屋上制限法及ヒ家屋條例等アリト雖トモ皆至テ不完全ニシテ都市ニ完全ナル建築條例ヲ設クルコトハ獨リ火災危險ノ見地ヨリスルノミナラス文明國ノ善美ナル體面ヲ保持スル上ニ於テモ其必要ナルコト識者ノ常ニ唱道スル所ナリ

第四 消火設備ハ茲ニ説明スルマテモ無ク所謂消防組織ニシテ井池河川湖沼ノ水ヲ利用スル場合ト所在水道栓ヲ利用スル場合ヲ區別スヘキハ勿論公私消防隊ノ整否ト配置竝ニ之カ遠近ニ著目シ又稍廣大ナル建設物ニ就テハ「ハイドランド」スプリング「ラ」輕便消火器等ノ設備アルヤ否ヤヲ確メサルヘカラサルナリ

第五 救護設備ハ曩ニ概述シタル倫敦火災救護隊ノ組織ヲ以テ其何タルヤヲ推知スルヲ得ヘシ我國ニ於テハ此點ニ就テ毫モ見ルヘキ設備ナシ火災保險業者カ特ニ動産ノ保險ニ就テ大ナル警戒ヲ加ヘサルヘカラサルハ此種ノ設備ヲ缺クカ故ナリ

#### 第四款 人意的危險

曩ニ第二編第四章ニ於テ説明シタル保險制度ニ隨伴スル所ノ道德的危險モラルハ火災保險ニ於テ最盛ニ活動スルモノニシテ例ヘハ家屋家財ヲ保險ニ付シタ

ル後自然警火ヲ怠リ一朝近隣ヨリ出火スルニ際シテモ走リテ救援ニ赴カス或ハ自家ノ類焼ニ遭ハントスルニ當リテモ更ニ防止ノ手段ヲ講セサルカ如キ消極的ナル危険ハ未タシモ保險金ヲ得ンカ爲メニ故意ニ危険ヲ増大セシメ甚シキニ至リテハ自ラ其家屋其他ニ放火スルカ如キ積極的ナル危険ニ至リテハ獨リ保險事業ノ根基ヲ動搖セシムルノミナラス國家社會ノ觀過スヘカラサル重大ナル害惡ナルヲ以テ之ニ對スル刑罰上ノ制裁竝ニ警察上ノ監督ヲ行ハサルニ非スト雖トモ直接利害ノ關係アル保險者ハ皆被保險物ノ自然的危険ヲ測定スルニ際シテ此種ノ危険ノ存在スルヤ否ヤヲ熟察セサルヘカラス而シテ火災ノ發生後搬出シタル財産ヲ隱匿シテ罹ラサル損害ノ填補ヲ求ムルカ如キモ亦人意的危険ノ一ニ列スヘキ事項ナリトス是等人意的危険ノ存在スル程度ハ凡ソ左ニ掲クル三種ノ標準ニ據リテ甄別セサルヘカラス

第一 被保險者ノ資産信用身分人格

人意的危険ハ道德上ノ危険ナルヲ以テ其多少カ被保險者自身ノ德義心ニ繫ルコト最多キハ當然ナリ通常ノ觀察ヲ以テスレハ資産アル者ハ罪惡ヲ敢テシテマテ保險金ヲ得ント欲セサルヘク信用アルモノハ常ニ其信用ヲ毀ケサラシムコトヲ勉ムヘク相應ノ身分ヲ有シ人格又低カラサル人士ハ其知識ト良心ノ上ヨリスルモ亦之ヲ信スルニ足ルヘシト雖トモ之カ反對ノ状態ニ在ル者ハ大ニ警戒セサルヲ得ス殊ニ民業ノ保險會社ハ愚昧ナル人民ニ對シテ官業的ノ威嚴ヲ有セサルト罪惡ニ對スル制裁モ亦間接ナラサルヲ得サルノ不利アルヲ以テ特ニ被保險者ノ身分ヲ撰擇セサルヘカラス身分ナキ者ノ家具什器ノ類ヲ保險スルノ最危険ナルカ爲メニ會社カ之ヲ拒絕スルカ如キハ斯業ノ技術ノ上ヨリシテ寔ニ已ムヲ得サルノ欠缺ナリ

第二 保險ノ目的ノ性質

保險ノ目的トハ火災保險ニ在リテハ被保險物タル家屋倉庫其他ノ建物家具什器衣服商品貨物等ヲ言ヒ其種類ト性質ニ依リテ被保險者ノ奸惡ヲ容

ルルノ餘地ニ大小アリ動産ト不動産ヲ比較スルトキハ前者ヲ以テ危険多シトシ住宅ト倉庫物置等ヲ比較スレハ後者ヲ以テ危険多シトセサルヘカラス動産ニ就テモ被保險者ノ常ニ利用スル所ノ什器衣服ノ類ト棚曝シノ商品トハ同一視スヘキニ非サルカ如シ

### 第三 目的ト被保險者ノ關係

被保險物カ被保險者自身ノ所有物ナルカ又ハ保管物若クハ貸借物ナルカ等ノ關係ハ固ヨリ之ニ著眼シテ適當ナル判斷ヲ加フヘキ事項ナリト雖トモ特ニ注意セサルヘカラサルハ建設費又ハ生産費ヲ標準トスルトキハ充分ノ價格アルモノトスルモ被保險者ノ意向境遇ノ上ヨリシテ成ルヘク賣却又ハ手離シヲ希望シツツアル物件ノ如キハ這般ノ關係ヲ慎重ニ調査シタル後ニ非サレハ之カ契約ヲ受諾スヘカラス從テ一時ノ人氣ニ投スル興業場又ハ流行ヲ逐フ物品ノ販賣店ノ如キ之カ所有者ニ對スル利益關係ノ動搖シ易キ物件ハ危険多キモノトセサルヘカラサルナリ

人意的危険ヲ防止スルノ方法ハ其主要ナル原因タル超過保險ヲ嚴禁スルヲ以テ最有力ナリトセサルヘカラス超過保險トハ被保險物ノ正當ナル價額ヲ超エタル保險金額ヲ契約スルヲ稱シ此状態ヲ以テ保險上危険ノ頗ル大ナルモノトス何トナレハ火災ニ罹リテ却テ利益ヲ博取スルノ觀念ハ吾人ヲシテ寧ロ危険ノ發生ヲ希望セシムレハナリ故ニ如何ニ自餘ノ危険測定ニ於テ正當ヲ得ルトスルモ超過保險ノ如キ根本的危険ヲ顧慮セサルトキハ危険測定ノ實行ヲ無意味ナラシムルモノト言ハサルヘカラス而シテ此状態ハ必シモ契約締結ノ際ヨリ存在スルモノニ非ス契約ノ當時ニハ正當ナル價額ナリシモ後相場ノ變動ニ因リテ低落スルコトナシト言フヘカラス此場合ニ即チ超過保險ノ状態ニ陥ルコトアルヲ以テ保險者ハ又豫メ之ヲ考慮セサルヘカラス勿論我商法ノ規定ニ依リテ當事者間ニ保險價額ヲ定メタル場合ト雖トモ損害發生ノ際保險者カ著シク其過當ナルヲ證明スルトキハ填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得(第三九四條)ト雖トモ保險者カ此權利ヲ行使スルニハ實際

上非常ニ障碍多キト同時ニ保險者カ之ヲ應用スルトキハ損害填補ニ際シテ常ニ苦情ヲ唱へ被保險者ノ利便ヲ害スルコト尠カラサルカ故ニ斯業ノ弊風多キ米國諸州ニ於テハ定價證券法 (Valued Policy Law) ト稱シ契約ノ當時ニ協定シタル保險價額ハ全損ノ場合ニ於テ之ヲ動スヘカラス保險者ハ必ラズ契約ノ保險金額全部ヲ支拂ハサルヘカラサル旨ノ法律ヲ定メタル程ナリ故ニ保險者ハ保險價額ト保險金額ノ決定ニ就テハ之カ現在並ニ將來ニ於テ超過保險ノ事實ニ陷ラサルヲ旨トセサルヘカラス

超過保險ヲ避ケテ以テ人意的危險ノ餘地ヲ減縮セシムルト同時ニ更ニ保險契約ノ安全ヲ圖ランカ爲メニハ一部保險ノ方法ヲ固守シ保險金額ヲシテ常ニ保險價額ニ及ハサラシムルヲ必要トス歐洲諸國ノ公立火災保險ニ於テ保險ハ常ニ被保險物ノ査定價額ノ例ヘハ四分ノ三ニ就テ行ハルルモノト規定セラルルカ如キ米國ニ於テ共同保險約款ト稱シ保險契約ハ常ニ保險價額ノ百分ノ八十二就テ行ハルルモノタルヲ定ムル習慣アルカ如キハ皆此安全ヲ

圖ルカ爲メニシテ何故ニ安全ナリヤト言ヘハ殘餘ノ部分ニ就テハ被保險者自身ヲシテ保險者ノ地位ニ立タシメ利益保護並ニ損害防止ノ責任ヲ分タシムルノ方法ナルカ故ナリ我國ニ於テモ確實ヲ貴フ保險業者カ保險價格ノ査定ヲ嚴密ニシ其七割又ハ八割以上ノ保險金額ヲ契約セサル内規ヲ定ムルカ如キハ人意的危險ヲ抑止スルノ目的ニ出ツルナリ

### 第五款 沿革的危險

人生ニ於テモ厄歲ト言フカ如ク若シ極メテ仔細ニ其原由ヲ攷覈スルトキハ或ハ爭フヘカラサル道理アルヤモ知ルヘカラスト雖トモ而モ通常神祕的事實ノ範圍ニ納メラルルモノアリ火災ニ就テモ亦往往此種ノ事實アリ假ニ沿革的危險ト名ケタリ例ヘハ一生ニ於テ火災ノ難ニ遭フ者ハ比例ニ於テ其數至テ少キニモ拘ハラス數回火災ニ遭遇シ移轉スレハ又其場所ニ於テ類燒ノ禍ニ罹ルカ如キ火災ト因縁ノ深キ人無キニ非ス此ノ如キ被保險者ヲ拒絶ス

ルハ殆ント迷信ニ類スヘシト雖トモ再三火災ノ起リタル場所若クハ沿革的ニ火災多キ地方等ハ及フ限リ其原因ヲ討尋シテ警戒スル所無カラサルヘカラサルナリ

以上五款ニ説述シタル研究ト方法ニ依リテ當該物件ノ危険程度ヲ測定シ例ヘハ最小危険小危険普通危険高危険最高危険ト云フカ如キ階級ニ之ヲ當儀メテ保険料ノ率ヲ決定シ或ハ拒絶スルモノトス而シテ此事項タルヤ前述ノ如ク一箇専門ノ技術ニ屬スルモノタルヲ以テ固ヨリ本書ノ善ク盡ス所ニ非ス唯其一般觀念ト方法ノ概要ヲ指示シタルノミ

### 第三章 火災危険ノ分配

前章ニ述ヘタル危険測定ノ技術ニ依リテ各箇ノ被保險物カ火災危険ニ臨メル程度ヲ精査シ之ニ相當セル保険料ヲ定メテ以テ引受ヲ爲ストキハ事業ノ安全ヲ得ヘキヤト言フニ決シテ然ラス何トナレハ保險事業ニハ自然的危険

竝ニ人意的危険カ各箇ノ保險ノ目的ヲ圍繞スル外ニ事業ノ全體ニ對シテ數學的危険ナルモノ隨伴シ之カ火災保險ニ就テ特ニ重要ナル關係ヲ有スレハナリ而シテ此種ノ危険ニ對スル數學的説明ハ姑ク之ヲ措キ最通俗ニ之ヲ説明スルトキハ縦合箇箇ノ危険ハ正當ニ計量セラレタリトスルモ總體ニ就テ保險者ノ胃ス所ノ危険カ或事情ノ下ニ豫想ノ危険ト懸隔アルコトヲ謂フナリ或事情トハ例ヘハ事業開始ノ初期ニ於テ被保險物ノ件數未タ充分多數ナラサル場合毎件ノ保險金額カ非常ニ大小ノ懸隔アル場合危険ノ極メテ高度ナル物件ヲ引受ケタル場合被保險物ノ密集シタル場合等ニ此種ノ危険ノ甚大ナルヲ見ルヲ言フナリ故ニ斯業ニ於ケル損害ノ發生ヲ平均緩和ナラシムルニハ成ルヘク危険程度ノ近接シ成ルヘク保險金額ノ差違少キ被保險物ヲ成ルヘク多數成ルヘク諸方ニ散在シテ有スルコトニ存ス而モ保險業者ハ曷ソ此ノ如キ隨意ナル撰擇ヲ行フヲ得ヘケンヤ時トシテハ總保險金額ノ未タ多カラサルニ巨額ナル申込ヲ承諾セサルハカラサル場合アルヘク或ハ高危

險ノ物件ヲモ引受ケサルヘカラサル場合アルヘク或ハ自然被保險物ノ密集ヲ防ク能ハサル場合アルヘシ而シテ之ヲ其止ムヲ得サルニ任サンカ或ハ一時ニ大損害ヲ被リ或ハ危險物件ノ頻頻タル燒失ニ接シテ他ノ小額ニシテ危險少キ保險契約ヨリ收納スル所ノ保險料ハ支拂金額ヲ充スニ及ハス統計ノ根基ヲ覆シ危險測定ノ效力ヲ奪フノ結果ヲ生スルモノトス

故ニ當業者ハ先ツ其資本金額ト總保險金額ヲ顧ミテ過大ナル金額ト甚シク高危險ノ被保險物ヲ契約スルヲ避ケ特ニ被保險物ノ同一區域ニ集中シ同一風位ニ竝列スルカ如キヲ戒メテ以テ一時ニ巨額ナル支拂ノ發生スルヲ防キ以テ危險ノ良好ナル分配ヲ圖ラサルヘカラスト雖トモ此ノ如キ單獨ノ手段ハ業務ノ擴張ヲ妨クルコト少カラス是ニ於テカ他ノ同業者ト聯合シテ互ニ危險ノ分配ヲ實行セサルヲ得ス共同保險及ヒ再保險ハ即チ其手段ナリ

共同保險トハ一箇ノ被保險物ニ關スル利益ヲ數多ノ保險者カ保險スル場合ニシテ例ヘハ甲ノ保險者カ一棟ノ建物ニ付テ十萬圓ノ申込ヲ受ケ單獨ニ之

ヲ引受クルヲ不安ナリト思惟スルトキハ被保險者ノ同意ヲ得テ乙丙ノ保險者ト謀リ甲ハ四萬圓乙丙ハ各三萬圓ヲ引受クルカ如キヲ指スナリ而シテ再保險ハ更ニ其利用ノ範圍廣クシテ甲ノ保險者カ先ツ自ラ十萬圓ノ引受ヲ爲シ自己ノ責任ノ一部ヲ更ニ乙丙ニ保險セシムルコトアリ又ハ其附近ニ既ニ多數ノ契約アリテ新ナル被保險物ヲ容ルルノ餘地ナキトキハ其全部ヲモ他ニ轉嫁セシムルコトアリ或ハ類燒危險又ハ自火危險ノミヲ分チテ之ヲ再保險ニ付スルコトアリ或ハ保險期間ノ一部ヲ割キテ他ニ負擔セシムルヲ妨ケス數多ノ會社カ斯クシテ互ニ一ノ危險ヲ分割共擔スルトキハ各自危險ノ良好ナル分配ヲ得テ業務ノ安全ヲ期圖スルヲ得ルト同時ニ社會ニ對シテ充分保險ノ需要ヲ満足セシムルニ足ルヘキナリ

#### 第四章 保險契約ノ要項

火災保險ノ契約上ノ關係ハ我國ニ於テハ勿論商法第三編第十章第一節ニ規

定セラレタル損害保險ノ總則ト火災保險ニ關スル特別規定ニ支配セラルヘキモノナレトモ實際ハ是等ノ規定中強行的ノ性質ヲ有セサルモノニ對シテハ當事者間ニ於テ却テ反對ノ契約ヲ締結スルコト無キニ非ス況ンヤ法律條規ノ不備ナル場合多キニ於テヲヤ是ニ於テカ予ハ我國火災保險業者カ再保險授受ノ便宜上一ノ除外無シニ共通ニ使用スル所ノ普通保險約款ニ就テ其要項ヲ説明セサルヲ得ス

第一 保險者ノ負擔セサル火災危險ノ種類

我商法第四百十九條ニ依レハ「火災ニ因リテ生シタル損害ハ其原因如何ヲ問ハス保險者之ヲ填補スル責ニ任ストアルニ對シ保險約款ハ左ノ除外ヲ設ケタリ曰ク

左ニ掲クル損害ハ當會社填補ノ責ニ任セス

- (一) 保險契約者又ハ被保險者ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害(商法第三九六條)

- (二) 火災ノ際保險ノ目的紛失シ又ハ竊取セラレタルヨリ生シタル損害
- (三) 保險ノ目的ノ性質瑕疵又ハ自然ノ消耗ニヨリテ生シタル損害(商法第三九六條)

- (四) 戰爭暴動其他ノ事變ノ爲メニ生シタル火災及ヒ其延燒其他ノ損害(商法第三九五條參照)

- (五) 原因ノ直接ト間接トヲ問ハス地震又ハ噴火ノ爲メニ生シタル火災及ヒ其延燒其他ノ損害

- (六) 保險ノ目的中ニ存在シ又ハ其目的ニ附屬スル汽罐汽機其他汽關ノ破裂又ハ火藥ノ爆發ノ爲メニ生シタル火災其他ノ損害

- (七) 保險契約者又ハ被保險者カ法律命令ニ違反シタルニ因リ生シタル損害

- (一) 竝ニ(七)ノ損害ハ保險ノ本質上竝ニ公安上當然填補セラルヘキニ非ス
- (二) 雖トモ(二)(四)(五)(六)ノ危險ハ或ハ監視ノ困難ナル爲メ或ハ過大ナルカ若ク

ハ高度ニ過クルカ爲メニ保險者ノ任意ニ除外シタル所ノモノナリ故ニ又隨意ノ特約ヲ以テ之ヲ負擔スルヲ妨ケサルナリ

第二 保險ノ目的

火災保險ハ一切ノ動産不動産ヲ其目的トスト雖トモ特定セル場所ニ於ケル建物又ハ或建物内ニ於ケル家具什器其他ノ動産一式ト云フカ如キ契約ヲ締結スル場合ニハ明約アルニ非サレハ建物ニ就テハ門圍障壁物置納屋其他ノ附屬建物ヲ除外シ動産ニ就テハ貨幣印紙貴金屬寶玉證書有價證券書畫稿本彫刻物古器物其他普通價格ヲ有セサル系圖珍品ノ類ヲ除外セリ

第三 保險契約無効ノ場合

- (一) 保險契約者カ保險申込ノ當時重要ナル事實ヲ告ケヌ又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキ(商法第三九八條參照)
- (二) 保險申込ノ當時同一ノ目的ニ付キ他ノ保險者トノ間ニ締結シタル契

約アルコトヲ告知セサリシトキ

- (三) 他人ノ爲メニスル契約タル旨ヲ告知セサリシトキ(商法第四〇二條)
- (四) 保險契約者又ハ被保險者カ知レルト否トヲ問ハス保險契約ノ當時保險ノ目的カ既ニ火災ニ罹リ居タルトキ又ハ火災ニ罹ルヘキ原因既ニ發生シ居タルトキ(商法第三九七條參照)

- (五) 保險金額カ保險價額ニ超過シタルトキハ超過部分ヲ無効トス(商法第三八六條)

- (一) ハ商法ニ於テ保險契約者ノ惡意又ハ重過失ニ因ル虛陳不陳ノミヲ規定セルヲ總テノ場合ニ擴張シタルモノニシテ(二)ハ共同保險又ハ重複保險ノ存在ヲ告知セサリシ場合(三)ハ保險契約者カ自己ノ所有又ハ其他ノ利害關係ニ在ラサル者ヲ保險ニ付スル場合ナリ而シテ(四)ハ我商法ノ規定ニ保險契約者又ハ被保險者カ損害ノ既ニ發生セルヲ知ラスシテ當該物件ヲ保險ニ付シタル場合ニハ保險契約ヲ有效トストアルヲ變更シタルナリ



第四 保險契約失效ノ場合

- (一) 保險契約者又ハ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ更ニ他ノ保險者ト契約ヲ締結セント欲スルトキハ豫メ之ヲ保險者ニ通知シテ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ受クヘキコト
  - 第三者カ同一ノ目的ニ付キ他ノ保險契約者ト契約ヲ締結シタル事實ヲ知リタルトキ亦同シ
  - (二) 危險ノ著シク變更増加シタルトキ保險ノ目的ヲ移轉シ又ハ建物ヲ改築増築又ハ修繕セントスルトキハ之ヲ通知シテ前項ノ裏書ヲ受クヘキコト(商法第四一〇條及ヒ第四一一條參照)
  - (三) 保險ノ目的ノ讓渡ト共ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタル場合ニハ讓渡人及ヒ讓受人ヨリ速ニ之ヲ申出テテ裏書ヲ受クヘキコト(商法第四〇四條參照)
- 以上ノ通知及ヒ手續ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ效力ヲ失フモノトス

第五 保險者ノ解除權

- (一) 保險者ハ保險契約ノ存續中何時ニテモ保險ノ目的ヲ検査スルコトヲ得ルニモ拘ハラズ相手方カ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒絕シタルトキ
  - (二) 保險者カ危險ノ變更増加ヲ認メタルトキ
- 以上ノ場合ニ保險者ハ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第六 損害填補

- (一) 保險ノ目的火災ニ罹リタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ヨリ遲滞ナク書面ヲ以テ之ヲ保險者ヘ通知シ十五日以内ニ火災ノ狀況調書及ヒ損害見積書ヲ作リテ差出スヘキモノトス
- (二) 損害ハ通常通貨ヲ以テ填補スヘキモ保險者ノ任意ニ現品ノ交付又ハ修繕再築ノ方法ヲ以テ之ニ代フルコトアリ
- (三) 共同保險又ハ重複保險ノ場合ニ於テハ數箇ノ契約ガ同時ニ結ハレタルト<sup>レ</sup>順次ニ結ハレタルトヲ問ハス總テ各保險者ノ金額ノ比例ヲ以テ損

害ヲ分擔スルモノトス是レ我商法ノ順序填補主義ヲ不便ナリトシテ採用セサル結果ナリ(商法第三八七條及ヒ第三八九條參照)

(四) 損害防止ノ費用ハ特約アルニ非サレハ保險者之ヲ填補セス商法第四百十四條ノ主義ト異ナレリ

#### 第七 爭議ノ仲裁

危險發生ノ狀況ニ依リ損害ノ程度ヲ異ニスル保險ノ種類ニ在リテハ獨リ火災保險ニ於ケルノミナラス海上保險ニ於テモ傷害保險ニ於テモ填補額ニ就テ當事者間ニ異議ノ發生スルコトヲ免レス此場合ニハ一一訴訟ヲ以テ決スルカ如キ煩ニシテ不經濟ナル方法ヲ避ケ雙方ヨリ一名ツツ評價人ヲ選任シ之ヲ評價セシメ評價人ノ意見一致セサルトキハ評價人合意ノ上一名ノ仲裁人ヲ選ヒテ之ヲ判斷セシメ此判斷ニ對シテ雙方異議ヲ申立テサルコトトセリ而シテ判斷ニ要スル費用ハ雙方半額ツツ負擔スルモノトス

#### 第八 契約ノ繼續

火災保險契約ノ期間ハ日歩保險ト稱シテ日日契約ヲ更新スルモノ竝ニ數月數日ノ短期ナルモノノ無キニ非サルモ通常一箇年ヲ以テ一契約ノ期間トシ其滿了ニ際シテ保險契約者カ保險者ノ要求スル保險料ヲ拂込ムトキハ申込竝ニ契約ニ關スル手續ヲ省略シ保險料ノ領收證ヲ以テ次ノ期間ニ對スル契約ノ繼續ヲ證明スルコトトセリ而シテ以前ニハ生命保險ニ於ケルカ如ク保險料ノ拂込ニ對スル猶豫期間通常一週間ヲ與ヘシカ今ヤ之ヲ廢セリ世間往往保險期間漸ク滿了シテ未タ次回ノ保險料ヲ拂込マサル以前ニ火災ニ罹リ保險金ヲ得ル能ハサルノ不幸ニ遭遇スル者アリ被保險者タル者大ニ注意セサルヘカラス

### 第五章 火災保險事業ノ財政

火災保險事業ハ生命保險事業ニ比シテ更ニ財政ノ容易ナラサルモノアリ而

シテ是レ斯業カ競争ノ餘地廣クシテ之カ爲メニ收支ノ權衡ヲ失フコト多キニ職由スルナリ生命保險事業ハ一タヒ加入者ヲ得ルトキハ數十年又ハ其終身間之ヨリ絶エス保險料ヲ收納スルコトヲ得往往途中ノ解約者ヲ見ルコト無シト言フヘカラスト雖トモ解約ハ保險契約者ニ取リテモ通常損失ヲ招クモノナルカ故ニ之レ固ヨリ一小部分ナルニ過キス然ルニ火災保險契約ハ一箇年ヲ一期トシ保險者カ確乎不動ナル信用ヲ有スル場合ト雖トモ滿期前ニ於テ敏捷ナル契約繼續ノ勸誘ヲ爲ササルニ於テハ他會社ノ爲メニ之ヲ奪取セラルルコト少カラス同業者互ニ敵ノ本城ヲ衝キテ戮戦スルニ當リテハ必然契約費用ノ増嵩ト同時ニ保險料率ノ低落ヲ見サルヘカラスト此競争激甚ヲ極メテ終ニ常軌ヲ失スルニ至リテハ料率ハ支離滅裂ニ歸シ再保險ハ杜絶シテ危險ノ分配毫モ行ハレス頻頻巨額ノ損害ヲ被リテ會社ノ倒産踵ヲ接スルニ至ルヘシ我國ニ於テモ歴史ハ既ニ此事實ヲ立證シテ餘アリ然リト雖トモ斯業カ此ノ如キ墮落狀態ニ陷ラサル場合ト雖トモ火災保險會

社ノ財政ハ頗ル困難ニシテ「キッチン」氏ハ其著「火災保險ノ理論及ヒ財政」ニ於テ言ヘリ千八百九十五年ヨリ十箇年ヲ遡リタル間ニ於ケル英國火災保險會社全體ノ平均費用率ハ收入保險料ノ三割一分六厘千九百一年ニハ増嵩シテ三割四分三毛トナリ翌年ハ更ニ増嵩シテ三割四分四厘六毛ニ達セリ此ノ如クニシテ又惡年ニ遭遇センカ利益ノ出ツル所殆ント無キニ至ルヘシ千九百一年ハ北米合衆國及ヒ加奈太ニ於テ大損害ヲ被リタル凶歲ニシテ支拂保險金額ハ收入保險料ノ六割三分六厘九毛ニ達シ之ニ上記ノ經費三割四分三毛ヲ加フルトキハ利益ハ僅ニ收入保險料ノ二分二厘八毛ヲ剩スノミ是レ頗ル惡例ナリ然ルニ翌年ハ支拂保險金五割二分二厘ニシテ之ト經費三割四分四厘六毛ヲ合スルトキハ利益トシテ一割三分三厘四毛ヲ剩スノ計算ニシテ良好ナル結果ト言ハサルヘカラスト火災保險事業ハ吉年ト凶歲ノ差此ノ如ク顯著ニシテ是レ事業ノ性質上止ムヲ得サル現象ナリ故ニ勝テ驕ルヘカラスト敗レテ歎クヘカラサルノ俚諺ハ斯業者ニ取リテ最服膺スヘキ格言ニシテ吉年

ニ喜フハ無智ナリ凶歳ニ悲ムハ淺慮ナリ吉年ニ剰シ得タル大ナル利益ハ眞ノ利益ニ非ス凶歳ニ損シタル所ノモノハ眞ノ損失ニ非ス利益ト損失ヲ數年又ハ十數年ニ平均スルヲ以テ保險事業ノ本意トス然ルニ世間比年火災ノ僅少ニシテ剰ス所多キニ安ンシ得タル所ノ利益ハ盡ク之ヲ株主ニ配當シ保險料ハ被保險者ノ望ムニ應シテ年々低下セシメ而モ一朝大凶歳ニ逢遇センカ資本ニ多大ノ缺損ヲ起シテ周章狼狽ノ醜態ヲ露ハシ狂憤亂騷此損失ヲ回復センカ爲メニ保險料ヲ一時ニ數倍ノ高キニ引キ揚ケントスルアリ如何ニ收利ヲ本位トスル營業者トハ言ヒ乍ラ被保險者ノ名狀スヘカラサル困難ヲ顧ミス社會ノ公益ヲ賊シテ恬然タルハ豈憎ムヘキノ至ナラスヤ此ノ如キ火災保險業者ハ素ヨリ斯業ノ財政ヲ解スル能ハサル者ナリ

生命保險ノ部ニ於テモ予ハ危險準備金ノ設備ニ就テ其必要ヲ呼號シタリト記憶ス況ンヤ數學的危險ノ高度ナル火災保險事業ノ經營ニ於テヲヤ平年ニ於ケル剩餘金ノ著大ナル部分ヲ準備金トシテ蓄積シ以テ斯業ノ衡平ト安泰

ヲ圖ルハ其財政ノ要訣ナリ

火災準備金 (Fire Reserve) ハ拂込及ヒ未拂込ノ資本金ト相合シテ絶對的ニ此事業ノ龍骨タリ社會ノ公衆カ保險料ヲ拂込ムニ當リテ信賴スル所ハ之ニ在リ會社カ保險金ノ請求ニ對シテ其能力ヲ示シ得ルハ之カ爲ナリ

適當ナル準備金額ナクンハ火災保險事業ハ投機ト擇フ所ナキナリ (キッチン) 氏著火災保險ノ原理及ヒ財政一九〇四年出版第二一九頁)

### 第三部 海上保險

曩ニ述ヘタル如ク海上保險ハ保險種類中ノ最古ナルモノニシテ自餘ノ保險事業カ漸ク近代ノ竝立ト發達ヲ得ル以前ニ於テ既ニ商業ノ一種トシテ繁盛シ夙ニ其法律的方面竝ニ商業的智識ノ講究ヲ經テ之ニ關スル該博ニシテ卓絶セル著書ニ乏シカラス我國ニ於テモ村瀬博士ノ共同海損講義要領竝ニ海

上保險ノ著アリ本書ノ如キ一般經濟的講究ヲ主眼トスルモノニ於テ稍精細ナル記述ヲ試ミントスルハ機宜ヲ得タルノ業ニアラス是レ故サラニ此部門ノ研究ヲ簡約シタル所以ナリ

## 第一章 海上保險ノ沿革

海上保險カ保險トシテノ成立ト繁榮最早クシテ之カ十二世紀ノ末葉ニ於ケル猶太人ノ運送保險ヨリ發達シ又十三世紀ニ於テ中世ノ冒險貸借ヨリ變遷シタルコトハ曩ニ保險ノ起源ヲ説クニ當リテ述ヘタル所ノ如シ而シテ此事業カ航海ト商業ヲ幫助スルノ必須ナル機關トシテ幾モナク歐洲各國ニ傳播シ所在隆盛ヲ極メタルコトハ是亦保險法學ノ發達ヲ説クニ當リテ掲ケタルガ如ク即チ千四百三十五年西班牙ノ「バルセロナ」ニ於テ保險法ノ制定アリ千五百二十三年伊太利ノ「フロレンス」ニ於テ海上保險法發布セラレ同五十一年ニ「チャールス」五世「ブラッセル」ニ海商法ヲ作り千五百六十三年及ヒ六十五年ニ

西班牙ノ「フィリップ」二世保險ニ關スル新規定ヲ加ヘ千五百六十年「ビルバオ」ニ保險條例千五百六十三年「アントウアブ」ニ保險及ヒ海損ニ關スル勅令發布セラレ同九十三年同所ニ保險裁判所同九十八年「アムステルダム」ニ海上保險裁判所ノ設置アリ英國ニ於テハ千六百一年「エリサベス」ノ海上保險法アリ獨逸ニ在リテハ千七百三十一年「ハムブルヒ」海損及ヒ保險條例出テタル等ノ事實ヲ以テ推知スルニ足レリ

保險事業ハ古ヨリ今ニ至ルマテ一般ニ組合又ハ會社ニ依リテ營マレタリト雖トモ海上保險ニ限リ一個人ノ營業タリシコト頗ル多ク其起源ハ中世海上保險ノ稍發達セントスルニ當リテ寺院法ノ規定ニ由リ利子ヲ授受シテ金錢ヲ貸借スルコトヲ許ササリシカ爲メ一個人ノ富豪カ皆其資本ヲ此業務ニ投資タルニ在リ世界ニ於ケル海上保險ノ始祖ニシテ其本據トモ謂ツヘキ「ロイボレーション、オフ、ロイヅ」(London Corporation of Lloyd's)ヲ約言シタルモノニシテ其

歴史ハ殆ント海上保險ノ歴史ナリト稱セラルル程ナルヲ以テ茲ニ少シク之カ沿革ト組織ヲ述フヘシ傳ヘ曰フ第十七世紀ノ終ニ方リテ珈琲ノ始メテ歐洲ニ輸入セラルルヤ之ヲ嚮ク所ノ茶亭貸席ノ類忽チ倫敦ノ處處ニ開店シ暫時ニシテ繁盛ニ赴ケリ中ニモ倫敦ノ般賑ナル街衢ニ在ルモノハ自然商人船主保險業者仲買其他ノ實業家ノ集會所トナリ遂ニハ此處ニ船舶ノ入札貨物ノ賣買等ヲ行フニ至リ就中最繁昌シタルヲ「ロイド」(Lloyd)氏ノ珈琲店ナリトス氏ハ頗ル機敏ナル才子ニシテ千六百九十六年ノ八月ニ「ロイズ、ニュース」ト云ヘル實業新聞ヲ發行シ内外ノ商業ニ關スル記事ヲ掲ケタリシカ商業社會ヲ裨益スルコト少カラス。特ニ船舶業者及ヒ保險業者ニ最便益ヲ與ヘテ「ロイド」氏ノ珈琲店ハ幾モナクシテ海上保險業者ノ淵藪トナリ其中心トナレリ。千七百二十年ニ至リ「ロイヤル、エキステュエンジ」及ヒ「ロンドン、アッシュアランス、コーボレーション」ノ二會社政府ノ特許ヲ得テ海上保險業務ヲ營ムニ至リ一個人ノ保險業者ハ忽チ滅亡スルカト思ヒノ外依然トシ其事業ヲ繼續擴張スルヲ

得タリ是畢竟政府カ此二會社ニ特權ヲ與ヘテ他ノ會社ノ設立ヲ許サザリシヨリ却テ競争者ノ發生ヲ見サリシニ因ルナルヘシ而シテ千八百二十四年ニ二會社ニ對スル特權ヲ解キ爾來多數會社ノ竝馳ヲ見ルニ至レリト雖トモ「ロイズ」ハ依然トシテ斯業ノ霸權ヲ掌握セリ「ロイズ」トハ「ロイド」ノト云フ意ニシテ「ロイド」ノ珈琲店ヲ單約シタル語ナリ斯クシテ「ロイズ」ハ素ヨリ單ニ海上保險業者ノ集會所ニ過キサリシカ。時ト共ニ浸染セントスル賭博保險ノ弊害ヲ防キ名譽ヲ廓清シ信用ヲ確實ニスル爲メ有力者協議シテ嚴重ナル規約ヲ設ケ之ニ據リテ協會ヲ組織センコトヲ企畫シ千七百七十年ニ至リテ之カ實行ヲ見ルヲ得以來尙「ロイズ」ノ名稱ヲ襲用スト雖トモ「ロムバード」街ナル珈琲店ヨリ移轉シテ現今ノ位置ナル「ロイヤル、エキステュエンジ」ニ來リ爰ニ永久ノ礎石ヲ据エ而シテ千八百七十一年更ニ政府ノ允許ヲ得テ現今ノ組合組織ヲ確立シタルナリ

此組合ノ定款ニ依リテ定メラレタル「ロイズ」ノ目的左ノ如シ

一 組合員共同シテ海上保險業ヲ營ムコト  
 二 船舶積荷及ヒ船賃ニ關シテ組合員ノ利益ヲ保護スルコト  
 三 船舶ニ關スル通信報告ヲ蒐輯發行及ヒ配付スルコト

組合員ハ保險者及ヒ非保險者ノ二種ヨリ成リ前者ハ自己ノ資本ヲ以テ自己ノ利益ノ爲メニ保險業ヲ營ムモノニシテ後者ハ保險仲立人ブローカー竝ニ自己又ハ第三者ノ計算ニテ保險者ト契約ヲ締結スル者ナリトス現今ハ一個人タラストモ保險會社ニシテ「ロイヅ」ニ加入シ保險者トシテ業務ヲ營メル者少カラス以上三種ノ組合員ノ外ニ受信員ト稱シ「ロイヅ」ノ通信部ヨリ世界ノ各部ニ於ケル船舶ノ發著難破其他一切ノ報告ヲ受クルノ權アル者アリ英國ハ勿論外國ノ保險會社モ之ニ加名スル者頗ル多シ

「ロイヅ」ノ出版物ニハ先ツ前記船舶ニ關スル出來事ノ一切ヲ通信スル所ノ「ロイヅ・リスト」アリ箇ハ昔時「ロイド」氏カ發行シタル「ロイヅ・ニュース」ノ一タヒ廢レタルヲ與シテ千七百二十六年來發行セルモノニシテ「ロイヅ」ハ世界到ル處ノ

要港ニ出張店代理店通信員ヲ有スルカ故ニ凡ソ船舶竝ニ海上商業ニ關スル重要ナル事件ハ有ラユル通信ノ機關ニ依リテ直チニ其本部ヘ報告セラレ「ロイヅ」ハ又直チニ之ヲ諸種ノ組合員ニ報告スルナリ「ロイヅ・リスト」ノ外ニ「インデックス」ト稱シテ英國商船及ヒ多數外國船舶ノ最近ノ消息及ヒ碇泊地ヲ掲ケタル記録アリテ之ヲ備付ケ何時ニテモ加名者ノ閱覽ニ供シ又船長名簿キャプテンズレジスタート稱シテ英國ニ於テ免狀ヲ有スル船長ノ氏名履歷ヲ記載セルモノヲ發行セリ而シテ特ニ有名ナルハ其船名錄ロイヅレジスターニシテ英國船ハ固ヨリ諸外國ノ船舶ニ至ルマテ百噸以上ハ之ヲ網羅シ其名稱年齢構造修繕竝ニ一般ノ狀況等ヲ調査シ「ロイヅ」ノ定メタル等級ヲ付シテ之ヲ掲載セリ海上保險業者ハ固ヨリ荷主船客等モ之ニ依リテ船舶ノ良否ヲ確識スルヲ得船舶業者モ亦之ニ依リテ其信用ヲ發揮スルヲ得宇内航海事業ノ發達ニ資スル所鮮少ナラサルナリ

「ロイヅ」ノ保險業者ハ海上保險ヲ以テ其本來ノ業務ト爲スト雖トモ又其他ノ保險ノ種類ヲ行ハサルニ非ス火災保險ノ如キ其主要ナルモノニシテ曩ニ保

險種類ノ中ニ掲ケタル祭典興行物等ニ關スル臨時ノ保險ハ常ニ「ロイヅ」保險業者ノ營ム所ナリ

「ロイヅ」ナル名稱ハ如上ノ起源ヲ以テ英國ニ於ケル倫敦「ロイヅ」ノ冠スル所ナリト雖トモ之カ殆ント航海海商ノ事業ヲ代表シタルノ事實ヨリ船舶業者ニシテ「ロイヅ」ナル名稱ヲ冒ス者少カラス「ノース、ジャーマン、ロイヅ」ノ如キ其著大ナルモノナリ

海上保險業務ノ本邦ニ開始セラレタルハ明治十二年ニシテ東京海上保險會社ヲ以テ其嚆矢トス此會社ハ明治二十六年ニ至ルマテ十四年間我國海上保險ノ舞臺ヲ獨占シテ利益ヲ收ムルコト少カラサリシカ同年ニ至リ保險ノ企業熱ハ此領土ニモ及ヒ一時ニ五會社ノ設立ヲ見二十九年ニ又一會社ヲ加ヘタリシカ内外國ニ於ケル業務ノ失敗ハ内三會社ヲ殫シタリ後二三會社ノ新設ト他種ノ會社ノ兼業ヲ見現今斯業ヲ専門トスル會社ハ東京海上及ヒ最近四十一年六月ニ開業シタル帝國帆船海上保險會社ニシテ主トシテ海上保險

ヲ營ミ傍ヲ運送火災ヲ兼スルモノハ帝國日本及ヒ神戸ノ三海上運送火災保險會社ナリ而シテ火災保險ヲ主タル目的トシ海上保險ノ再保險ヲ引受クルモノ五會社アリト雖トモ要スルニ我國民カ海運及ヒ貿易ノ事ニ就テ常ニ諸外國人ノ後ニ落ツルノ状態ハ其海上保險ヲシテ未タ見ルヘキ隆盛ヲ致サシメス内國ノ大汽船會社例ヘハ日本郵船會社ノ如キハ所謂自家保險ヲ行ヒテ其船舶ヲ保險會社ニ託セス輸出入品ノ大部分ハ外國會社ニ依リテ保險セラレ内國ノ海上保險會社ハ僅ニ近海ノ商業ヲ其顧客トスルノミ其勢力ノ微弱ニシテ意氣ノ昂ラサルコト十年一日ノ如シ海力ヲ以テ世界ニ雄飛スヘキ我日本帝國ニシテ斯ノ如キハ豈嘆スヘキノ至ナラスヤ

## 第二章 海上保險ニ於ケル目的

我商法ニ於ケル海上保險ノ目的竝ニ海上保險契約ノ目的ニ關スル規定ヲ見ルニ左ニ舉クルカ如シ保險ノ目的トハ船舶貨物ノ如キ有形ナル所謂被保險



物ニシテ保險契約ノ目的トハ吾人カ此目的物ニ就テ有スル利害ノ關係ニシテ法律上被保險利益ト稱スルモノナリ

第六百五十三條 海上保險契約ハ航海ニ關スル事故ニヨリテ生スルコトアルヘキ損害ノ填補ヲ以テ其目的トス(此目的ナル文字ハ我商法ニ於ケル特種ナル意義ト異ナリ日常ニ使用セラルル所期ノ意ナリ)

第六百五十四條 保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第三百八十五條 保險契約ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ニ限り之ヲ以テ目的ト爲スコトヲ得此規定ハ損害保險ノ總則中ニ在ルモノニシテ海上保險ニモ適用セラルルモノトス)

是等ノ規定ニ於テハ毫モ海上保險ノ被保險物ニ就テ示ス所ナシト雖トモ舊商法ニ於テハ第九百五十三條ニ於テ左ノ規定ヲ設ケタリ

凡テ航海ノ危險ニ罹ルヘキ適法ナル財産上ノ利益ハ航海ノ全部又ハ一部ノ爲メ平時ト戰時トヲ問ハス航海前又ハ航海中ニ之ヲ保險ニ付スルコトヲ得特ニ船舶(附屬物ヲ包含ス)貨物運送貨旅客運送貨運送貨物其賣却利益仲買人手數料冒險貸借債權海損債權其他船舶債權者ノ債權及ヒ保險者自身ノ利益ハ之ヲ總括シ又ハ分別シテ保險ニ付スルコトヲ得船舶乘組員ノ給料及ヒ報酬ノ保險ハ無効トス

之ニ依リテ海上保險ニ付セラルヘキ目的ノ一斑ヲ知ルヲ得ヘシト雖トモ今日實際ニ於テ保險ノ目的タルモノハ船舶(Bill)積荷(Cargo)及ヒ運賃(Freight)ノ三種ヲ主要ナルモノトシ此外往往諸般ノ希望利益ヲ保險ニ付スルコトアリ左ニ順ヲ追ヒテ其大要ヲ説明セン

### 第一 船舶

船舶トハ船體並ニ其附屬物即チ艙裝物ヲ包含スルヲ普通トス此船舶ノ所有者ハ固ヨリ之カ抵當債權者ハ其利益ヲ保險ニ付スルコトヲ得之カ賃借

人又ハ船長ハ船舶ニ對シテ有スル責任ヲ保險ニ付スルコトヲ得ルナリ船舶ニハ諸種ノ等級アリ遠洋ヲ航海スル大構造ノ完全ナル汽船ノ如キハ却テ危險少ク沿海ヲ航行スル小汽船ハ之ニ反シ不虞ノ難ニ罹ルコト多キカ如シ而シテ帆船ハ最危險多シトシテ通常保險料モ高ク保險業者モ亦甚之ヲ歡迎セサルヲ以テ近頃前章ニ掲ケタル如キ帆船專業ノ會社ヲ見ルニ至レリ又漁業ニ使用セララルル小船船具等ノ保險ハ通常漁業保險ノ範圍ニ屬シ海上保險業者ノ目的トセサル所ナリ明治廿八年ノ頃石見國ニ石洋保險會社ナルモノ設立セラレ漁船ノ保險ヲ行ヒシカ暫時ニシテ廢業セリ解舟曳船ノ保險モ亦船體保險トシテ行ハレサルニ非スト雖トモ多クハ其積荷ニ就テ之ヲ見ルノミ

### 第二 積荷

舊商法ノ所謂運送貨物ニシテ荷主ハ勿論運送人運送取扱人其他積荷ノ損害ニ付テ利害關係ヲ有スル者ハ被保險者タルヲ得ルナリ

### 第三 運賃

運賃ニハ三種ノ意義アリ第一ハ荷主カ運送ノ爲メニ出金シ若クハ出金スヘキモノノ義ニシテ商法第六百五十七條ニ船積並ニ保險ニ關スル費用云云トアル是等ヲモ包含シ即チ荷主ノ負擔スル運送費用一切ヲ指スナリ然レトモ此ノ如キ費用ハ通常積荷ノ價ニ合算シテ保險セララルカ故ニ運賃ノ保險ト言ヘハ船主運送人運送取扱人等カ荷物又ハ船客ヲ無事ニ運送シタル上ニ於テ得ヘキ運送賃並ニ船主カ船舶ヲ賃借シテ取得スルヲ得ヘキ報酬ノ保險ニシテ是レ第二ノ意義ナリ而シテ第三ノ意義ハ單ニ船舶ノ賃賃料ヲ指シ最稀ニ使用セララル所ノモノナリトス

運賃ハ別約アル場合ヲ除キ通常運送ヲ完行シテ始メテ取得スルヲ得ルモノニシテ既ニ之ヲ領收シタル後ト雖トモ運送ノ目的ヲ果シ得サレハ之ヲ返還セサルヘカラサルカ故ニ之ヲ保險スルコトハ次ニ述フル所ノ希望利益ノ保險ニ似タレトモ其價額カ始ヨリ確定シ條件ニ懸レル權利ヲ保險ス

ルモノトスルヲ寧ロ適當トスヘキ理由ト實際上運賃ノ保險カ別箇ニ取扱ハルル上ヨリシテ之ヲ一般ノ希望利益ヨリ分離セシメタリ而シテ船員ノ給料及ヒ報酬ノ保險モ此種ニ屬スヘキモノニシテ之カ保險ヲ許ストキハ海難ニ際シ船員カ其一身ヲ全ウスルニ勉メテ船舶ノ救護ヲ怠ルノ憂アリト言ヘル理由ニヨリテ昔ハ之ヲ禁止シタリシモ今日ハ既ニ船舶及ヒ航海ニ關スル狀況ヲ異ニシ此ノ如キ危惧ナキヲ以テ一般ニ此禁止ヲ撤回セリ

#### 第四 希望利益

希望利益ハ殆ント積荷ニ就テノミ存在スルモノニシテ積荷カ到達地ニ於テ得ラルヘキ價格ノ増加即テ舊商法ニ所謂賣却利益又ハ仲買人代理業者等カ積荷ノ到達ニヨリテ得ヘキ利益等即チ之ナリ是等ノ利益ハ保險契約ノ當時ニコソ單ニ希望アルノミニテ包容ナシト雖トモ目的地ニ到達シタル上ハ現實若干ノ發生ヲ見ルヘキモノナルヲ以テ利害關係者ハ相當ナル見積額ニ就テ之ヲ保險ニ付スルヲ得ルナリ

### 第三章 海上危險ノ種類

海上ノ危險ハ素ヨリ千差萬別ニシテ我商法ニ於テハ航海ニ關スル事故ナル包括的文詞ヲ以テ之ヲ表セリ而シテ航海ニ關スルト言フハ其意義頗ル廣クシテ本來海上保險ト云ヘル文字ノ上ヨリスルトキハ海上ニ發生シタル危險ノミヲ保險スルモノノ如ク解セラルルモ必シモ海面上ノ出來事ノミニ限ラサルナリ例ヘハ船舶カ海上暴風ニ遭ヒテ損所ヲ生シ已ムヲ得ス避難港ニ碇泊シ應急修繕ノ便宜上一時積荷ヲ陸揚シテ倉庫ヘ納レタルニ適火災發生シテ積荷ヲ燒キタル場合ノ如ク縱令直接海上ノ危險ニ非サルモ航海中當然ナル防衛ノ途ニ於テ發生シタルモノナルカ故ニ又航海ニ關スル事故トシテ保險者ノ引受クヘキ所ノモノナリトス而シテ是等海上ノ危險ヲ類別スルトキハ之ヲ三種ト爲スコトヲ得ヘシ

一 天然又ハ自然力ノ危險

暴風暗礁淺瀾流水衝突等ノ爲メニ沈没坐礁膠沙破船等ノ災ヲ被リ汽罐ノ破裂機關ノ損傷火災等ノ爲メニ損害ヲ被ル場合ヲ指スナリ

二 船舶上ニ於ケル人爲ノ危険

其主要ナルモノハ投荷(Tuition)ニシテ航海中暴風雨其他ノ危険ニ遭遇シ將ニ沈没ノ難ニ遭ハントスルニ際シ風浪ヲ凌キ或ハ速力ヲ増加シ以テ全船ヲ救護センカ爲メニ船長カ積荷ノ一部ヲ海中ニ投棄スルコトアリ是レ人意上ノ處分ナリト雖トモ寔ニ已ムヲ得サルニ出ツルノ措置ナルヲ以テ是亦保險者ノ引受クル所ノ危険ナリトス而シテ之カ反對ニ船長カ其船主ニ對シ其他ノ乘組員カ船主又ハ船長ニ對シ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ損害ヲ被ラシムルコトアリ例ヘハ船長カ船舶操縦ノ重任ヲ負ヒナカラ亂舞醉倒シテ船ヲ暗礁ニ乗上ケシメ船員カ不正ヲ働キテ積荷ヲ盜取シ責ヲ船主ニ負ハシムルノ如シ是亦保險者ノ引受クヘキ危険ナリトス

三 船舶外ニ於ケル人爲ノ危険

海賊ノ襲撃劫掠敵國船ノ砲撃捕獲其他強留抑止封港等ノ國ノ處分ニ由リテ生スル危害モ亦海上保險ノ領域ニ屬スヘキモノナリ

以上三種ノ危険ハ船舶積荷ニ對シテ直接ニ損害ヲ與フルコト勿論ナリト雖トモ是等ノ危険ヲ回避若クハ防止センカ爲メニ必要上執リタル行動ニ因リ間接ニ又損害ヲ惹起スルコト無キニ非ス例ヘハ航海航路又ハ船舶ノ止ムヲ得サルニ出テタル變更又ハ止ムヲ得サル避難入港ノ如シ是亦航海ニ關スル事故ナリトス

保險契約ノ當事者ハ是等直接間接ノ海上危険ニ對シ法律命令ニ違反セサル限リ任意ニ保險ノ契約ヲ爲スヲ得ト雖トモ通常保險業者ハ其負擔スヘキ危険ノ種類ヲ制限シ例ヘハ我國ノ海上保險會社ハ概ネ左ノ如キ約款ヲ設ケテ之ヲ保險證券ニ掲ケタリ

- 當會社ハ左ニ掲クル損害ヲ填補スルノ責ニ任セス
- 一 一揆暴徒若クハ海賊ヨリ蒙ムル損害

- 二 襲撃捕獲強留抑止水雷其他宣戰ノ前後有無ヲ問ハス總テ戰爭ヨリ生  
スル損害
- 三 切迫ナル危険ヲ避クルカ爲メニ非ス又ハ當會社ノ承諾ヲ受ケスシテ  
尋常ノ航路外又ハ本證券記載ノ航路以外ニ出テ又ハ出テントシ若クハ  
本證券ニ記載セル以外ノ港津ニ寄港セントシ又ハ寄港シタルトキハ其  
以後ニ生シタル 害
- 四 被保險者保險 約者若クハ保險金額ヲ受取ルヘキ者又ハ是等ノ代理  
人雇傭人又ハ船長海員ノ故意又ハ重大ナル過失ニヨリテ生シタル損害
- 五 當會社ノ承諾ナクシテ船舶所有者若クハ船長ニ更替アリ又ハ船舶ノ  
構造ニ變更アリタル以後ノ損害但航海中ノ事變ノ爲メ假ニ船長ヲ定ム  
ル場合ハ此限ニアラス
- 六 船舶出帆ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要  
ナル書類ヲ備ヘス若クハ官廳ノ検査ヲ怠リタル場合ニ生スル損害

- 七 密輸出入ヲ謀リ又ハ戰時禁制品ヲ積込メルニヨリ若クハ檢疫ニヨリ  
生スル損害
- 八 戰時ニ軍用又ハ運送用トシテ使用セララルトキハ其以後ニ生スル損  
害

是等ノ規定ハ必シモ本章ニ説ク所ノ危険ノ種類ニ關スルモノニ非スト雖ト  
モ又以テ實際ノ事情ヲ推知セシムルニ足ルヘシ

## 第四章 海上損害ノ區別

航海ニ關スル事故即チ海上ノ危険ニ因リテ生シタル損害ハ海上保險ノ習慣  
上左ニ掲クル區別ニ依リテ整理セララルモノトス

- 一 全損 (Total loss)  
全損トハ保險ノ目的カ全滅シタル場合ニシテ保險者ハ之ニ對シテ契約ノ  
保險金全額ヲ支拂フヘキモノナリ而シテ又之ニ二種アリ

甲 絶對的全損 (Absolute total loss)

保險ノ目的カ實際全部消滅シテ遺殘ナキヲ謂フ例ハ船舶又ハ積荷カ海底深ク沈没シテ復窺フヘカラス或ハ之カ行方ヲ失シテ復捕捉スヘカラサルカ如キ場合ハ固ヨリ縱令實際遺殘アリトスルモ船舶トシテノ形狀ト用途ヲ失ヒ鐵片木片ノ結束堆積シタルニ外ナラサルトキ又ハ積荷カ其本質ヲ失ヒテ一塊ノ固形物タルニ過キササル如キ場合ハ之ヲ船舶積荷ノ絶對的全損ト稱ス

乙 假設的全損 (Constructive total loss)

保險ノ目的實際全滅セルニ非サルモ被保險者ノ利害ヨリ見テ全然損失シタルト擇フ所ナキ場合ニ之ヲ全損ト假定スルノ意ニシテ例ハ船舶カ暗礁ニ乗上ケテ船底ニ大破壊ヲ生シ外方ヨリ望メハ儼然タル船舶タルモ之ヲ引卸スコト到底不可能ナルカ又ハ之ヲ爲スニハ殆ント船舶ノ價額ト同一若クハ其以上ノ費用ヲ要スルカ如キ場合又ハ積荷トセル機

械カ比較的淺處ニ在リテ之ヲ引揚ケ得ルトスルモ其費用ト修繕料ヲ合算スルトキハ機械ノ原價ヲ超過スヘキ場合ノ如キハ即チ假設的全損ナリ

保險社會ニ於テ往往前者ヲ全部喪失ト云ヒ後者ヲ全部損失ト稱シ以テ其間ノ區別ヲ試ミントセリ運賃ニ就テハ絶對的假設的ノ區別ナク希望利益モ然リ實際ニ於テ全損ナルヤ否ヤヲ分ツヘキノミ

二 分損 (Partial loss) 又ハ海損 (Average)

分損ハ全損ニ對スル言語ニシテ保險ノ目的ニ係ル一部分ノ損害ヲ指スモノトシ我國ノ保險業者ハ一般ニ此文字ヲ用フト雖トモ我商法ニ於テハ海損ナル文字ヲ使用セリ而シテ之ヲ別チテ次ノ二種トス

甲 共擔分損又ハ共同海損 (General average)

共同海損ハ我商法第六百四十一條ニモ規定セラルル如ク船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危險ヨリ免レシムル爲メニ船舶又ハ積荷ニ就テ爲

シタル臨機應變ノ處分ノ爲メニ生シタル損害ニシテ此處分ノ結果トシテ共ニ利益ヲ保護セラレタル船主及ヒ荷主ノ共同平均ニ負擔スヘキ損失ナリトス例ヘハ或船舶カ航海中暴風ニ遭ヒ其覆没ヲ免レンカ爲メニ船中ノ積荷ヲ海中ニ投棄シ之カ爲メニ難ヲ免レタル場合ノ如ク其損害ハ獨リ當該荷主ノ單獨ニ負擔スヘキモノニ非スシテ船主及ヒ全體ノ荷主カ船舶積荷及ヒ運賃ノ割合ニ應シテ引受ケサルヘカラサルナリ此道理アル習慣ハ古代ノ海上商業ニ於テ夙ニ存在シ連綿トシテ今日ニ傳ヘラレタリ我國ニ於テモ豐臣時代ヨリ徳川時代ヲ通シテ行ハレ之ニ關スル諸布令アリ廻船式目海路諸法度等即チ之ナリ左ニ共同海損ノ重要ナル場合ヲ舉示セントス

- 一 投荷 前ニ説明シタルカ如シ
- 二 船中ニ於ケル火災防禦ノ爲メ特ニ費用ヲ要シ又ハ罹災中ノ船舶ヲ故意ニ淺瀬ニ乗上ケ或ハ船底ニ穿穴シタル場合

三 暴風ニ對スル抵抗ヲ少カラシメンカ爲ニ帆架其他ノ艤裝ヲ投棄シタル場合

四 燃料ノ缺乏ヲ來シタル爲メ積荷船具及ヒ貯藏品等ヲ以テ之ニ充テタル場合

是等ノ外諸種ノ複雑ナル場合アリ又上記ノ場合ト雖トモ共同海損ト見ルヘカラサル例外ノ場合アリ要スルニ共同海損ノ整理ハ精緻ト複雑ヲ極メ火災危險測定ノ技術以上ニ一科専門ノ知識ヲ要スルモノニシテ之ヲ職務トスル者ヲ海損整理者 (Adjuster) ト稱ス而シテ船主又ハ荷主カ其船舶積荷又ハ運賃ニ就テ保險契約ヲ締結セル場合ニ於テ海上ノ遭難ニ因シテ共同海損ヲ分擔セサルヘカラサルニ至レルトキハ保險者ハ其負擔額ヲ填補スヘキ責任ヲ有スルナリ我商法第六百五十五條ニ次ノ規定アリ曰ク「保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補スル責ニ任スト」

乙 特擔分損又ハ單獨海損 (Particular Average)

特擔分損ハ共同ノ危険ニ因ラス又人爲ノ處分ニ基カスシテ自然ノ原因ニ由リテ發生シ道理上當然船主又ハ各荷主ノ負擔スヘキ損害ナリトス例ヘハ船舶ノ一部カ破損シ船室ノ一箇ノミカ燒失シ或ハ積荷カ動搖ニ因リテ品質ヲ損シ又ハ破損シタル如キ雜多ナル場合ヲ云フ而シテ全損及ヒ共同海損ハ常ニ保險者ノ保險スル所ナリト雖トモ特擔分損ハ多ク保險者ノ引受ケサル所ニシテ特擔分損不擔保ナル文字ハ保險證券ノ上ニ於テ屢見ル所ナリ是レ此種ノ損害ハ通常小額ニシテ且被保險者側ノ過失ニ因スルコト多ク又物質ノ當然若クハ荷造ノ不全全ナル等ヨリ生スルコト多キヲ以テ保險者カ之ヲ引受クルコトノ必要少キト同時ニ危險多ケレハナリ故ニ被保險者ニ於テ特ニ之カ保險ヲ望ムトキハ之ニ對スル特別ノ保險料ヲ請求シテ之カ引受ヲ爲スモノトス

第五章 海上保險證券ノ種類

海上保險ヲ契約スルノ形式ハ其填補額ノ限度ヲ定ムル方法船舶ノ定不定並ニ保險期間ノ協定方法ニ由リテ左ノ如ク其證券ヲ區別スルコトヲ得

一 不定價證券 (Open and Valued Policies)

保險契約ヲ締結スルニ際シ保險ノ目的タル例ヘハ船舶荷物ノ保險ニ付セラルル價額ヲ定メス事故發生シテ填補ヲ請求スルニ當リ被保險者カ損害額ヲ證明セサルヘカラサル方法ヲ不定價證券ノ契約ト稱ス多ク積荷ノ保險ニ就テ行ハルル所ニシテ例ヘハ貿易商カ其輸出入貨物ニ就テ保險契約ヲ締結シ而モ其價額カ未タ明瞭ナラス若クハ其計算カ複雑ナル爲メニ之ヲ定メス損害發生ノ場合ニハ送り狀 (Invoice) 船積證券 (Bill of Lading) 等ノ證據書類ニ依リテ之ヲ證明セントスルカ如シ定價證券ハ之ニ反シ契約ノ當時保險金額ヲ定ムルモノナルヲ以テ全損ノ場合ニハ契約金額ノ全部ヲ支拂



ヒ分損ノ場合ニハ損害ノ實額ヲ計算證明セシムルモノトス但我商法ニ於テハ保險證券ニハ必ラス保險金額ヲ記載スヘシトアルヲ以テ此種ノ契約ハ締結シ得ルモ證券ハ適法ナラス又一タヒ保險契約ノ目的ノ價額ヲ定メテ之ニ就テ契約ヲ取結フトモ其價額ノ著シク過當ナルコトヲ證明スルトキハ全損ノ場合ト雖トモ保險者ハ填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ルコトトセリ(商法第三九四條及ヒ第四〇三條參照)

二 不定船證券ト定船證券 (Floating and Named Policies)

前者ハ被保險物ヲ載セタル船舶ノ名稱カ契約ノ當時未タ不分明ナル爲メ證券面ニ記載セラレサルヲ謂ヒ後者ハ之ニ反シ一定ノ船舶ニ就テ契約ヲ締結スルヲ云フ不定船證券ハ荷主カ未タ其積荷ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサル前ニ保險契約ヲ締結スル場合又ハ外國ヨリ積出スヘキ積物ヲ保險ニ付シ其際未タ船名ヲ知ラサルカ如キ場合ニ起ルモノニシテ船舶ヲ定メ又ハ之ヲ知リタルトキハ直チニ之ヲ保險者ニ通知スヘキモノトス(我商法第

六六六條參照)

三 航海證券ト期間證券 (Voyage and Time Policies)

船舶カ一航海ヲ終了スル間即チ其出發ノ時ヨリ到着ノ時マテニ發生スル危險ヲ保險スルヲ航海證券ト云ヒ何月何日ヨリ何月何日ト云フカ如キ一定期間中責ニ任スルモノヲ期間證券ト稱ス而シテ保險契約ノ期間ハ通常一箇年ヲ超エサルモノトス

第六章 委付 (Abandonment)

委付又ハ委棄ト稱ス總テノ保險ノ種類中海上保險ニ限リテ行ハルル事項ナルヲ以テ茲ニ只其何タルヤヲ說示セント欲ス委付トハ海上危險ノ發生シタル場合ニ被保險者カ保險ノ目的ニ就キテ自己ノ有スル總テノ權利ヲ委棄シテ之ヲ保險者ニ付與シ以テ全部ノ損害填補ヲ請求スルヲ得ルヲ謂フナリ第四章ニ於テ述ヘタル如ク船舶カ難破シテ船體又ハ積荷カ全部損害ヲ被リ最

早船舶又ハ積荷トシテ用ヲ爲ササルニ至リタルトキハ之ヲ全損ト見做スト云フハ全ク便宜的ノ協約ニシテ損害保險一般ノ原則ヨリスレハ縱令船舶沈没スルモ尙充分ナル手段ヲ施コシ又綿密ナル調査計算ヲ行ヒ多少ノ殘留物ヲ發見シタルトキハ之ニ就テハ填補ヲ行フヲ要セス實際生シタル損害額ノミヲ填補スレハ可ナリ然ルニ海上保險ニ於テハ此原則ヲ恪守スヘカラサル事情アリ即チ速ニ海底ノ遺殘物ヲ引揚ケ若クハ其價額ヲ計算スルコトハ殆ント不可能ニシテ是ヲ被保險者ニ強ユルハ保險契約ニ依リテ之ヲ保護スルノ本旨ニ違ヘリ故ニ實際多少ノ遺殘物アリト想像セラルル場合ト雖トモ被保險者ヲシテ速ニ填補ヲ得セシメンカ爲メニ保險ノ目的ニ關スル其權利主トシテ遺殘物ノ所有權ヲ被保險者ニ讓渡シテ保險金額ノ全部ヲ請求セシムルコトヲ許シタリ是レ即チ委付ノ權利ニシテ我商法第六百七十一條以下之ニ關スル詳細ナル規定アリ就テ見ルヘシ

## 第七章

### 保險仲立人

保險仲立人トハ保險業者ト一般公衆ノ間ニ立チ兩者ヲ媒合シテ契約締結ノ手續其他ノ事項ヲ處辨スル者ナリ普ク保險事業ニ附從スル所ノ代理人ナル者ハ海上保險ニ於テモ亦存在シ世界ノ各要港ニ海上保險會社ノ代理店ヲ見サル所ナキモ是レ特定セル保險業者ノ代理機關ニシテ仲立人ハ之ト異リ何レノ會社ニモ專屬セス又其會社ノ使用人ニモ代理人ニモアラス獨立セル媒介業者ニシテ數多ノ保險業者ト連絡ヲ通シ置キ保險ニ加入セント欲スル者ヲ其好ム所ノ保險者ニ推薦シテ所謂紹介手数料ヲ得ル所ノモノナリ而シテ生命及ヒ火災ノ保險事業ニ在リテハ諸方ニ設ケラレタル保險申込所ト稱スルモノノ如キハ此性質ヲ有シ又明ニ生命保險又ハ火災保險ノ「ブローカー」ト號シテ之ヲ業務ト爲サント欲スル者アルモ斯業ノ手足タル無數ノ募集員代理店等ノ存在ハ殆ント仲立人ノ存在ト活動ヲ必要トセス從テ未タ見ルヘキ

仲立機關ノ發生セルヲ知ラス海上保險ニ於テモ會社ハ皆社員アリ代理店アルカ故ニ必シモ仲介者ヲ要セサルモ「ロイヅ」ノ組合員タル一個人ノ保險業者ニ至リテハ是等ノ機關ヲ有セサルカ故ニ皆此仲立人ヲ通シテ其業務ヲ行ヒ而シテ此仲立人ハ其業務ニ誠實ナルヨリシテ雙方ノ信用ヲ博シ且事業ノ習慣取扱等ニ精通セルヨリシテ世人多ク之ニ信賴シテ契約ノ申込ヲ爲スヨリ會社組織ノ保險業者モ亦之ヲ埃ツコト少カラス終ニ今日之カ海上保險事業ノ必須ナル機關ノ如ク見做サルニ至レルナリ今「ロイヅ」ト保險契約ヲ締結セント欲スル者アラシカ此仲立人ニ到リ「Memorandum」ト稱スル書式上ニ申込ノ要項ヲ記入シ且其事實ノ正確ナル旨ノ誓約ヲ記シ之ヲ仲立人ニ交付スルトキハ仲立人ハ之ヲ以テ通常數人ノ保險者ノ引受ヲ求メ又保險料ノ額ヲ定メ「Slip」ト稱スル小札様ノ書面ヲ作りテ其下部ニ各保險者ノ引受クル金額ト署名ヲ請得テ保險契約ハ是ニ成立シ保險證券ノ作成ニ著手ス而シテ仲立人ハ此旨ヲ保險申込人ニ通知シ保險料ノ拂込ヲ行ハシムルモノトス

## 第四部 其他ノ保險

### 第一章 運送保險

陸上運搬ニ關スル保險ヲ通常運送保險ト稱ス陸地ノ車馬鐵道並ニ河川湖沼上ノ汽船其他ノ船舶ヲ以テスル運送貨物ヲ保險スルノ業務ニシテ疇昔猶太人ノ創意ヲ傳ヘ海上保險ヲ陸上ニ擴張シタルモノナリ即チ十八世紀ノ始ニ至リテ一箇ノ獨立シタル形體ヲ以テ開始セラレ多クハ海上保險會社ノ副業トシテ又間間專業トシテ發達セリト雖トモ陸上ノ危險ハ海上ノ危險ニ比スレハ遙ニ些少ニシテ從テ保險料モ頗ル安價ナラサルヘカラス加フルニ交通運輸ノ要具ハ益整頓シテ鐵道ノ完成ヲ見ルニ到ラハ運送ノ危險愈減少シテ其保險ノ範圍ト利益亦之ニ伴ヒテ縮少セラレサルヲ得ス故ニ到底專業トシテ盛ニ經營セラルヘキ事業ニ非サルヘシ然レトモ貨物ノ保險ニ非スシテ運送機關タル汽車汽船其物ヲ保險スルコトトセハ如何未タ其舉ニ接セスト雖

トモ貨物ノ保險ニ比シテ價格ノ範圍廣キカ故ニ相當ノ成果ヲ收メ得ヘキニ非スヤ本邦ニ於テモ運送業者カ通常ヨリ稍高價ナル運賃ヲ徵收シテ其荷物運送中ノ危險ヲ負擔スルノ習慣ハ稍古クヨリ存在セシト雖トモ判然保險ノ名稱ヲ冠シテ之ヲ行ヒシハ明治二十四年ノ最上川回漕保險株式會社ヲ以テ始トナス然レトモ元來通運會社ノ兼業ナルヲ以テ幾モナク廢業セリ二十六年ニ至リ日本海運保險會社起リ此種類ノ保險ヲ營ミシカ此會社モ亦後ニ解散セリ而シテ現今此事業ヲ營ムモノハ二十九年ノ設立ニ係ル北陸運送保險株式會社カ之ヲ專業トスル外横濱日本及帝國東京共同及ヒ大阪等ノ海上又ハ火災ノ保險ヲ主業ト爲ス會社ニシテ就中横濱火災最之ニ力ヲ用ヒ居レリ運送保險ニ於テ目的タル被保險物ハ通常陸上ニテハ汽車荷車橇牛馬等ニテ運送セララルル貨物河川湖沼ニテハ汽船又ハ其他ノ船ニテ運送セララルル貨物並ニ運送中一時倉庫内ニ貯蓄セララルル貨物ニシテ保險者ノ引受クル所ノ危險ハ運送中ニ生シタル火災水災強盜顛覆衝突其他ノ不可抗力ナリトス而シ

テ戰爭暴徒一揆地震噴火竊盜鼠害蟲害鈎傷雨濡ノ危險ハ特約アルニ非サレハ之ヲ負擔セサルヲ通常トシ又貨物ノ性質瑕疵等ヨリ生スル損害例ヘハ荷造荷積ノ不注意不可抗力ニ起因セサル漏損荷包ノ破損中荷ノ混合ヨリ生スル損害其他保險契約ノ原則ニ反スル損害ハ保險者之カ責ニ任セサルコト一般損害保險契約ト同一ナリ

## 第二章 徵兵保險

徵兵保險ハ壯丁ノ兵役ニ徵集セラレ入營服役スルニ付テ或ハ一時職業ヲ抛テ或ハ入營中ノ費用ヲ要スルカ如キ經濟上ノ損害ヲ補償スルノ目的ニ出テ其端緒ハ佛國ニ在リ當時金錢ヲ以テ兵役義務ヲ免除セラレタルヲ以テ千八百五十六年ノ頃ヨリ此代償金額ノ保險ヲ開始シ白耳義ニモ傳播シテ其アントウエルビア會社ハ當籤ノ危險ニ對スル保險ヲ行ヘリ是等ハ數年繼續シタルカ如キモ今其沿革ヲ逸シタリ而シテ現今此事業ノ最盛ニ行ハルルハ兵制ノ

關係上獨逸及ヒ埃匈ノ二國ニシテ獨逸ニ於テハ千八百七十八年ニ創立セラレタル「ハノーヴァー」徴兵保險相互會社ヲ以テ嚆矢トシ千八百八十八年「カールスルーエ」ニ南獨逸徴兵保險會社翌年「ハムブルヒ」ニ漢堡徴兵保險會社起リ皆今日マテ繼續セリ其方法ハ大同小異ニシテ試ニ「ハノーヴァー」會社ノ保險種類ヲ舉クルトキハ左ノ如シ

第一種 被保險者カ海陸軍ニ徵集セラレタルトキハ契約ノ保險金額ト剩餘分配金ヲ拂渡シ其以前ニ死亡シタルトキハ既拂込保險料ノ百分ノ七十五ヲ拂戻シ又適齡ニ達スルモ徵集セラレサリシトキハ既拂込保險料ノ百分ノ七十五ト同百分五以内ノ剩餘分配金ヲ拂戻スモノトシ其保險料ハ滿一歳ノ被保險者ニ對シ一時拂三十八馬克二十七片(保險金百馬克ニ對シ)ナリトス

第二種 前種ト異ナル所ハ保險料ノ拂戻カ百分ノ七十五ニアラスシテ既拂込額ノ全部ナル點ニアルノミ他ハ一切同一ニシテ其保險料ハ四十四馬克

二十三片トナル

埃太利ニ於テハ漸ク千八百九十七年ニ至リテ第一埃國徴兵保險會社起リシカ數年ニシテ其業務ヲ「アトラス」會社へ讓渡セリ匈牙利ニ於テハ之ニ先チテ千八百九十三年第一匈國徴兵保險會社ヲ設立セリ

我國ニ於テハ總テ他ノ種類ノ保險カ皆外國ノ輸入物タルニモ拘ハラズ獨リ此徴兵保險ニ就キテハ吾人カ其原動的創設ヲ主張シ得ルヲ聊快トセサルヘカラス予ハ明治二十八年ノ夏九州ニ在ル類似生命保險會社ノ一カ兵役保險ト稱スル科目ヲ設ケテ營業セルヲ發見シタリシカ之レ固ヨリ外國ノ模倣ニアラス當時ノ保險熱ト地方ニ最著シキ徴兵ノ問題カ結合シテ之ヲ發現セシメタルナリ之ト前後シテ今ノ徴兵保險株式會社ノ發起者頻ニ之ヲ主唱シ次テ商工保險會社現今存在セス及ヒ日宗生命カ生命保險ノ副業トシテ之ヲ開始シ明治三十一年五月上記ノ徴兵保險株式會社之ヲ專業トシテ設立セラレシカ徴兵保險ノ必要ヲ感スルハ主トシテ中流以下ノ社會ニシテ殊ニ知識ノ

比較的ニ低度ナル地方ナルヲ以テ保險ノ未起ヲ以テ之ヲ開拓スルニ意外ノ困難ヲ極メ相尋テ設立セラレタル帝國徵兵及ヒ山口徵兵ノ三會社皆幾モナクシテ解散ノ運命ニ逢遇シ大阪生命亦之ヲ兼營シタルモ更ニ振ハス日宗生命モ今ヤ殆ント之ヲ拋棄セリ然ルニ獨リ徵兵保險會社ハ異常ナル忍耐ヲ以テ其困難ト闘ヒ中頃日露戰爭ノ爲メニ軍事獎兵ノ思想勃興スルニ會シテ漸ク世人ノ歡迎スル所トナリ近年ニ至リテハ殆ント獨占ノ姿ヲ以テ盛ニ被保險者ノ加入ヲ得ツツアリ四十一年末ニ於ケル被保險者ノ數十三萬五千七百八人其契約保險金額千七百八十七萬六千圓ニ達セリ保險事業カ凡テ社會的ノ性質ヲ有シ國利民福ト密接ニシテ多大ナル關係ヲ有スルモノタルハ更ニ嗷嗷スルヲ要セスト雖トモ就中徵兵保險事業ノ如キハ富國強兵ノ基トシテ國家的性質ヲ有スルコト頗ル大ナルヲ以テ爲政者ノ特ニ其鞏固ト繁榮ノ爲メニ著眼セサルヘカラサル所ノモノナリ

我國ニ於ケル徵兵保險ノ方法モ自ラ獨塊ノ方法ニ暗合シ即チ一歲以上十五

歲以下ノ男兒ヲ被保險者トシ之カ滿二十歲ニ達シテ現役兵ニ當籤入營シタル場合ニ契約ノ保險金ヲ拂渡シ中途ニテ死亡シタルトキ又ハ二十歲マテ生存セルモ現役ニ服セサルトキハ既拂込保險料ノ全額ヲ返還スルモノニシテ剩餘金ノ分配ナキモ其他ハ全ク前掲ハノ「ヴァー」會社ノ第二種ト同シク而モ其保險料ハ滿一歲ニ於テ保險金百圓ニ對シ一時拂金二十二圓四十五錢ニシテ殆ント半額ナリ是レ主トシテ徵兵率ノ差違ヨリ來ルモノニシテ師團數ノ増加常備兵ノ増員ノ爲メニ徵兵保險會社モ當初ヨリ既ニ二回ノ保險料改正ヲ行ヒタルナリ斯クシテ此保險ハ徵兵ノ危險ニ對スルモノナレハ固ヨリ生命保險ニ非ス而モ損害保險ト異リ常ニ契約シタル一定ノ保險金ヲ給付スルモノナルヲ以テ我國ノ商法竝ニ保險業法ニ於テ其適切ナル地位ヲ有セサル種類ナレトモ二十歲マテノ生存ヲ一部ノ條件トシ其以前ニ死亡シタル者ハ拂込ミタル保險料ニ對スル利子ヲ失ヒ之ヲ生存セル入營者カ分配利得スルノ點ニ就テ生存保險ノ方法ヲ利用シ死亡生殘表ヲ保險料算出ノ基礎トシテ

採用セルヲ以テ便宜上生存保險ノ一種トシテ生命保險事業ニ準シテ取扱ハ  
ルルコトトナレリ然レトモ本來危險ノ性質上全ク別箇ノ保險ナルコト猶疾  
病傷害ノ保險ノ如シ

### 第三章 信用保險

茲ニ言フ所ノ信用保險ハ諸外國ニ所謂誠實保險(Fidelity Insurance)ノ事ニシテ  
後者ノ何タルヤハ曩ニ保險種類ヲ舉クルニ當リテ説明シタル如ク使用人ノ  
不誠實ヨリ來ル損害即チ其費消拐帶等ヲ保險スルモノナリ今少シク其起源  
ヲ尋スルニ是亦英國ニ在リテ存シ千七百二十年ノ頃倫敦ニ於テ萌芽ヲ生シ  
而モ當時ハ銀行會社大商店等未タ今日ノ如ク發達セサルカ故ニ單ニ奴婢ノ  
保險ヲ目的トスルニ過キス而モ著シキ發達ヲ見ルニ至ラスシテ一タヒ其跡  
ヲ絶チシカ千八百四十年倫敦「ガランチ」會社起リ始メテ斯業ノ形體ヲ認メ  
得タリ而シテ此頃ヨリ漸ク發達セル大規模ノ商業組織ト人材登用ノ必要ニ

伴ヒ此保險ノ需要次第ニ増加シ此事業モ亦漸次世界ノ各部ニ傳播シ多クハ  
傷害保險責任保險等ノ人的保險又ハ其他ノ小保險種類ト兼業セラレ相當ナ  
ル成績ヲ舉ケツツアリ

本邦ニ於テ現今此種ノ業務ヲ營ムハ獨リ横濱火災海上運送信用保險株式會  
社ニシテ明治三十八年二月ヨリ之ヲ開始セリ然レトモ我國ニ於テハ未タ普  
ク江湖ニ人材ヲ求ムルヨリハ親戚友人同郷等ノ因縁ニヨリテ人ヲ採用スル  
コト多ク此場合ニ保證人ナル者カ專テ使用人ノ誠實ニ對シテ責任ヲ負フ時  
代ナルト多數ノ事務員ヲ使役スル銀行會社等ニ於テモ其理事者カ未タ充分  
此保險ヲ解スル能ハサルト又個人商業ノ組織カ至テ無秩序不完全ニシテ番  
頭手代等ノ不正カ何方ニ於テモ殆ント行ハレサルナキ危險ナル状態ニ在ル  
等ニ由リ世人モ進ンテ之ヲ利用セス保險者モ亦充分其業務ヲ擴張スルヲ得  
ス要スルニ時世ノ進歩ト共ニ徐徐ニ發達セサルヘカラサルモノナリ  
今我國ニ行ハルル所ニ依リテ此保險ノ概要ヲ述ヘンニ被保險者ト稱スル者

ハ雇主ニシテ其財産ヲ保險セラルルノ點ヨリ斯ク言フナリ保險契約者即チ保險料ヲ支拂フ所ノ當事者ハ普通雇主ナレトモ往往使用人ノ父兄親戚知人身元引受人等カ之ヲ便利トシテ契約ヲ締結スルコトアリ而シテ使用人ハ會社銀行商店等ノ手代番頭書記支配人中央地方諸官衙ノ官吏市町村等自治體ノ公吏公私諸學校諸團體及ヒ公證人辯護士其他ノ個人ノ事務員等凡テ雇主ノ下ニ職務ヲ執ル者ニシテ通常一箇年ヲ期間トシ保險契約者ヨリ當該使用人ノ保險ヲ申込ムトキハ會社ハ其年齡身元履歷家族關係其他必要ナル事項ヲ調査シ之ニ對スル保險料(通常保險金百圓ニ對シテ二三圓ノ間ヲ上下ス)ヲ定メテ契約ヲ承諾シ或ハ謝絶スルコトモアルヘシ而シテ通常單獨保險ニテ一人ノ使用人ヲ保險スト雖トモ又集合保險ノ方法ヲ以テ多數ノ使用人ヲ同時ニ保險シ又特ニ共通保險ト稱シテ例ヘハ一會社ニ使用セラルル事務員ヲ一團トシ其何人カ不正ヲ行フモ保險者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ填補スル方法アリ保險者カ填補ノ責ニ任スル事故ノ種類ハ使用人ノ竊取詐取費消

拐帶ニシテ是等ノ行爲ニ因リテ被保險者ノ受ケタル財産上ノ損害ヲ填補スルモノトス故ニ我國ニ於テハ損害保險トシテ取扱ハレ現ニ火災海上等ノ保險ト兼營セラルト雖トモ其特定ナル人物ヲ主眼トシテ之ニ要スル危險ヲ保險スルノ點ヨリ觀レハ人的保險トシテ疾病傷害等ノ保險ト兼業スルモ亦不穩當ナラサルヘシ四十年末ニ於ケル此保險ノ契約件數ハ六百七十一件ニシテ保險金額五十五萬五千六百二十圓ナリトス

#### 第四章 機關汽罐保險

機關汽罐保險ハ本邦ニ於テ最近ニ成立シタル保險ノ種類ニシテ明治四十一年十月事業ノ免許ヲ受ケタル第一機關汽罐保險株式會社ハ之ヲ創始セルナリ此保險ハ近世工業ノ產物ニシテ其嚆矢ト謂ツヘキハ千八百六十年代ニ於テ英國ニ創始セラレタル汽罐保險(Boiler insurance)ニシテ曼府ノ汽罐保險及ヒ汽力會社ハ始メテ之ヲ營メリ此會社ハ其名稱ノ示スカ如ク蒸氣力ヲ供給ス



ルノ會社ニシテ汽罐ノ破裂ヨリ生スル損害ヲ保險シ同時ニ汽罐<sup>ボイラー・イン・スベクシヨシ</sup>検査ノ業務ヲ營メリ汽罐保險會社カ検査ヲモ其業務トスルハ便宜上當然ノ事ニシテ渠ハ其保險セントスル汽罐ニ就テハ猶生命保險會社カ被保險者タラントスル者ノ身體診査ヲ行フカ如ク技術上ノ知識ヲ具備セル専門家ヲシテ其良否ヲ検査セシメ之ニ對スル保險料ヲ定メ甚シク危險ナルモノハ拒絕シ又修補スヘキ餘地アラハ之ヲ指摘シテ改善セシメ以テ唯不慮ノ破裂ニ對スル危險ヲ負フノミナリ而シテ被保險者モ亦此検査ノ爲メニ利スル所少カラズ殊ニ汽罐ノ破裂ハ其取扱法ノ缺點ヨリ生スルコト多キカ故ニ保險者ハ當ニ契約ノ當時ニ於テノミナラス定時ノ検査ヲ行ハサルヲ得ス而シテ之カ爲メニ被保險者ノ利益スル所莫大ナリ何トナレハ一ノ工場ニ於テ其汽罐破裂スルトキハ決シテ該汽罐其物ノ損失ヲ以テ終ルモノニ非ス附近ノ機械建物ヲ損傷シ且屢人命ニ關スル死傷ノ慘害ヲ招キ是等ヨリ生スル工業主ノ損害巨大ナレハナリ之ヲ以テ見ルモ保險ト豫防ノ行爲カ極メテ密著ナル關係ヲ有シ相

俟テ人世ノ保護救濟ヲ盡ス所以ヲ曉ルヲ得ヘシ而シテ保險者ハ斯ノ如ク臨時竝ニ定期ノ検査ヲ遂行スル爲メニ多數ノ適任ナル技術家ヲ招聘セサルヘカラサルカ故ニ自然人物經濟ノ上ヨリシテ之ヲ利用スル所ノ單純ナル検査ノ業務ヲ營マサルヲ得ス米國ニ於テ多ク行ハルル所ノ昇降機<sup>エレベーター</sup>ノ保險ニ在リテモ會社ハ皆其検査監督ノ業ヲモ兼營セリ我國ノ保險業法ハ保險事業ト他ノ業務ノ兼營ヲ禁セリト雖トモ是レ保險ト言ヘハ在來ノ生命火災海上等ノ保險ヲ想像シタル時代ノ制法ニシテ其他ノ保險殊ニ此種ノ特質アル保險ヲ想像セサルモノナレハ早晚其缺點ヲ補ハサルヘカラス

機關ノ保險モ亦其性質汽罐ノ保險ニ類似シ近時獨逸ニ於テモ(Maschinen Versicherung)ノ名ヲ以テ稍興隆セントスルカ如シ而シテ之カ保險モ亦殆ント監督ノ力ニ依テ行ハルルト謂フヘク汽罐保險ニ於ケルト同シク保險料ノ大部分ハ検査監督ノ費用ニ供セラルルナリ今回我國ニ開始セラレタル機關汽罐保險ハ前記二種ノ保險ヲ併セ營ムモノニシテ即チ鐵道軌道ノ機關車及ヒ船

舶ニ用ヒラルル機關汽罐ヲ除キ一般工場内ニ設置セラルル機關及ヒ汽罐ノ破壊及ヒ破裂ヨリ生スル機關汽罐其物ノ損害竝ニ其附近ノ建物機械器具ニ對スル損害ヲ保險スルモノトス最新ノ事業タル上開業ノ日未タ頗ル淺キヲ以テ其成績ノ如何ヲ知ル能ハサルモ全ク機械學専門ノ知識ニ依リテ經營セラレ且實際危險ノ監督力充分ニ行ハルルニ於テハ其有用ナル事業タルハ固ヨリ相當ノ利益モ亦收メ難キニ非サルヘシ

## 第五章 傷害保險

### 第一節 傷害保險ノ種類

傷害保險ハ曩ニ説明シタルカ如ク又傷痍保險負傷保險怪我保險奇災保險災厄保險災害保險等ノ名アリ人類カ不慮ノ災厄ニ遭ヒ主トシテ負傷ノ爲メニ生命ヲ喪ヒ又ハ身體ヲ毀傷スル場合ヲ保險スルモノナレハ前數章ニ掲ケタル運送保險信用保險機關汽罐保險ノ如キ需要範圍ノ局限セラレタル小保險

ニ非スシテ生命保險ト相俟テ存立スヘキ重要ナル保險ノ種類ニシテ我國ニ於テ今尙之ヲ見サルハ吾人ノ理由ヲ知ルニ困シム所ナリ

傷害保險ハ通常之ヲ別チテ三種ト爲スコトハ是亦曩ニ述ヘタル所ナリ今茲ニ其各箇ヲ説明セン

#### 一 職 傷害保險

死傷ノ危險多キ職業又ハ職務例ヘハ鑛山製鐵所造船所鐵道業務警察ノ職務等ニ従事スル者ヲ其職務上ノ傷害ニ對シテ保險スルモノニシテ而シテ是等ノ危險多キ職業ニ従事スル者ハ主トシテ勞働階級ニ屬スル者ナルヲ以テ又勞働傷害保險ノ名アリ保險的施設ヲ以テ勞働者ノ保護ヲ實行スル二三ノ國家ニ於テ法律ヲ以テ之ヲ事業主ト勞働者ニ強制セリ獨逸ノ勞働傷害保險法ニ依リテ此種ノ保險ヲ細別スルトキハ工業傷害保險農業傷害保險建築傷害保險海上傷害保險等ナリトス

#### 二 日常傷害保險

又個人傷害保險若クハ單獨傷害保險ト云フ勞働者ノ如ク一所ニ集合シテ保險セラルルコト少ク個人カ別別ニ保險セラルルノ意ニシテ吾人カ平常ノ生活動作中ニ被リタル傷害ヲ保償スルモノナリ例ヘハ欄干又ハ階段ヨリ墜落シ洋燈瓦斯等ノ爲メニ火傷シ荷車馬車等ニ衝突シ或ハ電氣ニ觸レテ震死スルカ如キ百般ノ災厄ニ對シテ保險金ヲ支拂フモノトス

### 三 旅行傷害保險

吾人カ汽車汽船電車其他ノ交通機關ヲ利用シテ旅行セル間ニ衝突顛覆其他ノ災害ノ發生ニ遭ヒ身體上ノ傷害ヲ被リタル場合ニ保險金ヲ受クルモノナリトス

## 第二節 傷害保險ノ沿革

傷害保險中最其起源ノ遠キモノハ旅行傷害保險ニシテ生命保險ヨリモ尙古シト言ハサルヘカラス即チ十四世紀ノ聖都參拜者保險海上ノ短期生命保險

ノ如キ皆此種ノ保險ノ萌芽ト言フヲ得ヘシ而シテ千六百六十五年英國ト和蘭カ開戦シタルトキ和蘭政府カ戰爭ノ爲メニ負傷シタル兵士ニ對シ其輕重ニ應シ二百リツルヨリ千五百リツルニ至ル賠償金ヲ交付スヘキコトヲ宣言シタルコトアリ然レトモ今日ノ傷害保險ハ蓋シ鐵道ノ創設ト共ニ發生セリトノ說眞ニ近キカ如シ即チ千八百四十五年ハ鐵道事業ニ於テ忘ルヘカラサル紀念ナルト同時ニ又傷害保險ノ紀元ニシテ當時英國ニ於テ始メテ此事業カ發起セラレ數年ノ内ニ十數會社ノ設立ヲ見ルニ及ヒ同五十年ニ至リテハ單ニ鐵道旅行及ヒ從業ノ危險ノミナラス一般職業上ノ傷害及ヒ個人日常ノ傷害ヲモ保險スルノ計畫ヲ立タリ而シテ個人傷害ノ保險ハ危險ノ程度比較的ニ低キヲ以テ世人ノ利用モ亦割合ニ多カラスト雖トモ旅行ノ保險ハ交通ノ發達ニ伴ヒテ駸駸トシテ進歩シ今日世界到ル處ニ之ヲ見サルナク例ヘハ世界漫遊ノ途ニ上ラントスル者ハ世界的證券(Wattpolice)ト稱スル契約ヲ締結シテ旅中ノ慰安ヲ得ヘク各停車場ニハ乘車券賣渡口ト相竝ヒテ傷害

保險證券ヲ發賣シ旅行者ノ頻繁ナル瑞西國內ノ停車場ニハ常ニ自働器械ノ設置アリテ之ニ一片ノ貨幣ヲ投入シ把手ヲ一轉セハ日付ヲ印シタル切符中ニ保險證券ノ包藏セラレタルモノニ接手スルヲ得ヘク或ハ「ドーヴァ」海峽ヲ橫航スル汽船中ニ於テ煙草ノ一面ヲ購ヘハ某會社ノ保險證券出ツルカ如キ或ハ新聞雜誌カ會社ト特約シテ之ヲ景物トナスカ如キ其利用眞ニ隆盛ヲ極メタリト謂フヘシ而シテ職業傷害保險ニ至リテハ近時英國ヲ始トシ其他ノ諸國ニ於テ傭主責任法ヲ制定シ職務上ノ傷害ニ對シテ職工其他ノ使用人ヲ保護シ其遺族ヲ扶助スルノ義務ヲ傭主ニ強制シ相當ナル賠償金額ノ給付ヲ命スルニ至リシヨリ是亦曩ニ述ヘタル如ク主トシテ責任保險ノ形式ヲ以テ盛ニ契約セラレル所タリ

獨逸ニ於テモ千八百六十五年「ラウエンタフト、マン、マイン」ニ始メテ保險會社ノ設立ヲ見始ハ旅行ノ危險ノミヲ目的トセシカ千八百七十一年鐵道鑛山等ノ傷害ニ對スル傭主ノ賠償法發布セラレタルヨリ職業傷害保險ノ必要確認セ

ラレ續續新會社ノ設立ヲ見タリシカ千八百八十四年遂ニ國家カ其強制保險ヲ開始シタルヨリ獨逸ハ此種ノ保險ノ普及擴張ニ於テ世界ニ冠絶スルニ至レリ而シテ民間保險會社モ亦之ト相竝ヒテ隆盛ヲ致シ或ハ生命保險會社ニシテ之ヲ兼業スルアリ或ハケルン「傷害保險會社」ノ如ク各種ノ傷害保險ヲ根據トシテ其外有ラユル小保險ノ種類ヲ營ミテ保險事業界ノ一方ニ雄視シツツアルモノアリ此保險カ一方ニハ勞働社會ノ福利ヲ增進シテ工業ノ發達ニ資シ一方ニハ交通ノ安全ヲ圖リ兼テ其機關ノ進歩ト整備ヲ獎勵シテ商業ノ隆盛ニ寄與スル所多大ナルハ世人ノ直チニ首肯スル所ナルヘシ

我國ニ於テハ從來文明ノ程度未タ泰西諸國ト比肩スルニ足ラス工業未タ旺盛ナリト云フ能ハス社會問題ノ紛糾未タ甚シカラス交通機關ノ利用ト設備未タ頗ル乏シキカ爲メニ傷害ノ發生著シカラス其保險ノ必要亦未タ多ク認メラレス明治二十六年ノ內國生命病災保險會社北海道勞働者保險會社翌二十七年ノ大阪病傷保險會社等皆此事業ニ著眼シ其後漁夫及ヒ船客ノ死傷ニ

對スル保險ヲ企畫スル者アリシモ皆時機尙早ノ故ヲ以テ實行ヲ見ルヲ得ス  
爾來長ク廢絶シタリト雖トモ近時ニ至リテハ工業ノ進歩ト交通機關ノ發達  
又前日ノ比ニアラス社會ハ業已ニ此種ノ保險ヲ要望シ第一編ニ於テ詳説シ  
タル官公私設ノ鐵道及ヒ諸工業ニ於テ強制又ハ任意ニ施設セラルル吏員職  
工ノ救濟事業ノ勃興ハ之ヲ證明スルニ餘アリ是ニ於テカ予ハ頃者日本傷害  
保險株式會社ナルモノヲ設立シ實際此種ノ保險ヲ社會ニ供給シ一ハ以テ斯  
業ノ完成ヲ圖リ一ハ以テ工業交通ノ後援ト爲リテ國利民福ノ増進ニ資スル  
所アラント欲シ目下之カ發起ノ手續中ナリ予ハ我政府モ亦此種ノ事業ヲ獎  
勵スルニ吝ナラスト信スルヲ以テ此企畫ハ日ナラス其免許ヲ得テ社會ニ活  
動スルニ至ルヘシ故ニ主トシテ其會社ノ組織方法ニ依リテ此保險ノ説明ヲ  
試ミントスルニ當リ先ツ其發起ノ趣意書ヲ掲ケテ斯業ノ目的及ヒ利用ノ一  
斑ヲ知ラシメントス曰ク

文明ノ進歩ハ人類ノ幸福ヲ増進スルコト多大ナリト雖トモ一方ニハ又  
生存競争ノ激甚ナルト技術工藝ノ發達ニ連レテ吾人ノ身體ニ危害ヲ被  
ラシメ其能力ヲ銷磨セシムルノ機會益増加スルコト亦已ムヲ得サルナ  
リ蒸汽機關ノ發明電力瓦斯等ノ利用ハ吾人ニ驚クヘキ利益ヲ與ヘタリ  
鑛山ノ開掘汽車汽船電車等ノ交通ハ國富ノ増殖ニ資スル所甚大ナリ其  
他百般ノ技術的施設一トシテ吾人人類ノ幸福ニ寄與セサル所ナキナリ  
而モ翻テ之ヲ觀ルニ是等文明ノ利器ハ皆危險ナル活物ニシテ輾轉トシ  
テ廻ル工場ノ車輪ハ人誤テ之ニ觸ルレハ骨肉粉碎シ轟轟トシテ轆轤ル汽  
車ノ轍ニハ身首忽チ處ヲ異ニス敢テ之ヲ箇箇ノ實例ニ求ムルヲ要セス  
吾人ノ日日閱覽スル所ノ新聞紙ハ絶エス是等ノ慘事ヲ報道スルニ非ス  
ヤ炭山ノ爆發汽車電車ノ衝突家屋ノ崩潰彈丸ノ破裂瓦斯ニ因ル窒息火  
災水難ニ因スル燒死溺死等之ヲ列舉シ來レハ悚然トシテ膚ニ粟セサル  
ヲ得サルナリ噫此ノ如キ慘害ノ爲メニ身體ヲ傷ケ一生不具廢疾ト爲リ  
シ者ハ如何ニシテ其不幸ナル餘命ヲ送ルヘキヤ此ノ如キ災厄ノ爲メニ

死亡シタル者ノ家族ハ何ニ憑リテ其生命ヲ繋クヘキヤ想ヒテ茲ニ到レハ吾人ハ潜然トシテ流涕セサルヲ得サルナリ是ニ於テカ概シテ文明ノ進歩ニ伴ヒテ増加スル所ノ諸種ノ慘害ニ對シ救濟ノ方法ヲ講スルハ吾人人類ノ責務ニシテ幸ニシテ其目的ヲ達スルニ於テハ國家社會ノ福祉ト安寧ニ資シ人道ニ貢獻スルコト鮮少ナラサルナリ而シテ這般人類ノ悲惨ナル運命ヲ弔シ之ヲ慰藉給養シ其遺族ヲ扶助救濟スルノ方法トシテ目今最有力ナリトセラレハ傷害保險ノ制度ニシラ方今泰西文明ノ邦國ニ於テ普ク行ハルル所ノモノナリ

傷害保險ハ今ヲ距ルコト凡五十年前英國ニ於テ始メテ鐵道傷害保險ノ業ヲ開キテヨリ駸駸トシテ發達シ數多ノ會社相踵テ各國ニ設立セラレ鐵道鑛山航海ノ業務或ハ諸般ノ工業ニ從事シ職業上危險ノ恐ヲ抱ク者ハ固ヨリ一般人士ト雖トモ旅中ノ安全ヲ計リ日常ノ災厄ヲ想フ者ハ皆爭ヒテ之ヲ契約ス寔ニ文明ノ社會ト人民ニ恥チサルナリ而モ今翻テ我

邦ヲ觀ルニ文明ノ進歩ハ夙ニ炳焉トシテ技術工藝文物燦然タリ而シテ之ニ伴フ所ノ災害ノ發生モ亦近來益頻繁ヲ加フルコト前ニ述ヘタル如シ而シテ一方ニハ一般人生ノ災禍ト闘フ所ノ保險ノ思想ハ漸ク普及シ就中生命保險ノ如キハ將ニ泰西ト比肩スルノ隆盛ヲ呈セントス而モ此生命保險ト相竝ヒ其欠缺ヲ補フ所ノ有用ナル傷害保險事業ノ存在セサル理アラシヤ殊ニ我帝國ハ戰捷ノ效果ヲ收メテ財力増大シ技術工藝ノ事振興シ交通運輸ノ業愈發展セント欲ス之カ暗面ニ慈悲ノ光明ヲ與ヘ之カ庇護者タリ之カ助長者タルハ眞ニ國家ト人道ニ貢獻スルノ道ニアラスヤ云云

ト予ハ此事業カ既ニ現時ノ日本ニ於テ其必需ヲ認メラレ商工事業ノ發達ト互ニ因果ノ關係ヲ爲シテ隆盛ニ向ハンコトヲ期スルナリ

### 第三節 傷害保險ノ方法

傷害保險ニハ其種類方法少カラスト雖トモ今我國ニ行ハレントスル方法ノ一斑ヲ略述スレハ左ノ如シ

#### 第一 保險ノ種類

普通傷害保險ト稱シテ被保險者カ諸種ノ職業ニ從事中又ハ屋内ニ起臥シ若クハ戶外歩行其他ノ行動中職業ニ因スル災害ノ爲メ若クハ墜落顛倒車馬トノ衝突地震洪水火災他人ノ暴行其他外部ヨリ襲來スル諸般ノ災害ニ因リテ死亡シ又ハ傷害ヲ被リタル場合ニ保險金ヲ支拂フモノト旅行傷害保險ノ二者アリ前者ハ前ニ説明シタル日常傷害保險ヲ危險多キ職業ニ從事セル者ニモ及ホシタルモノニシテ特ニ職業危險ノミノ保險ハ之ヲ行ハス是レ公私ノ大工業ニ於テハ不完全ナカラ職員職工ノ職務ニ因スル死傷ニ對シ保護救濟ノ方法行ハルルコト少カラサルヲ以テ是ニ保險スル所ノ

危險ノ範圍ヲ擴張シタルナリ

#### 第二 職業ノ種別

吾人ノ職業ハ其傷害ニ對スル危險ヲ分タシムルノ有力ナル元素ナリト雖トモ旅行傷害ニ就テハ大ナル關係ナキヲ以テ普通傷害保險ニ於テノミ職業ニ據リテ被保險者ヲ左ノ六階級ニ區別シ一箇年ノ期間ニ對シ各其保險料ヲ定メタリ

第一級ニ屬スル者ハ教員僧侶法官辯護士醫師內勤官公吏銀行員商工業會社内勤事務員商工業主著述家音樂家等其他職業上ノ危險至テ少キ者ニシテ保險料ハ保險金額ノ千分ノ二以上四未満トス

第二級ニ屬スル者ハ土木建築技師其他ノ技師工場監督稅關吏俳優產婆看病人行旅商人農夫牧夫彫刻師小使下男下婢等其他危險ノ虞少キ諸職業ニ從事スル者ニシテ保險料ハ千分ノ四以上七未満トス

第三級ニ屬スル者ハ鑛山鐵工所造船所等ノ監督者警察署長典獄陸軍軍醫

船長木材商郵便電信脚夫大工棟梁鑄物師料理人瓦工植木職等其他稍危險ノ虞アル諸職業ニ從事スル者ニシテ保險料ハ千分ノ七以上十未滿トス

第四級ニ屬スル者ハ土木人夫歩兵卒警部船員鐵道驛夫警火番仲士電車車掌等其他危險ノ虞多キ諸職業ニ從事スル者ニシテ保險料ハ千分ノ十以上十五未滿ナリトス

第五級ニ屬スル者ハ木挽職石切職獵夫漁夫機關手電車自働車運轉手巡查消防夫押丁潜水業者等其他危險ノ虞甚多キ諸職業ニ從事スル者ニシテ保險料ハ千分ノ十五以上二十五未滿トス

第六級ニ屬スル者ハ曲馬師輕業師鑛夫製鐵所職工造船所職工爆發物製造職工等其他非常ナル危險ノ職業ニ從事スル者ニシテ保險料ハ千分ノ二十五以上五十未滿トス

第三 被保險者ノ年齢保險金額及ヒ保險期間

十歲未滿ノ幼者又ハ六十五歲以上ノ老年者ハ往往危險多キカ故ニ新ニ契

約スルヲ避ケサルヘカラス保險金額モ亦危險ノ虞多キ職業者ニ甚多額ヲ契約スルハ不可ナルヲ以テ勢制限ヲ設ケサルヲ得ヌ例ヘハ第一級乃至第三級ニ對シテハ三百圓以上一萬圓以下ヲ許スモ第四級乃至第六級ニ對シテハ百圓以上一千圓以下ニ止ムルカ如ク又旅行保險ハ比較的ニ危險少キモノナレハ一千圓以上一萬圓以下ト定メタリ而シテ保險期間ハ通常一箇年トシ旅行保險ニ限リ六箇月三箇月四十五日一箇月十五日八日四日二日ト云フカ如キ短期間ヲ設定セリ外國ニ於テハ又終身間ノ鐵道危險ヲ引受クルコトアリ

第四 保險金ノ支拂

保險金ハ契約ノ金額ヲ限度トシ傷害ノ輕重ニ應シテ其支拂ノ額ヲ定ムルモノニシテ死亡ノ場合ニハ保險金ノ全額ヲ被保險者ノ相續人ニ拂渡シ又死ニ至ラスシテ身體上ノ損傷ヲ被リタル場合ニハ左ノ區別ニ從ヒ保險金額ノ差等ヲ設クルモノトス



- 一 雙眼ノ視力ヲ失ヒ或ハ雙腕雙手兩脚又ハ兩足ヲ失ヒ若クハ片腕又ハ  
雙手ト一脚ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ全額
  - 二 右腕又ハ右手ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ六十
  - 三 一脚又ハ一足ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ五十
  - 四 左腕又ハ左手ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ四十
  - 五 雙眼ノ視力ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ三十
  - 六 右手ノ拇指ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ十五
  - 七 其他ノ一指ヲ失ヒタルトキ 保險金ノ百分ノ五
- 其他ノ損傷ニ就テハ實際ヲ調査シ被保險者ノ從業能力ヲ失ヒタル程度ニ  
應シ前記ノ區別ニ準シテ保險金ノ支拂額ヲ決定ス
- 數指ヲ失ヒタル場合ニハ各指ニ對スル支拂額ヲ合計シ又數種ノ損傷ヲ併  
セ被リタル場合ニハ各損傷ニ對スル支拂額ヲ合計スルモノトス但其總額  
カ保險金全額ヲ超過スルヲ得ス

被保險者カ傷害ニ遭ヒ從業能力ヲ失ヘル間ハ之カ罹災ノ日ヨリ百五十日  
ヲ限度トシ治療死亡又ハ不具癱疾ノ決定セラルル日マテ治療費トシテ毎  
日保險金額ノ千分ノ二ヲ支拂フ而シテ治療費ハ保險金ノ一部ナルヲ以テ  
死亡又ハ不具癱疾ノ爲メニ保險金ヲ支拂フ場合ニハ保險金額ノ中ヨリ此  
金額ヲ控除スルモノトス

傷害保險ハ當事者カ任意ニ其保險金額ヲ協定スルノ點ニ於テ生命保險ト  
同シク所謂定額保險ナリト雖トモ損傷ノ程度ニ應シテ支拂ノ額ヲ異ニス  
ルハ損害保險ニ似タリ而シテ前掲ノ如キ明白ナル損害ニ對シテハ支拂金  
額ヲ決定スルコト容易ナリト雖トモ之ニ適合セサル種類ノ損傷ニ就テハ  
其測定頗ル困難ニシテ専門家ノ鑑定ヲ要スルコト尙生命保險ニ於ケル身  
體診査火災海上ノ保險ニ於ケル損害調査ノ如シ而モ常ニ從業能力ノ損喪  
セラレタル程度ヲ標準トシテ考量セサルヘカラス例ヘハ顔面ニ負傷シテ  
容貌ヲ損シタル場合アリトセヨ之カ容貌ニ依リテ業務ヲ營ム俳優藝妓等

ニ於ケルト普通人ニ於ケルトハ其決定ヲ異ニセサルヘカラサルカ如シ  
 (傷害保險ニ就テハ保險雜誌第八八號乃至第一〇八號所載拙稿奇災保險論  
 ニ尙詳論アリ參照ヲ乞フ)

## 第六章 疾病保險

疾病ハ吾人ノ生涯中ニ最數數發生スル所ノ災禍ニシテ之ニ遭フトキハ管ニ  
 醫藥ノ費用ヲ要スルノミナラス一定ノ職業ニ依リテ衣食スル者ハ之ヲ休止  
 セサルヘカラサル結果自己竝ニ家族ノ生活ヲ支フル能ハサルニ至ル是ヲ以  
 テ疾病ニ對スル救濟ノ方法ハ比較的古クヨリ行ハレ中世ノ「ギルド」ニ於テモ  
 組合員ノ罹病癱疾ニ際シテ扶助料ヲ給スルノ方法ハ最普通ニ設ケラレタリ  
 然レトモ此保險ハ之ト最密接ノ關係アル生命保險ノ如ク保險トシテ儼然タ  
 ル體形ヲ備フルコト遅ク今日ト雖トモ之カ自治體又ハ地方的團體ノ設立ニ  
 係ル所ノ疾病會又ハ友愛組合ニ於テ營マルルコト多キナリ是レ疾病ノ災禍

ハ死亡ノ如ク顯著ナラサル代リニ其發生數ニ於テ遙ニ多キカ故ニ範圍ノ狹  
 キ一地方ニ於ケル經營ヲ難シトセス又疾病ニハ輕重ノ間ニ非常ナル懸隔ア  
 リテ扶助ヲ要スル程度ニアルヤ否ヤヲ決定スルノ便宜ハ寧ロ大組織ノ事業  
 ヨリ監視ノ眼多キ地方的小組合ノ有スル所タリ且又其基礎タル統計ヲ得ル  
 ノ困難少カラサル等ノ事情ヨリシテ大企畫ノ保險會社ハ永ク成立ノ機會ヲ  
 得サリシカ千七百十六年始メテ英國ニ「ゼネロス、ソサエテ、オブ、インシユアラン  
 ス」ナルモノ起レリ此結社ハ相互組織ニ基キ四千四百人ノ社員ヨリ成立シ各  
 社員カ入會金一志ト印紙代ヲ支拂ヒ後毎週六片ツツノ保險料ヲ拂込ムトキ  
 ハ疾病又ハ不具ノ爲メニ職業ニ從事スル能ハサルニ至リシトキ毎月二百五  
 十磅ノ保險金ヲ受取ルコトヲ得而シテ此癱疾又ハ不具ノ鑑定ハ業務擔當員  
 ノ指定ニ係ル二人ノ法律家ノ行フ所トセリ而シテ疾病保險ハ長ク此ノ如キ  
 不完全ナル方法ヲ以テ行ハレシカ百年ヲ經タル後即チ千八百二十年「ゼネラ  
 ル、ベネフィット、カムパニー」設立セラレ疾病保險ニ稍顯著ナル進步ヲ與ヘ爾來

數多ノ會社相尋テ起リ或ハ生命保險會社カ之ヲ兼業シ今日保險事業中ニ重要ナル地位ヲ占ムルニ至レルナリ獨逸ニ在リテハ千八百六十九年「ハムブルヒ」ノ「ウイルヘルム、ラツァルス」ナル人保險ノ雜誌上ニ疾病保險ニ關スル論文ヲ掲ケ癡疾即チ永久ニ職業ニ從事スル能ハサル危險ニ對スル保險ニ就テ統計竝ニ數理上ノ材料ヲ公ニセシカ二三ノ鐵道會社ニ於テ之ヲ採用シテ良好ナル結果ヲ得タリト云ヘリ而シテ獨逸ハ「ギルド」ノ本據トシテ所在之ヨリ分科發達シタル疾病金庫 (Frankenkasse) ノ存立ヲ見タリシカ千八百八十一年「ウイルヘルム」第一世ノ詔勅ニ基キ同八十三年六月疾病保險法發布セラレ前章ニ述ヘタル傷害保險ト同シク社會ノ下層階級ニ對シテ普ク此保險ヲ強制シ從テ民業保險ノ興隆ヲ見ルヲ得スト雖トモ世界ニ於テ此保險ノ最恩澤多キ處ト謂ハサルヘカラサルナリ

我邦ニ於テモ疾病救濟ノ思想ハ夙ニ發達セシナルヘシト雖トモ保險トシテノ實行ハ未タ殆ント無シト言ハサルヘカラス明治二十七八年ノ頃ニ勃興シタル各地ノ類似保險ニハ往往之ヲ其營業ノ科目ト爲セシモノ無キニ非ザリシモ是レ素ヨリ保險トシテ舉クルニ足ラス明治二十六年五月ノ設立ニ成ル職工生命保險會社同六月ノ内國生命病災保險會社(今ノ内國生命)同年ノ北海道勞働者保險會社同二十七年十月ノ大阪病傷保險會社等之ヲ營ミ先ツ職工社會ヲ第一著トシ進ンテ一般ニ及ホサントノ企畫ナリシモ本邦ニ於ケル保險思想ノ不發達特ニ職工ノ如キ知識ノ程度低キ社會ハ此事業ヲ成功セシムル能ハス各社皆幾モナクシテ之ヲ廢シ以來十數年殆ント之ヲ計畫スル者スラ無シト雖トモ我社會ニ於ケル勞者保護ノ必要ハ日ヲ逐ヒテ其度ヲ高メツツアリ而シテ其最有力ナル手段ハ實ニ此疾病保險ニ在リ之カ施設ノ官私ヲ問ハス吾人ノ速ニ其實現ヲ見ント欲スル所ニシテ傷害保險ト竝行兼營スルカ如キハ最便宜ヲ得タリト言ハサルヘカラス

## 第七章 家畜保險

家畜ハ運輸ト農事ニ必要ニシテ又吾人ノ被服食料ニ缺クヘカラス加之諸般ノ製造原料ニ大ナル補助ヲ與フル所ノ貴重ナル財産ナリ故ニ之カ保險ヲ行フコトハ農業ノ發達ヲ助ケ牧畜ノ隆盛ヲ招キ工業ヲ助長シ商業ヲ進歩セシメ且一朝國家ノ急ニ應セシムルニ有力ナル手段ナリ

歐米諸國ハ家畜ヲ利用スルノ盛ナル固ヨリ本邦ト同一ノ論ニアラス而シテ之ニ對スル疫癘ノ流行モ年ト共ニ増加スルノ傾向アルカ故ニ家畜保險ノ經營亦從テ盛ニシテ到ル處ニ會社ノ設立ヲ見ルト雖トモ其沿革ヲ討尋スレハ少カラサル困難ト變遷ヲ經過シ來レルナリ大古「ヘブル」隊商カ組合員ノ馬匹ヲ喪ヘル者ニ對シテ共同ノ填補ヲ行ヒタル事蹟ハ此保險ノ起源トモ言ツヘク又中世ノ「ギルド」ニ於テモ家畜保險ハ其有力ナル目的ノ一ナリシナリ千五百五十六年ニ發布セラレタル西班牙ノ保險條例中ニハ船舶上ノ家畜ニ關

スル特別ノ規定アリ海上保險ノ範圍ニ屬スヘキモノナリト雖トモ又家畜ヲ保護スルノ精神ヨリ出タルナリ然レトモ真正ナル保險事業ノ形態ヲ以テ之カ起リタルハ十八世紀ノ初頃ニシテ倫敦ニ於テ馬匹ノ死亡盜難及ヒ不具ニ對スル保險ヲ行フノ會社設立セラレタリト雖トモ幾モナクシテ廢業シ以後設立セラレタル同種ノモノニシテ今日其業務ヲ繼續セルモノ少カラサルモ而モ中途ニシテ挫折シタルモノ亦多シ是レ專ラ此事業ノ組織及ヒ經營ノ困難尋常ナラサルニ因ルナリ

獨逸ハ保險公立主義ノ國家トシテ諸聯邦ニ於テ國立家畜保險事業竝ニ地方的公共家畜保險組合ノ盛ナルト同時ニ民業會社ノ設立ヲ見ルコト少カラス皆相應ノ成績ヲ收メ得ルカ如シ然レトモ家畜保險モ亦疾病保險ノ如ク危険ノ計算頗ル困難ニシテ先ツ家畜ノ死亡疾病ニ關スル統計ヲ得ルコト難キ爲メ正確ナル保險料ヲ發見スルコト容易ナラス加之獸疫ノ發生ハ迅速ニシテ其流行急激ナルカ爲メニ屢有望ニ成立セル事業ヲシテ不意ニ倒産スルノ止

ムヲ得サルニ至ラシメ其他獸醫ノ缺乏詐欺ノ防禦法危險ノ監視等ニ關スル夥多ノ困難ヨリシテ大企畫ナル中央集權的營利事業ハ殆ント成立ノ望ナク寧ロ相互組織ニ依リテ地方地方ノ自治的經營ヲ行ハシメ之ヲ統轄シテ危險ノ分布ト經濟ノ共通ヲ掌ル所ノ中央機關ヲ備フルノ方法ヲ採ルヲ以テ最適當ナル處置ナリトス

本邦ニ於テモ明治二十六七年地方保險熱ノ時代ニ數箇ノ小保險會社ノ設立ヲ見タリ例ヘハ二十六年十一月愛媛縣ニ牛馬組合同盟合資會社二十七年二月大阪ニ家畜生命保險合資會社アリシカ如シ然レトモ皆幾モナクシテ廢業シ三十一年ノ頃東北地方ノ有力者カ稍完全ニシテ規模ノ大ナル家畜保險株式會社ヲ起サントセシモ中止シ三十四年ノ頃ニ東京ニ於テ同種ノ會社ヲ創立セント欲シ既ニ主務官廳ニ對シテ認可ヲ申請セシモ尙早ノ理由ヲ以テシテカ却下セラレタリ而シテ一方日進ノ産業ハ益此保險ノ必要ヲ促シ來リ頃者又之ヲ發起スル者二三アリト云ヘリ農民ノ重要ナル財産ヲ保護シ健全ナ

ル國民ノ養成ニ必要ナル乳牛食牛豚羊ノ繁殖ヲ得軍事輸送ニ必要ナル馬匹ノ改善發達ヲ圖リ竝ニ是等ヲ原料トスル所ノ獸皮被服地等ノ利用ヲ盛ニセサルヘカラサル我國ノ將來ハ決シテ家畜保險ノ問題ヲ等閑ニ付スヘカラス弊害多キ競馬事業ヲ公許獎勵シ之ニ保護ヲ加フルカ如キ極端ナル手段ヲ執リテマテ馬匹ノ改良ニ熱心ナルノ爲政者何ソ靜ニ顧ミテ此穩健ナル家畜保險ノ施設ニ想到セサルヤ(家畜保險ニ就テハ拙著保險論集附錄及ヒ保險雜誌第一一二號乃至第一一八號所載拙稿家畜保險アリ又津野獸醫學博士著家畜保險論ハ之ヲ專題トセル詳密ナル著述ナルヲ以テ參照ヲ乞フ)

## 第四編 政策論

### 第一章 保險政策ノ意義

保險制度ノ直接ノ目的カ天然人爲ノ災害ニ遭遇シタル不幸者ノ經濟的救濟ニ存シ間接ニハ管ニ其結果トシテ國家社會ニ不幸者ノ落魄ヲ減少セシムルノミナラス國民ノ知識ヲ向上セシメ德義ノ心性ヲ涵養シ進取ノ氣象ヲ發揮セシメ貯蓄ト勤勉ヲ獎勵シ社會ニ巨大ナル資本ヲ供シ社會ノ信用制度ヲ發達セシメ貧富ノ懸隔ヲ調和シ又社會ニ於ケル災害發生ノ防止ニ資スル等ノ偉大ナル效果ヲ有スルモノタルハ第二編ノ終ニ於テ縷説シタルカ如シ今日文明ノ邦國ニ於ケル政治家ハ皆此制度ノ偉大ナル效用ヲ認識シ之カ興廢ハ人民ノ幸福ニ影響スルコト甚大ニシテ之カ隆替ハ國家ノ繁榮ト離ルヘカラサル關係ヲ有スルモノタルヲ看破セルヲ以テ此制度ノ施設ト活動ヲ人民ノ自由ニ放任セス國家ノ權力ヲ以テ之カ助長ト監督ノ方法ヲ施セリ保險政策

ハ即チ此監督助長ノ程度ト手段方法竝ニ形式ヲ研究シ其弊害ヲ阻止シ其利益ヲ發揚シテ究極如何ニセハ最善ク人民總體ノ利益ト國家ノ福祉ヲ増進スルニ足ルヤヲ講スル所ノ學問ニシテ從來特ニ獨逸經濟學者ニ依リテ商業政策交通政策社會政策等ト相竝ヒテ應用經濟學中ノ經濟政策論ニ屬セシメラレタリト雖トモ本書ハ經濟學ノ立脚地ヨリ保險制度ニ對スル綜合的研究ヲ試ムルヲ目的トスルモノナルヲ以テ茲ニ一編ヲ設ケテ其梗概ヲ說示セント欲スルナリ

國家カ保險制度ニ對シテ探ルヘキ方針ニ自由主義ト強制主義ノ別アリ又公立主義ト私立主義ノ別アルコトハ曩ニ之ヲ述ヘタリ而シテ公立主義ニモ政府カ官僚組織ヲ以テ之ヲ行フト人民ノ自治體ヲシテ之ヲ行ハシムルノ別アリ官僚組織ニモ營利主義ト非營利主義アルヘク又保險ノ種類ニハ海上保險運送保險信用保險ノ如キ商賈的ノモノト火災保險生命保險病傷保險ノ如キ一般的ノモノトアリ而シテ是等ノ一般的保險ノ中ニモ例ヘハ工場製造原料

商品貨物ノ火災保險ノ如キ商賈的ノモノト住宅家具什器ノ保險ノ如キ社會的ノモノトアリ富者ノ利用スル生命保險ト貧者ノ爲メニ行ハルル生命保險トアリ傷害保險ニ就テモ職業傷害ノ保險ハ社會的性質ヲ有スルコト多シ是等ノ區別ヲ明ニシ其性質ニ由リテ國家ノ方策ヲ異ニスルハ即チ保險政策ノ問題ニシテ之ヲ綿密ニ研究スルトキハ紛糾錯綜容易ニ解決スヘカラス假ニ快刀ヲ揮ツテ其亂麻ヲ兩斷セハ即チ長短大小ノ無數ナル絲片ハ又拾收スル能ハサルニ至ラン故ニ予ハ只其大綱ヲ捉ヘテ一般方策ノ準則ヲ說カント欲スルノミ直チニ之ヲ以テ現實ナル社會狀態ニ應用スルヲ得サルハ無論ナリ

## 第二章 國家ノ保險其者ニ對シテ

### 執ルヘキ行動

#### 第一節 利益増進ノ方策

保險ノ實行カ國利民福ノ増進ニ對スル重要ナル勢力タルヲ認識スル以上ハ

國家ハ之カ普及ト繁榮ヲ圖ルカ爲メニ畫策スル所無カラサルヘカラス而シテ其方策ハ國民ノ知識教育及ヒ財力ノ程度ニ應シ又其實行ト普及ヲ盛ナラシメント欲スル所ノ保險ノ種類ニ由リテ異ナラサルヘカラスト雖トモ大體ニ於テ之ヲ三段ニ分タサルヘカラス

#### 第一 自由放任

保險ノ需要ヲ全ク人民ノ自然ナル發生ニ委スルモノニシテ人民カ衣食住ノ諸關係ヲ以テ生活ノ必需トスルカ如ク自ラ諸種ノ保險ヲ人生ノ必需トシテ之カ實行ノ方法ヲ發見スルニ勉ムルカ如キ例ヘハ英國民ノ如キニ對シテハ此方針モ亦可ナルヘシト雖トモ國家カ常ニ人民ノ先導ヲ爲シテ之ニ善事ヲ教エサルヘカラサル如キ社會ニ在リテハ漫ニ自由放任ヲ唱フヘカラス

#### 第二 獎勵保護

先ツ一般ニ保險思想ヲ普及セシムル手段トシテハ保險ノ教育ヲ盛ニシ之

カ専門的教課ハ勿論普通教育ニ於テモ能フ限リ此思想ヲ涵養スルノ方法ヲ採リ例ヘハ國定教科書中ニ倫理的經濟的商業的數學的方面ニ關スル保險ノ題目ヲ掲ケテ之ヲ説明スルカ如キハ根本的ノ獎勵法ナリ又法律ヲ制定シテ各人ノ保險料ニ充ツヘキ金額ヲ課税ノ標準額ヨリ控除スルヲ許シ遺族ノ利益ヲ保護スル爲メニ被保險者ノ債權者ニ保險金ノ差押ヲ禁スルカ如キモ有力ナル獎勵ノ道ニシテ又國家カ此事業ノ建設ヲ促ス爲メニ保護金ヲ與ヘ其信用ヲ確保スル爲メニ政府カ保證ヲ行フカ如キハ既ニ航海拓植等ノ事業ニ於テ其實例比比タリ現ニ明治十二年ニ創立セラレタル我東京海上保險會社ハ當初政府ノ保證ヲ得タリシナリ我國ノ現況ニ在リテハ少クトモ此程度ノ國家的施設ハ爭フヘカラサル必要ヲ見ルニモ拘ハラス爲政者ハ毫モ之ニ著目セサルナリ勿論曩ニ救濟組合ノ條下ニ述ヘタル如ク政府ノ營利的作業例ヘハ鐵道院專賣局等ニ於テ其使用人ノ傷害死亡及ヒ養老ノ保險的救濟ヲ行ヒ之ニ政府ノ補助金ヲ附與スルカ如キ局部的

ノ行動アリト雖トモ是レ固ヨリ保險ノ一般普及ニ著眼シタルニ非スシテ自家ノ職工ヲ保護スルノ動機ニ出タルモノナルヲ以テ姑ク之ヲ別種ノ問題トセサルヘカラス

### 第三 強制

強制主義ノ道理アルコトハ曩ニ其處ニ於テ之ヲ論シタルヲ以テ茲ニ再言セスト雖トモ如何ナル種類ノ保險ヲモ又如何ナル人民ノ階級ニ對シテモ強制ノ必要アリトハ決シテ主張セラルヘキニ非ス先ツ其保險ノ種類ニ就テ言ヘハ強制ハ社會的竝ニ國家的保險ノ範圍ニ限ルヘキモノニシテ社會的保險トハ前ニ説明シタルカ如ク資本家ニ對スル勞力社會ニ直接利益ヲ與フル所ノ保險ノ種類ニシテ例ヘハ勞働者ノ職業傷害死亡疾病廢疾老年等ヲ保險シ其衣服調度ノ如キ生活必需品ヲ火災ニ對シテ保險スルカ如キヲ謂ヒ國家的保險トハ國家ノ生存繁榮ニ直接重要ナル財產及ヒ產業ヲ保護スルノ目的ニ出ツルモノニシテ例ヘハ家畜保險農產物ノ收穫保險雹害



保險ノ如シ又ハ都府ノ要素タル公私ノ建物住宅ノ火災保險ノ如キ即チ之ナリ商賈的ノ保險ハ利益ニ敏キ商賈竝ニ資本家ニ關スルカ故ニ強制セストモ自ラ保險ヲ利用スヘク又富者モ之ト同シク縱令保險ヲ利用セストモ自力ニ依リテ災害ニ對抗スルヲ得ルヲ以テ之ヲ目的トスル保險ハ強制ノ必要ナシト言ハサルヘカラス生命保險ノ如キモ中流以上ノ人士ニ利用セラルル大額ナル生命保險ハ強制ノ必要ナク中流以下ノ人民就中勞働社會ニ適應スル所謂簡便生命保險ノ如キハ時トシテ強制ノ必要ヲ見ルナリ保險ノ強制ヲ受クヘキ社會階級ノ種類ハ上記ノ事項ヨリシテ之ヲ推知スルニ難カラサルヘク即チ知識ノ程度低ク財力又充分ナラスシテ放任ハ固ヨリ緩漫ナル獎勵ノ手段ヲ以テハ未タ之ヲ保險ノ利用ニ向ハシムル能ハサルカ如キ階級ニ限ルモノトス勞働社會ハ即チ之ニシテ獨逸ノ公的疾病傷害老年廢疾保險ハ一箇年ノ俸給收入二千馬克ヲ以テ限界トシ其以下ノ社會ニ之ヲ強制スルコトトセルナリ

強制ハ生活ノ最少限度ニ就テ行ハレサルヘカラサルハ無論ニシテ如何ニ保險カ人民ニ必要ナリトテ其必須ノ程度以上ニ之ヲ強制シ其資力ニ相應セサル負擔ヲ爲サシムルハ不當ナリ勞働保險ニ於テ通常收入額ヲ標準トシ其百分ノ三ヲ超過スル保險料ヲ強制スルヲ許ササルカ如キハ此趣旨ヨリ出ツルナリ

## 第二節 弊害防止ノ方策

保險制度ニハ偉大ナル效用アルト同時ニ又之ニ隨伴スル弊害尠カラズ國家カ極力之ヲ防止セサルトキハ保險ハ其害ヲ逞ウシテ却テ國家社會ヲ賊スルニ至ルコト曩ニ説述シタルカ如シ而シテ保險者ノ方面ニ發生スル害惡ヲ防止スルノ方策ハ即チ民業保險ニ對スル國家ノ監督ニ屬スル問題ナルカ故ニ別ニ之ヲ論スルコトトシ茲ニハ專ラ被保險者ノ方面ニ發生スル害惡ニ對スル方策ニ就テ説カント欲ス

被保險者カ不正手段ヲ以テ保險ノ利益ヲ獲取セント欲スル罪惡ニ對シテハ先ツ私法ノ關係上ヨリシテ其契約ヲ無効トシ或ハ保險金ノ請求權ヲ排却スルノ道アリ又明ニ之カ詐欺ノ意思ニ出テ或ハ社會ノ安寧秩序ヲ傷クルノ行動ニ走ルトキハ普通刑法上ノ制裁アリト雖トモ之ヲ以テシテハ未タ斯制度ノ特有ナル弊害ヲ防クコト能ハス是ニ於テカ特別ナル刑罰的制裁竝ニ警察的監督ノ必要ヲ生スルナリ然レトモ我國ノ如キハ最之ヲ閑却シ法律家モ政治家モ被保險者ハ皆善人ニシテ保險業者ノミ獨リ惡人ナリト思惟スル傾向アルカ如シ何ソ思ハサルノ甚シキヤ生命保險ニ於テ既往症ヲ隱蔽シテ加入スル如キハ滔滔タル天下皆然ルノ趣アリ火災保險ニ於テ罹災ヲ免レタル財產ヲ隱匿シテ之カ填補ヲ求ムル者亦然リ是等ハ詐欺ノ行爲ニ非スヤ況ンヤ放火シテ保險金ヲ獲ント欲スル者往往之ナキニ非サルヲヤ

泰西諸國ニ於テハ多クハ刑法中保險行爲ニ附隨セル犯罪ニ對シテ特別ナル規定ヲ設ケタリ例ヘハ獨逸刑法ハ第二百六十五條ニ於テ被保險物ニ放火シ

又ハ被保險船舶ヲ沈沒セシメタル者ヲ十年以下ノ懲役ト百五十馬克以上六千馬克以下ノ罰金ニ處シ又文書偽造ニ關スル罪ノ中ニ醫師カ保險會社ニ對シ虛偽ノ診查報狀ヲ作りタル場合及ヒ保險契約者カ之ヲ提出シタル場合ニ對シテ二年以下ノ禁錮ヲ擬セルカ如キ匈牙利露西亞北米加州及ヒ新育克州ニ於テ更ニ一步ヲ進メタルカ如キアリト雖トモ學者ハ皆未タ之ニ満足セサルカ如シ我國ニ於テハ改正刑法第百十五條ニ自己ノ所有ニ係ル物件ト雖トモ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シキ旨ヲ規定シ即チ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處スルコトトセルハ聊吾人ノ意ヲ強クスル所ナリト雖トモ未タ他ニ何等ノ規定ヲ見サルヲ遺憾トス

保險ニ關スル罪惡中最恐ルヘキハ被保險物破壊ノ罪ナルヲ以テ之ニ對シテ前記ノ制裁アルモ事後ノ制裁ヨリモ之ヲ豫防スルニ有力ナル規定ヲ設クルノ必要アリ即チ超過保險ヲ禁止シ且之ヲ處罰スルコトニシテ此種ノ罪惡ハ

殆ント超過保險ノ締結ヨリ來ルト言ハサルヘカラサルナリ超過保險ノ超過分カ無効ナルコトハ保險法ノ原則トシテ普ク認メラルル所ニシテ我商法ニモ第三百八十六條ニ其規定アリ又同第三百九十四條ニ當事者カ保險價額ヲ定メタル場合ト雖トモ事故發生ノ際保險者カ著シク其過當ナルコトヲ證明シタルトキハ填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ル旨規定セルモ共ニ被保險者ノ惡意ヲ防クノ效アルヘク又保險者カ共同保險約款ヲ設定シ獨逸諸聯邦ノ公共火災保險ニ於テ保險金額ハ査定員<sup>インスペクター</sup>ノ評價額ノ三分ノ二ヲ限度トスル旨ヲ定メタルカ如キ共ニ此弊害ヲ阻止セントスルノ手段ナリ然レトモ主トシテ民業保險ニ於テ營業者就中其社員代理人等カ契約金額ノ増嵩ト保險料收入ノ多額ナルヲ望ムカ爲メニ自ラ進ンテ不慎重ナル行動ヲ敢テシ超過保險ノ契約ヲ結フコト少カラス故ニ超過保險ノ締結ニ對シテハ獨リ私法上ノ制裁ヲ以テ足レリトセス警察力ヲ以テ之ヲ監視シ刑法ニ依リテ當事者ヲ處罰スルノ必要アリ普國ノ法律ニハ超過保險ヲ罰スルノ規定アリト云ヘリ火

災ニ關スル延燒危險ノ甚シキ我國ノ如キニアリテハ特ニ考究スヘキ問題ナリトス

### 第三章 國立保險

#### 第一節 保險國立ノ趨嚮

國家カ保險事業ノ經營ヲ全ク人民ノ手ニ委スヘキヤ將又自ラ進ンテ之ヲ其手ニ收ムヘキヤハ保險政策中ノ最解決シ難キ問題ニシテ殊ニ之カ往往世間ノ囂囂タル官業民業論ノ渦中ニ投セラレ冷靜ナル真理ノ探窮ト國家民衆ノ利益ヨリハ寧ロ個人ノ利害政治上ノ關係等ヲ本位トスル感情論ニ走ルノ虞多キ危險ナル問題ナリ然レトモ保險事業カ國家的社會的性質ヲ有スルテフ根據ヨリシテ之ヲ全然民業ニ委ネスシテ國家機關ノ作用ニ依リテ實行スル所アルヘシトノ議論ト計畫ハ常ニ識見アル學者ト勇氣アル政治家ニ依リテ提唱セラレツツアリ近代保險官營ノ嚆矢ハ蓋シ千八百六十四年英國ニ於テ

「グラッドストーン」氏ノ主唱ニ依リテ創始セラレタル郵便局營保險ナルヘク近時露國カ著著官業主義ヲ實行セント欲スルハ蓋シ其國權主義ト專制ノ思想ヨリ來リシナルヘク濠洲ノ英國殖民地「ニュージールランド」カ生命火災其他ノ保險ヲ國營ニセント欲スルハ蓋シ共和ノ思想ヨリ來レル國家社會主義ノ發現ナラン而シテ國家社會主義ノ本據タル獨逸竝ニ之カ系統ヲ傳ヘタル塊甸瑞西丁抹等ノ邦國ニ於テ公共保險主義カ多大ナル勞力ヲ有スルコト固ヨリ怪シムニ足ラス加之最近北米合衆國ニ於テスラ國立保險ヲ主張スル者發生スルニ至リ大統領候補者「ブライアン」氏モ其一人タルカ如キハ注目スヘキ現象ニシテ以テ公共保險ノ主義カ世界ノ各部ニ磅礴トシテ浮動セルヲ知ルヲ得ヘキナリ

我國ノ保險事業ハ曩ニ其沿革ヲ攷スルニ當リテ明ニシタルカ如ク創業ノ始ヨリ全ク民間有志者ノ發起ト經營ニ成リ多大ノ困難ヲ排シ數回ノ失敗ヲ重ネ遂ニ今日ノ發達ヲ致シテ一般社會ノ認識ヲ得ルニ至リシモノニシテ斯業開拓ノ功績ハ全ク之ヲ人民ニ歸セサルヘカラス政府ハ此事業ノ生存繁榮ニ缺クヘカラサル監督ヲモ二十年ノ久シキニ亘リテ實行セス漸クニシテ其法制ト機關ヲ設定シタル後ト雖トモ十年ノ長キ間果シテ善ク斯業ノ監督ト人民保護ノ職務ヲ盡シ得タリシヤヲ疑ハサルヲ得ス此ノ如キ狀態ハ我國ノ政治家カ此制度ノ國民經濟ト社會ノ安寧ニ至大ナル影響ヲ與フル所以ヲ覺ラスシテ今ニ至ルマテ之カ監督助長ノ方策ニ力ヲ用ヒサル大だ的不明ニ職由スルモノニシテ從テ保險國營ノ問題ノ如キハ彼等ノ夢想タニ爲ササリシ所ナリ勿論明治三十三年ノ初ニ當リ我遞信省ニ於テハ英國ノ先例ニ倣ヒ全國ニ於ケル郵便局ヲ利用シテ生命保險ノ事業ヲ開始セント欲セシコトアルモ一般政府部内ノ贊同ヲ得ル能ハスシテ息ミ又近頃大藏省ニ於テ是亦外國ニ倣ヒテ年金制度ノ實行ヲ企テタリト聞ケト是等ハ皆保險事業ニ依リテ國家人民ノ福利ヲ増進セント欲スルノ意志ヨリハ國民ノ財貨ヲ吸集シテ政府財政ノ運轉ニ資スル所アラシメントスルノ目的ニ傾ケルカ如シ而シテ民間當